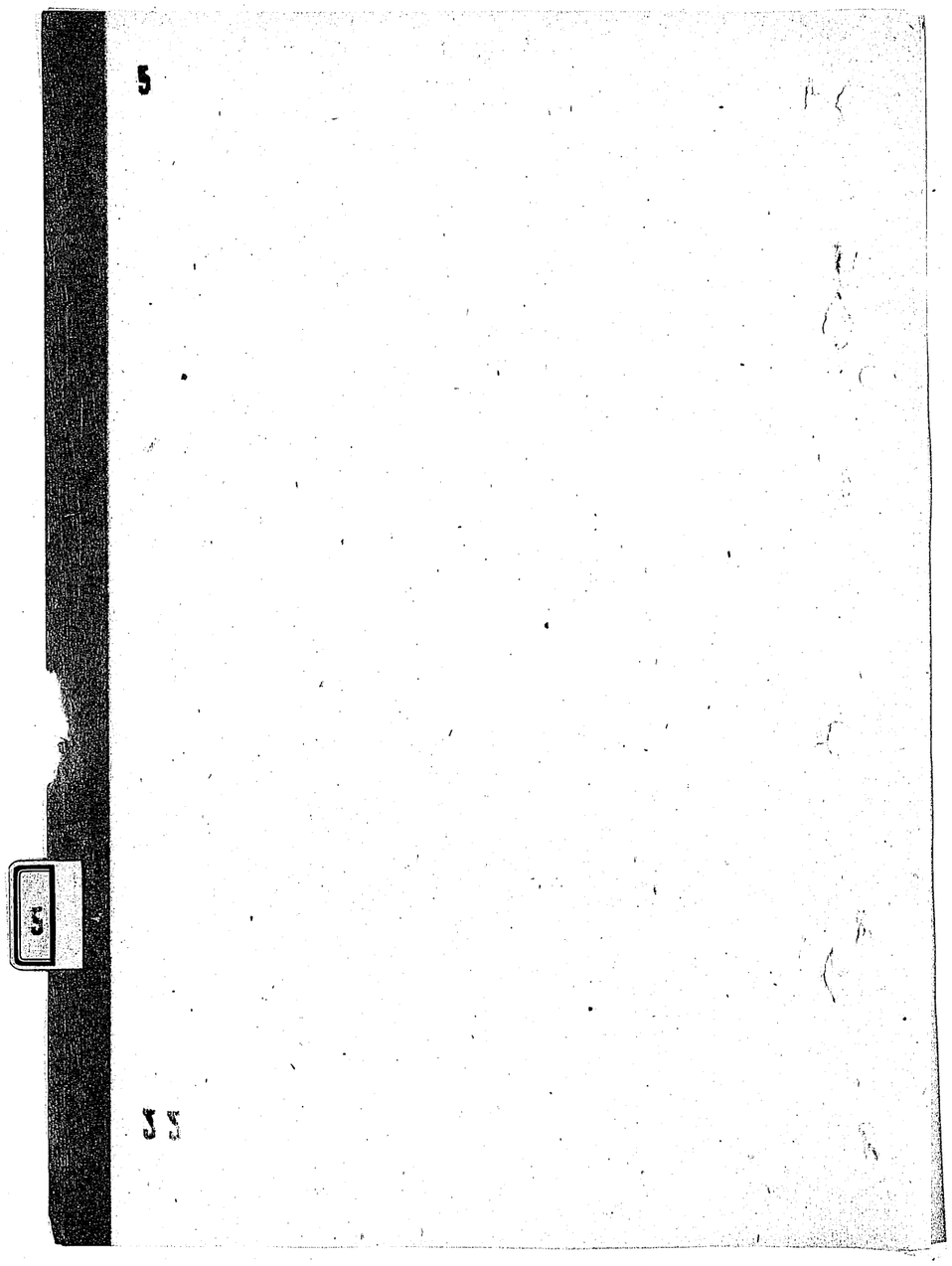


M-0396

0343

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

昭和18　五五一一〇　主管　南政

東條大東亞大臣事務管理　河內　四月十九日前發

本省　十九日後發

第四二二號（至急）

芳澤大使

（青木大臣旅行ノ件）

青木大臣一行本十九日午前九時四五分（佛印時間）到着セラレタリ

海口、廣東、廣東、西貢（大使府支部）「タイ」へ轉電セリ

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

極秘

次官

電信寫

昭和18、　五五〇九七　主管　南政（總々（人））

東條大東亞大臣事務管理　廣東　四月十八日前發

第四三六號（至急）　本省　十九日前着

（大臣動靜ノ件）

石川總領事

本官發河內大宛電報

第二九號（大至急）

青木大臣一行十八日午前九時廣東發ニ亞ニ向ヘリ

尙午前十一時同地着一泊ノ上十九日午前九時河內ヘ向フ豫定ナリ（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0344

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

m 2,2,0,4

昭和18　五五一一　暗　主管　南政（總總）（人）

東條大東亞大臣事務管理　廣東　四月十八日後發

第四三七號（至急）　本省　十八日後着

（大臣動靜）　石川總領事

往電第四三四號ニ關シ

十七日午后三時五五分大臣一行當地飛行場到着後(一)貴賓室ニ於テ出迎ノ陳廣東省長ト數分會談(二)廣東神社ヘ直行御參拜(三)總領事館ニ案内館署員ヘ同ヘ一五分訓辭ヲ與ヘラル(四)軍司令官ヲ官邸ニ往訪(五)「ホテル」ニ旅裝ヲ解カレ軍司令官參謀長ノ答訪ヲ受ケラレ纔談三十

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

極秘

電信寫

2

分（聯絡部長參加）(六)本官官邸ヘ御案内本官ニ二十分汕頭、澳門及廣州灣各領事各十分宛現地事情及館務一般報告(七)新聞記者團トノ會見十分(八)官邸晩餐各地領事ノ外參謀長海軍武官臨席懇談(九)「ホテル」ヘ歸着一泊(十)十五日七時四十分「ホテル」ヲ引揚ケ沙面ニ寄リ(十一)觀音山ニ登リ全市一望參謀長及本官夫々説明(十二)右ニ依リ一切ヲ終了九時軍司令官等ノ見送リヲ受ケ三亞向ケ出發セラレタリ（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0345

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

昭和18　五七一五　主管　南政（総総）（八）

東條大東亜大臣事務管理、　西貢　四月二十一日後発

第二一三號　（青木大臣一行動靜ノ件）　本省　二十一日夜着

青木大臣一行本二十一日午前十一時三十五分（佛印時間）到着セラレタリ、明二十二日午前八時盤谷へ向フ豫定（了）

大（東亜省）

規格—B5（東東3,195）

秘

電信寫

M 2,2,0,4

昭和18　五七〇三　主管　南政（総総）（八）

東條大東亜大臣事務管理ノ件（青木大臣旅程ノ件）

第四二五號（至急）　河内　四月二十一日前發

本省　二十一日後着

第三三四號（緊急）

芳澤大使

青木大臣一行二十一日午前八時（安南時間）空路貴地へ向ヘリ（了）

大（東亜省）

規格—B5（東東3,195）

M-0396

0346

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

昭和18　五七二三　主管　南政（總總一）

東條大東亞大臣事務管理ノ　略

第四三〇號（至急）

（大臣南方旅行ニ關スル件）

青木大臣一行出發後（二十一日午前九時（イ）大東亞大臣及佛印總督ノ共

同發明（別電第四三一號）（ロ）大東亞大臣談（ハ）總督主催晩餐席上大臣

竝ニ總督挨拶（ニ）及（ホ）ノ內容（二十一日發同盟電ノ通）ヲ發表セリ尚

當地新聞ニ掲スル發表振電ス

（了）

河內　四月二十一日後發

本省　二十二日前着

芳澤大使

大東亞省

規格—B5（東東3,195）

秘

電信寫

昭和18　五七七五　主管　南政

東條大東亞大臣事務管理

第三一七號

（大臣南方旅行ニ關スル件）

青木大臣一行二十一日十一時三十五分（現地時間）空路河內ヨリ當

地着飛行場ニテ本使、鈴木總領事、陸海軍司令官等ノ外佛印側ヨリ

交趾支那知事代理、當地日佛聯絡事務所長、部員、陸海軍參謀長等

ノ出迎ヘヲ受ケタル後直ニ本使邸ノ歡迎午餐會ニ臨ミ引續キ當支部

首腦部ヨリ事務報告ヲ受ケ午後三時交趾支那知事代理「ユファール」

西貢　四月二十二日後發

本省　二十二日後着

田代公使

大東亞省

規格—B5（東東3,195）

M-0396

0347

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

政務局長ノ訪問アリタリ

同三時半ヨリ大使府支部ニ於テ職員一同ニ訓示ヲ爲シタル後約一時間ニ亘リ西貢「ショロン」地區ヲ視察五時ヨリ邦人新聞記者會見ヲ行セタリ

一方陸海軍病院ニ對シテハ今井少將、谷岡大佐大臣代理トシテ慰問ヲ行セ六時半ヨリ本使邸ニ於テ陸海軍司令官、同武官等ト懇談ノ上引續キ本使主催晩餐會ニ臨ミタリ

二十二日午前八時八分（現地時間）空路盤谷ニ向ケ出發セリ

佛印大ヘ轉電セリ

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

秘

電信寫

分類 M 2, 2, 0, 4

第七二二號（緊急）

昭和18　五八六六

主管　總總（南政）

略

東條大東亞大臣事務管理

盤谷　四月二十三日前發

本省　二十三日後着

（「タイ」外相挨拶ニ關スル件）

二十二日「ヴィジット」外相主催晩餐會ニ於ケル外相挨拶同盟ヲシテ特情電報セシメタリ

（了）

井上大使

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0348

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

（分類）

主管　南政（總總）

昭和18　五九二二　暗

東條大東亞大臣事務管理　盤谷　四月二十四日後發

第七二六號　本省　二十五日前着

（青木大臣一行ニ關スル件）

坪上大使

青木大臣ハ二十三日午前「ピブン」首相ト一時間四十分ニ亙ル餘人ヲ混ベス天田書記官ノミ通譯ニ當リ隔意無キ懇談ヲ遂ケ更ニ午後「ウイジツト」外相ト本使同席（天田通譯）更ニ二時間ニ亙リ率直ナル會談ヲ遂ケラレタリ詳細追電スヘキモ不取敢（了）

大東亞省

規格—B5（東東3,105）

極秘

電信寫

主管　南政（總々）（人）

昭和18　五九五六　暗

東條大東亞大臣事務管理　盤谷　四月二十五日前發

第七三六號（大至急）　本省　二十五日後着

（青木大臣一行蘭貢向出發ノ件）

坪上大使

青木大臣一行ハ豫定通リ當地ニ於ケル行事ヲ終リ二十五日午前七時蘭貢ヘ向ヘリ

（了）

大東亞省

規格—B5（東東3,105）

M-0396

0349

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

分類 A.2.2.0.4

昭和18 五、九、七、九

東條大東亞大臣事務管理

第七三九號

（「ニコン」紙ノ「青木大臣歡迎ノ辭」ニ關スル件）

二十四日附當地「タイ」字紙「ニコン」（「タイ」側機關紙）ニ於テ「青木大臣歡迎ノ辭」ト題シ社說ヲ掲ケ居リタルカ其ノ要旨左ノ通

「タイ」側青木大臣ノ新聞記者ニ對スル「ステートメント」ト全面的ニ支持共鳴スルモノナリト冒頭シ記者會見ノ際大臣カ「タイ」人

主管 總總（南政）

盤谷 四月二十六日後發

本省 二十七日後着

坪上大使

大東亞省

規格一B5（東東 3,195）

M-0396

0350

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

ノ國家自由ニ對スル熱愛ヲ充分ニ理解セラレ居ルハ大臣ノ眼差ヲ見レハ明白ナリトテ好印象ヲ披瀝シ米英ノ壓迫排除ノ爲今次戰爭ニ於テ日「タイ」共同作戰ニ立チタルハ「タイ」國本來ノ覺醒ニシテ「タイ」國ノ自由獨立ヲ保持セントスルモノナルハ勿論日「タイ」兩國カ「エメラルド」佛陀ノ御前ニテ締結セル同盟ニ依リ兩國間ノ親善關係カ愈々增進セラレタルハ疑ヲ容レル餘地ナシトシ又大臣カ指導者ノ下ニ一致團結シテ盟邦日本ト同シ榮譽及自由獨立ノ爲戰ヒツツアル「タイ」國國民ノ決心ニ信頼セラレンコトヲ希望シ斯クスレハ如何ナル第三者モ相互理解竝ニ相互敬愛ノ念ヲ破壞シ得サルヘシト結論シ居レリ

（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

秘

主管 南政（總總）（人）

昭和18 五九八一 略 盤谷 四月二十六日後發
本省 二十七日夜着

東條大東亞大臣事務管理

坪上大使

第七四一號

（盤谷ニ於ケル青木大臣一行ノ動靜ニ關スル件）

當地ニ於ケル青木大臣一行動靜左ノ通

二十二日本使以下館員中村司令官兩武官在留邦人代表「タイ」側ヨリハ外相首相代理「チヤイタイイサ」儀典課長、日「タイ」協會代表其他ノ出迎裡ニ午前九時四〇分（「タイ」時間、以下同）「ドンムアン」飛行場到着「タイ」空軍儀仗兵ヲ閲兵小憩ノ後宿舍「パンタ

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0351

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

ミツト」邸（前「バンドムシン?」ヲ改名）ニ入リ十一時日「タイ?」記者ド會見「ステートメント」ヲ發表午餐ハ本使官邸ニ於テ館員ト共ニス午后二時本使同行當國守護佛「エメラルド」佛陀羅位牌王室記帳攝政府記帳ヲ終ヘ直ニ外相首相人民議會議長「パホン」中將ノ順ニ公式訪問ス（此ノ間館員ハ「タイ」側ノ案内ニテ各閣僚ニ名刺ヲ「届ク」）首相官邸ニ於テハ歡談二十分大臣白象一等今井參事官ニ同二等ノ敍勳アリ次テ戰捷紀念塔ニ獻花ヲ了セリ司令部ヲ訪問四時當館視閱館員ニ訓示後事務報告ヲ徵シ八時ヨリ外相主催晩餐會ニ臨ム出席者約七?十名ニシテ當館員及軍側ノ外「タイ」側ハ商務、農務、2工業、國防、文部ハ「ワニツト」、無任所ノ各大臣「ワンワイ」殿

在東亞省

丸格一B5（東東 3,195）

M-0396

0352

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

太東亞省

下等出席セリ二十三日午前ハ「ピブン」首相ト懇談約二時間次テ中村司令官主催ノ午餐會ヲ終(英靈奉安所參向午后二時半ヨリ約二時間外相ト懇談其ノ間隨員一行ハ事務打合ヲ行フ)五時本使主催園遊會(全員約二百名「タイ」側外交團、軍側、館員、在留邦人一部)ニ次テ八時ヨリ首相主催晩餐會(首相官邸)アリ各閣僚列席全員約八十名宴後「タイ」國古典竝ニ現代舞踏アリテ膳ヲ盡セリ

二十四日午前十時本使官邸ニ於テ陸海軍側ト打合セ本使竝ニ一部館員同席(管下各領事モ含ム)終テ日本國民學校視察午餐ハ「タイ」側ノ斡旋ニ依リ「メナム」河ニ船ヲ浮ヘテ興シ王宮、攝政府ニ別レノ記帳外相、首相ニ出發ノ名刺ヲ置キ午后四時本使官邸ニ於テ隨員

規格—B5 (東東 3,196)

M-0396

0353

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

大東亞省

ト館員トノ間ニ最後的事務打合ヲ了シ七時ヨリ青木大臣主催晩餐會ヲ開催ス列席者七十名（「タイ」側高官閣僚殆ト全員、司令官、陸海武官、在留民代表、館員一部）盛大ニ行ハル二十五日飛行場ニ赴ク途中「ワットプラシーマハタート」寺院ニ參拜午前七時首相代理、外相、儀典局長、司令官、陸海武官、本使竝ニ館員ノ見送裡ニ離盤、鴨路「ビルマ」ヘ向ヘリ（了）

規格—B5（東東 3,195）

秘

大東亞省

昭和18　六〇三九　四月二十七日後發
略　盤谷　二十七日後着
本省

東條大東亞大臣事務管理
第七五二號

坪上大使

主管　南收（總總）

（青木大臣、「ピブシ」首相間往復書翰ニ關スル件）

二十五日青木大臣離盤ニ際シ「ピブシ」首相ハ別電第七五三號ノ書翰ヲ寄セタルニ對シ別電第七五四號ノ謝辭ヲ送ラレタリ（了）

電信寫

M-0396

0354

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

M 2,2,0,4

主管 南政（總總）

昭和16 六〇一七 略

六〇三八

東條大東亞大臣事務管理 蘇谷・四月二十七日後發

第七五三號（別電） 本省 二十七日夜着

（「ビブン」首相ノ背木大臣宛暫翰）

大國閣下及御一行カ今「タイ」國及「バンタミツト」宿舍ヲ立タレル機會ニ臨ミマシテ自分ハ「タイ」人トシテ非常ニ名殘ヲ惜ムモノテアリマス何故ナラハ閣下ノ今回ノ「タイ」國訪問ハ非常ニ短時日テアツタ爲吾々ハ心カラ思フ存分ニ歡迎出來得ナカツタ爲テアリマス閣下カ現在及將來ニ於ケル「タイ」國ノ自主獨立ヲ強調サレマシ

大東亞省

秘

電信寫

タコトハ自分ヲ始メ全「タイ」人ニ非常ナ力添ヘヲ下サツタモノニアリマス閣下ハ大東亞省創設者トシテ其ノ成果ヲ充分收メラレタ今回ハ又「タイ」人カ最モ意義深キ前進ヲ開始スヘク大キナ希望ヲ與ヘラレタノテアリマス吾々「タイ」人ハ閣下ノ御名前ヲ永久ニ「タイ」國史ノ名譽トシテ刻ムモノテアリマス

只今閣下及御一行カ「タイ」國ヲ去ラレルニ臨ミ閣下及御一行カ無事ニ祖國ニ歸ラレ御多幸ニテ益々其ノ職務ニ御精勵アランコトヲ天地ノ神ニ祈リマス

昭和十八年四月二十五日

敬具

大東亞省

M-0396

0355

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

「サーマツキー、チヤイ」ニテ
「ビブン、ソンクラム」

敏雄スル
青木一男

閣下ノ

（了）

大東亞省

秘

電信寫

主管 南政（總總）

昭和18 六〇一六 略

盤谷 四月二十七日後發
本省 二十七日後着

坪上大使

東條大東亞大臣事務管理

第七五四號（別電）

（青木大臣ノ「ピブン」首相宛書翰）

拝啓只今私ノ出發ニ臨ミマシテ閣下ヨリ御懇篤ナル御書翰ヲ戴キマシテ感激ノ至リニ存シマス私ハ今回ノ貴國訪問ニ當リ閣下及閣下ノ政府ヨリ豫想セサリシ最高ノ御歓待ヲ辱フシ感謝ニ堪ヘマセン私個人トシテハ一生ノ思出トナリマセウ又公ニハ閣下ノ御熱意ノ程ヲ親シク窺フ機會ヲ得マシタコトハ日「タイ」國交ノ將來ニ貢獻スルコ

大東亞省

M-0396

0356

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

2

ト欽クナイテアラウト確信致シマス私ハ只今貴國ヲ去ルニ當リ謹シテ閣下ノ御健勝ヲ祈ルト共ニ「タイ」國國運隆昌ノ爲愈々御健闘アランコトヲ希望致シマス

昭和十八年四月二十五日

「タイ」國總理大臣
「ピブン、ソンクラム」閣下

青木一男

大東亞省

秘

電信寫

昭和18　六〇七四　略

主管　總總（南政）

東條大東亞大臣事務管理

第三二八號

（青木大臣訪印反響ニ關スル件）

二十二日附當地佛、安南語紙ハ第一回ニ共同「コミュニケ」竝ニ大臣一行當地滯在中ノ動靜等同盟及「オフイ」通信トシテ掲ケ河内發大臣宛電報第三四二號ト概ネ同樣ノ取扱振ヲナシ居ル處漢字紙新東亞報ハ青木大臣ノ東亞ノ認識ニ敬意ヲ表スルト共ニ大臣今回ノ來印ハ同シク東亞共榮圈内ニ有ル支那ト佛印ヲ綜合的ニ調整シ東亞共榮

西貢　四月二十八日後發
本省　二十八日後着

田代公使

大東亞省

規格一B5（東東 3,195）

M-0396

0359

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

秘

主管　總總（南政）

昭和18　六一四三　略

東條大東亞大臣事務管理　鑑谷　四月二十八日後發

第七六〇號　本省　二十九日前着

（青木大臣來「タイ」反響ノ件）

青木大臣來「タイ」ニ關スル新聞論調ハ隨時電報致シ置キタル通ナル處二十六日附當地英字紙「バンコク、クロニクル」ハ「南方諸地域ニ付テ」ト題スル社說ヲ掲ケ今次戰爭ニ於テ「タイ」國カ演シタル役割ノ如何ニ重大ナリシカヲ強調シ暗ニ「タイ」ノ偉大ナル功績ヲ讃ヘタルカ要旨左ノ通

大東亞省

規格—B5（東東3,195）

電信寫

圈建設モ理想ノ域ヲ脫シテ實踐ニ入リタルコトヲ示スモノナリトノ意味ノ社說ヲ掲ケ居レリ尙新聞切拔後送ス

河內大へ轉電セリ

大東亞省

規格—B5（東東3,195）

M-0396

0358

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

2

今次ノ南方諸地域訪問ニ依リ青木大臣ハ右各地ニ駐スル大東亜省所管行政諸問題ニ付テノ智識ヲ直接ニ得ルト共ニ大東亜諸民族カ「亜細亜人ノ亜細亜」建設ニ日本ト全面的ニ協力シツツアル實情ヲ知リ得タルノミナラス南方各地ニ於ケル軍官民カ共同一致敵ヲ撃滅スル迄戰ヒ抜ク共通ノ決心ヲ有シ居ル事實ヲ目ノ當リ見ラレタルモノナリト冒頭シ「ビルマ」比島ノ獨立問題、占領區域内ニ於ケル寛大政策及同地域内ノ日本官吏ノ誠實ナル態度ヲ賞揚シタル後日「タイ」「タイ」國ハ今ヤ他ノ亜細亜民族解放戰ニ於テ日本ト同等ノ與國トナリタルヲ以テ今次戰爭カ我方ノ勝利ニ終リタル時ハ「タイ」國ハ

大東亜省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0359

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

3

大東亞共榮圈建設ニ於テ日本ト同樣ノ偉大ナル發言權ヲ有スルニ至ルヘク今ヤ「タイ」國ハ日本ニトリ最有力ナル同盟國トナルヘキ次第ニシテ日本カ今日ノ如ク絕對不敗ノ態勢ヲ確立シ偉大ナル戰力トナルヘキ資源ヲ確保シタルハ「タイ」國ノ援助ニ依ルヘキモノナル旨ヲ強調シ最後ニ日「タイ」共同「コムミュニケ」ニ言及シ詳細亞ノ指導者達カ今回ノ如ク機會アル毎ニ會見シ諸問題ヲ檢討スルハ望マシキコトニシテ日「タイ」間ニ於テ今次戰爭ノ勝利ニ對スル確信ヲ再確認セルハ眞ニ「タイ」國民全體ニ活ヲ入レタルモノナリト結論セリ（全文時事週報ニ依リ御承知相成度）

河內大、西貢大ハ轉電セリ

太東亞省

規格—B5（東東 3,195）

極秘

主管 總々（南政）

昭和18 四月三十日後發

六二三九 盤谷 本省 五月一日前着

東條大東亞大臣專務管理

坪上大使

第七六九號ノ一

（青木大臣來「タイ」反響）

青木大臣來「タイ」ノ反響ニ關シ諸情報ヲ綜合スルニ現職大臣親シク「タイ」國ヲ訪問セラレタルハ「タイ」ノ地位ヲ重視セラレタル結果ナリトテ滿足シ居ル一方大臣カ如何ナル表示ヲナサルルカニ付テハ我內閣一部更迭ノ際ニモアリ最モ關心ヲ拂フト共ニ此ノ機會ニ日本ノ眞意ヲ確認スヘシトテ氣ヲ

太東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

太東亞省

規格一B5（東東 3,195）

極秘

電信寫

昭和18 六一七〇 暗 主管 總總（南政）

盤谷 四月三十日後發
本省 五月 一日前着

東條大東亞大臣事務管理 坪上大使

第七六九號ノ二

（青木大臣來「タイ」反響）

又大臣及「ピブン」首相トノ會談内容ニ對シ官邊筋ニ於テハ大臣ハ「タイ」國參戰ヲ稱ヘ日「タイ」親善ハ永久ニ變ラス「タイ」國ノ獨立主權ハ飽迄之ヲ尊重スルト共ニ日本ハ「タイ」ノ必要トスル物資モ出來得ル限リ供與スヘキヲ約スル等ノ話合アリタリトナシ居リ加フルニ青木大臣「ピ」首相會談ノアリタル翌二十四日各省官吏七

大東亞省

規格一B5（東東 3,195）

M-0396

0361

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

千名參加ノ運動會ニ於テ「ピ」首相カ「政府ヲ信頼シ一致團結日本ニ對シ協力スヘシ」ト訓示シ又二十五日陸海空軍合同文化行事ニ際シ「北西軍ノ軍力ヲ強化シ最後ノ勝利獲得ニ邁進セヨ」ト放送シ同日陸海空軍連合發表ノ形式ニテ「タイ」ノ軍民結束ヲ強調シタル放送等ヲモ合セ考察シ日本ニ對スル認識ヲ鮮明ニシ國力強化ニ勇氣付ラレタル如ク思料セラル（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

秘

電信寫

111.2.2.0.4

昭和18年 六三八〇 略

主管 南政（總總）

東條大東亞大臣事務管理

第七七九號 五月一日發

本省 二日前着

（青木大臣訪「タイ」ニ關スル「デリー」放送）

二十七日「デリー」「タイ」語放送

大東亞資產收取ノ親王青木氏ハ現在「タイ」國ニテ寶國奴運中ト共ニ策動中ナリ「ピブン」元帥「ビジット」外相「ワニット」大臣等ハ大盜賊人青木氏ノ氣嫌ヲ取結フ爲盛大ニ歡待セリ今回ノ青木大臣ノ訪「タイ」ハ「タイ」國ノ資材搾取カ目的ニシテ之カ爲日本ヲ嫌ヒ居

坪上大使

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0362

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

2

ル迄」殷ら「タイ」國人ヲシテ益々憤慨セシメタリ先頃ノ日本新聞公「特使
木大臣ハ「ビ」外相ニ對シ數ケ條ノ要求ヲ提示セリ」ト報道セリ又
「ビブン」ハ大盜賊人青木氏歡迎晩餐會席上ニ於テハ今回ノ青木大
臣ノ訪「タイ」ハ日「タイ」兩國ノ親善關係ヲ增進セシムルモノナ
リ」ト述ヘ自己モ青木氏ト（共犯）ナルコト暴露セリ盜賊青木氏ハ
日本占領地ニ於テ財貨ヲ掻拂フノミナラス「タイ」國ニ迄魔ノ手ヲ
延ハシ「タイ」國ノ財產ヲ日本ニ輸送セリ「タイ」國民諸君ハ既ニ
自由獨立財貨ヲ喪ヒ且戰場ニモ臨ミタルカ日本ハ之ニ滿足セス「ピ」
元帥ノ協力ヲ得テ尙益々「タイ」國ヲ壓迫シツツアリ（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

秘

閱了

Jul 2, 2 10 4

電信寫

主管（總總）（南政）

昭和18　六七一七　暗　綠谷　五月八日後發
本省　八日夜着

東條大東亞大臣事務管理

第八二八號

（青木大臣訪「タイ」ニ對スル「デリイ」放送）

五日ノ「デリイ」「タイ」語放送ハ青木大臣ノ訪「タイ」ニ言及セ
ルカ要旨左ノ通リ

綠谷情報ニ依レハ「タイ」人ノ「ピ」元帥ニ對スル反感カ現在
ニ至リ愈募リツツアルカ趣ナルカ右ハ「ピ」政權ノ無暴ナル日本側ヘノ
荷擔ニ基因スルハ勿論特ニ最近ノ青木大東亞資源蒐集首魁ノ訪「タ

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0363

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

秘

電信寫

イ」ニ對スル「タイ」國民ノ憂慮ヲ加ハリタル結果ニシテ青木大臣歡迎宴ニ於ケル日「タイ」巨頭相互間ノ御世辭ヨリハ「タイ」國將來ノ不吉ヲ豫想セラルルモノナリ

「タイ」人現在ノ心情ハ「ビ」ノ宣傳ニ拘ラス近キ將來ニ於ケル聯合軍ノ勝利ヲ期待シ居レリ（了）

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

秘

電信寫

M 2,2,0,4

昭和18　六八四九　主管　南（人）

略　發　五月十三日後發

本省　着　十四日前着

東條大東亞大臣事務管理　石井代理大使

第八五八號

（青木大臣訪「タイ」ニ關スル件

往電第七三六號ニ關シ

青木大臣訪「タイ」ニ際スル「タイ」側ノ配慮ニ對シ大使ヨリ謝意表明シ置キタルカ右ニ對シ十日附「ヴイ」外務大臣ヨリ青木大臣ノ訪「タイ」ニ依リ「タイ」國ノ各般ノ協力振リヲ見ラレ更ニ「ビ」首相竝ニ外相ト懇談セラレタル結果日「タイ」關係緊密化ニ貢獻ス

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0364

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

秘

2

ル所大ナルヘシトノ趣旨來翰アリタリ

本文空送ス

（了）

大東亞省

規格一B5（東東 3,195）

電信寫

M2.2.0.4

秘

昭和18、七、一四九

主管 南政

略

青木大東亞大臣

第八八三號（至急）

槻谷 本省 五月十八日後發 十九日前着

坪上大使

（青木大臣宛 祝電）

中村軍司令官ヨリ

御電任ヲ果シ御歸朝ノ段衷心ヨリ御祝詞申上ク

閣下ノ御來訪ニ依リ日「タイ」ノ親善及「ビ」政權ノ安定逐日顯著

ナルモノアルヲ認メ欣快ニ堪ヘス更メテ御在「タイ」中ノ御指導御

懇情ヲ謝ス（了）

大東亞省

規格一B5（東東 3,195）

M-0396

0365

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

M2,2,0,4

秘

昭和18　八〇六七

主管　南政（全）（總總）

青木大東亞大臣

略　盤谷　六月三日後發
本省　四日前着

第九八一號

（青木大臣ノ「ピ」首相宛禮狀ニ對スル「デリー」放送ニ關スル件）

坪上大使

往電第九八〇號ニ關シ

二日「デリー」ハ貴大臣ノ「ピ」首相宛禮狀ニ關シ大要左ノ如キ「タイ」語放送ヲ爲セリ

「タイ」國滯在中受ケタル優遇ニ付青木大東亞資源蒐集首魁カ「ピ」首相宛禮狀ヲ出シタルハ敢テ怪シムニ足ラナイ家財一切ヲ渡サレタ

大東亞省

規格—B5（東東 3,195）

M-0396

0366

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

2

ル上ニ饗應ヲ受ケタナラバ如何ニ盜賊ト雖モ謝意ヲ表明スルノガ當然デアルカラテアル

青木大臣ノ「タイ」國訪問ノ目的ハ太平洋ニ於テ擊沈セラレツツアル軍艦、船舶補充ノ爲ノ木造船建造資材トシテ「チーク」材ヲ伐採シ「タイ」國資源ヲ搾取スルト共ニ新軍事基地ヲ建設スルニアツタカ右ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ受クル程「ピ」首相ハ日本側ニ協力シテ居ルコトハ否定出來ス、斯クノ如キ指導者ノ政策ハ「タイ」國民ヲ奴隷化セシムルモノナルヲ以テ「タイ」人ハ「ピ」元帥ヲ支持スルコト無ク反亂ノ好機到來ヲ待ツヘキテアル

大東亞省

規格—B5（東東 3,105）

電信寫

分類 M.2.2.0.4

秘

昭和18　五九〇〇七　略

主管　支文（總）（總總）

青木大東亞大臣

上海　六月二十九日後發
本省　二十九日夜着

田尻公使

第一七〇三號

（敵性文書資料調査ノ爲事務官出張方ニ關スル件）

ノ

華中與亞資料研究所其ノ他ニ於テ保管中ノ敵性文書資料ニ付直接作業ノ

職遂行ニ資スヘキ資料ノ有無ヲ點檢スルコトトナリ近ク速ニ實施スヘキ處右援助ノ爲英語ニ堪能ナル少壯事務官二、三名ヲ本省又ハ外務省ヨリ往復約二週間ノ豫定ヲ以テ出張セシメラレ度シ

外務大臣ヘ意見アリタシ

（丁）

大東亞省

規格—B5

M-0396

0367

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

沼辺技師

極秘

27

昭和十八年十二月

鮮満支出張報告書

総務局

鴨崎事務官

17.2.2032

小官大本営参謀野尻中佐ニ随行シ十月二日ヨリ十一月六日迄三十六日間ニ亘リ朝鮮、満洲、北支、蒙疆、中支ノ製鉄及「アルミ」事業視察ノ為出張致候処其ノ折見聞シタル一般的事項ニ付別紙報告書作成仕候條ご御報告候

尚視察工ノ現状ニ關スル詳細ニ付テハ別途改メテ御報告申上ゲル豫定ニ有之候

M-0396

0368

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

目次

第一篇　朝鮮

第一章　朝鮮ノ思想問題　一一―一二六
第二章　朝鮮ノ鉄道事業　一一七―一一六
第三章　朝鮮ニ於ケル鉄鋼石ノ増産　九一―一一〇
第四章　朝鮮ノ非鉄金属及非金属鉱物等　一一一―一一五
第五章　朝鮮ニ於ケル鉄道輸送状況　一一六―一二〇
第六章　朝鮮ニ於ケル港湾能力拡充　一二一―一二三
第七章　朝鮮ノ労務状況　一二四―一二六

第二篇　満洲

第一章　満洲ノ資材需給ヨリ見タル満洲経済ノ動向　一二七―一八〇
第二章　満洲ノ製鉄事業　一八一―一二八
第三章　満洲ノ液体燃料製造事業　一二九―一三四
第四章　満洲ノ非鉄金属及非金属鉱物等　一三五―一四一
第五章　満洲ノ「アルミ」事業　一四二―一四四
第六章　満洲ノ「マグネ」事業　一四五―一四六
第七章　満洲ノ石炭事業　一四七―一五二
第八章　満洲ノ石油事業　一五三―一五五
第九章　満洲ノ木材事業　一五六―一五八
第十章　満洲ノ水力電気事業　一五九―一六一
第十一章　満洲ノ食糧事情　一六二―一六五
第十二章　満洲ノ鉄道輸送状況　一六六―一六七
第十三章　満洲ノ労務状況　一六八―一七一
第十四章　満系資本ノ利用　一七二―一七三
第十五章　満洲ノ物資　一七四―一七九
第十六章　関東州ニ於ケル重要事業　一八〇―一八一

第三篇　北支

第一章　概括的問題　一一七―一八三

（頁）

M-0396

0369

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第二章　八路軍ノ狀況　八四ー九三
第三章　北支ニ於ケル物資ノ生産狀況　九四ー一〇四
第四章　北支ノ食糧事情　一〇五ー一〇九
第五章　蘇滿移管問題　一一〇ー一一二
第六章　北支ニ於ケル物資ノ蒐買及價格　一一三ー一一五
第七章　北支ノ交易　一一六ー一一七
第八章　北支ノ輸送狀況　一一八ー一一九
第九章　北支ノ電力事業　一二〇ー一二二
第十章　山西省概況　一二三ー一二七
第四篇　蒙疆　一二八ー一三三
第一章　蒙疆ノ資源　一二四ー一二五
第二章　蒙疆ノ食糧　一三五ー一三六
第三章　蒙疆ノ物價　一三七
第四章　蒙疆ノ電力　一三八ー一四七
第五章　蒙疆ノ電力　一四八ー一五九
第五篇　中支　一六〇ー一六一
第一章　中支ニ於ケル諸物資ノ生産及蒐買狀況　一六二ー一六四
第二章　上海ノ輕工業ト其ノ原材料不足狀況　一六五ー一六七
第三章　支那綿糸布買上ノ影響　一六八ー一七二
第四章　支那ノ鐵道輸送　一七三ー一七六
第五章　中支ノ水運　一七七ー一七八
第六篇　雜感　一七九ー一八〇

M-0396
0370
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第一篇　朝鮮

第一章　朝鮮ノ思想問題

朝鮮ニ於ケル思想問題ヲ考フル場合ニハ先ヅ半島人自身ノ思想傾向ヨリモ内地ノ朝鮮ニ對スル影響力ニ重點ヲ置キテ考察セザルベカラズ例ヘバ歐洲大戰後ノ民族自決主義ガ内地ニ於テ昭和七八年頃共産黨活動化スルヤ數年遲レテ朝鮮ニモ同種ノ運動盛トナリタルコト、内地ニ留學セル半島人ガ矢内原教授ノ殖民政策ノ講義等ニ依リ日本ノ政策ハ帝國主義的ナリト考ヘタル如キ枚擧ニ遑アラズ

内鮮一体化ノ閣議決定行ハレ小磯總督ノ國体明徴、道義朝鮮、皇國臣民化運動ハ着々進展シツツアリ、半島人ヲシテ皇國臣民トシテノ自覺ト責任トヲ果セシメント努メツツアルガ大東亞ノ民族指導ニ當ル内地人トシテモ從來ノ頭ヲ切換ヘ指導ノ任ニ當ル樣心掛クル必要アリ

(一)　元ゾ(一三日本ガ物心兩面ニ強マルコト先決ニシテビクビクセズ自信ヲ持タザルベカラズ之ニ反シ内地ガ敗戰的トナリ、腰クダケスル場合ニハ半島人モ昏迷スルコト明ナリ

尤モ單ナル權力主義ニテ壓服セントスル方策ハ誤ニシテ例ヘバ獨逸ガ權力即正義ナリトシ、「ナチス」ハ「ゲルマン」民族革命遂行ノ爲ニ存スト考フル爲個体感及他民族ニ對スル對立感ヲ揚棄シ得ズ占領地行政ニ失敗シツツアル箇所アル處我々ハ此ノ轍ヲ覆マザルノ注意ナカルベカラズ

M-0396

0371

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(二)内地人ノ搾取主義的考ヘ方ヲ改メ半島人ヲ育テ上ゲル氣持ニナルコト必要ニシテ軍ニ半島人ヲ利用スルト言フニ止マラバ到底良キ結果ヲ擧ダルコトヲ得ズ、朝鮮ニ進出スル内地人ノ會社員及一旗組ノ出稼根性ヲ改メザレバ半島人ノ對立感ヲ除去シ得ザルベシ、半島人ガ事業ニ成功シ料理屋ニ出入スルコトニ對スル内地人ノ不平ノ如キハ未ダ頭ノ切換ラレザル證據ナリ)

(三)半島人ヲ眞劍ニ訓練シ且卒直ニ敎ヘテヤル事必要ナリ、半島人ハ人ノ言動ノ裏ヲ察スル人ハ却ツテ卒直ニ物ヲ言ヒ惡イコトハ惡イト言フ方ガ可ナリ半島青年中ニハ徵兵制ノ布カルル以上參政權ヲ與フベシトシテ半島勞力ノ生産擴充ニ占ムル地位ニ自信ヲ得從來ノ壓迫ヲ痲ヒノケ内鮮人ノ區別ニ不滿ヲ持ツ者アリ

「ビルマ」、「フイリツピン」ノ獨立ヲ聞キ若干ノ影響ナキニシモ非ザルモ獨立ノ持ツ意味及可能性ヲ歷史的ニ考察セヨト說キキ

三

カシ日本人ニ離ケ込ム事コソ世界ノ指導民族トナル所以ナリト說明セル結果半島ノ有力ナル指導者ハ之ニ賛成シ對立感ヲ持ツ分子ヲ導キツツアリ、思想犯ノ收容所タル大和塾ノ狀況ヨリ見ルモ半島人ノ思想問題ハ特ニ心配スベキモノナシトノ結論ナリ

朝鮮ニ長ク滯在セル内地人ハ半島人ガ怠惰、意志薄弱、事大主義ナルコト、不清潔等ノ點ヨリシテ變想ヲツカシ居リ半島人ノ年寄リハ實際斯カル缺點ヲ有スル者多キモ最近ニ於ケル青少年ニ對スル訓練ノ結果ニ徵スルニ訓育指導ニシテ誤リナケレバ充分今後ノ成果ニ期待ヲ持チ得ルノ自信ヲ得タリ尤モ知的敎育ニ惰セズ精神訓練ニ重點ヲ置クヲ要ス、仁川逓兵敵ニ於テハ内鮮人双方ノ少年ヲ集メ軍隊式訓練ヲ行ヒ居ル處成績良好ナリ

半島人ハ長年ノ搾取ノ結果金持ニ小サナ家ニ入リ金ヲ入手スレバ直ニ消費シ貯蓄心ヲ有セズ勞務者モ内地人ノ半分程度ノ能率ナルモ今後ノ訓練ニ依リ逐次之ヲ向上セシメサルベカラズ、鮮内ニ於テモ勞務管理ノ行屆キタル所ト然ラザル所トニテハ大ナル差ヲ生ジ居リ地位ニ安ンジ管理ヲマカス事無ク敵愾心ヲ以テ

M-0396
0372
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

貫海水電ト水豐ダムトノ比較）内地ニ勞務者ヲ連レ行ク際ニモ二三ヶ月ノ訓練ヲ行フヲ可トス（本年内地（約六十五萬人ヲ送ル計畫ナリ）

(四) 徵兵制度ノ施行

內鮮一体化ノ方針ニ基キ朝鮮人中ノ優秀分子ヲ選ビテ訓練ヲ行ヒタリ、尙下士官ニハ敎導學校ヲ設ケ上等兵ニ進メル者モアリ隊ヨリノ歸還者ガ一般人ニ及ボセル影響大ニシテ半島人ノ素質向上ニ貢獻セル處大ナリキ今回徵兵制度ヲ布クコトトナリタル處徵兵忌避ノ風ハアマリ聽取セラレズ中ニハ女ト屆出デ或ハ年ヨリ若ク屆出ヅル者モアルモ內地ニ於テモ明治初年ニ長男ハ徵兵ヲ免レ得タル爲ニ故意ニ養子トナル者アリタルコトヲ思ヒ合スレバ別ニ心配スル程ノ現象ニ非ズ

徵兵制度ノ結果軍隊敎育ヲ受ケタル者ガ除隊トナレバ其ノ一般人ニ及ボス影響長カルベキモ半島人ハ少シ偉クナルトスダ威張ル傾向アルヲ以テ此ノ點戒心ヲ要ス

入隊者ニ對シテハ特別隊成所ヲ設ケ入隊二ケ月前ノ訓練及國語ヲ行フコトトナリタリ

(五) 滿洲ニオル半島人ノ地位ヲ見ルニ滿洲ハ五族協和ヲ目標トスルヲ以テ主力タル滿人ヲ犧牲ニシテ半島人ヲタテルコトハ主義上ナシ得ザルコトナルノミナラズ、朝鮮ノ統治ニ不滿ナル爲ニ滿洲ニ逃避セル如キ不良分子モ多ク奉天ノ諸工場ニテハ滿系ト鮮系ノ双方ヲ使用スル處ハ少シ、又半島人ハ滿人ニ對シテ日本人ナリト稱シテ威張ツタリ、米ノ配給ニ付內地人ト同一量ヲ要求スル等厄介ナル問題ヲ起シツツアリ、間島省ノ如キハ永年ノ滿系トノ軋轢アリタル地ナレバ今後尙當分ノ間兩者ノ融合ハ困難ナルベシ

M-0396

0393

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第二章　朝鮮ノ製鐵事業

(1) 清津ノ三菱製鐵ノ「ルツベ」ハ十六年度ニ四基完成シ公稱能力三萬瓲ナルモ第二次計畫トシテ四基建設スルコトトナリ中二基ハ近ク完成スヘク本年度目標ハ七萬八千瓲ナリ、(製鋼用鐵)ノ「ルツベ」ハ炭素分ヨリ見テ鋼ニ近キ性質ヲ有シ層鐵代用ヲ目的トス

(2) 清津ノ日鐵ハ本年度銑鐵二十七萬瓲ヲ生産ス

(3) 城津ノ高周波ハ現在ハ實ハ低周波ニ轉換シ居リテ特殊鋼二萬五千瓲余ヲ生産ス、城津ノ外ニ清津ニ別會社ヲ作ルコトトナリ目下計畫中ナリ

(4) 電氣銑ハ左ノ二工場アリ

(イ) 三菱製鐵ノ降仙工場（平壤ト鎭南浦トノ仲間）ハ本年十一月火入ノ豫定ニテ十五瓲ノ電氣爐二基ヲ以テ中空鋼六千瓲及鍛鍊鋼二千瓲ヲ生産スル豫定ナリ、右事業ノ擴張ニ必要ナル電極ノ入手困難ナル爲開始遲延セリ

(ロ) 朝鮮製鋼會社ハ本年度電氣銑六千瓲ヲ生産ス

(5) 小型熔鑛爐

朝鮮ニ七十五基ノ小型熔鑛爐ヲ建設シ朝鮮ノ無煙炭ヲ利用シテ操業スルコトトナリタルガ

(イ) 叙二浦ハ十基建設セラレ七基火入濟ノモノハ十二基アリ

(ロ) 清津ハ六基完成シ四本火入濟

(ハ) 日本無煙炭製鐵會社ハ海州ニ二基建設シ一基火入濟、南浦ニ二基計畫中

今後ハ「コークス」三割無煙炭七割ト新度キモ未ダ此ノ目標ニハ到達シ得ズ大部分「コークス」ヲ利用セザルヲ得ザル狀況ナリ

M-0396
0374
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三章　朝鮮ニ於ケル鐵鑛石ノ增產

屑鐵輸入停止ニ對應シ朝鮮ニ於テモ昭和十五年以來鐵鑛石ノ大增產ヲ行ヒツヽアル處南方ヨリノ良品位鑛輸入圓滑トナリタル爲一時ハ茂山ニ於テ數萬瓲ノ「ストック」ヲ生ジ內地ニハ焼結能力不足ノ爲消化ニ困難ヲ來シタルコトアリ

昨年度朝鮮ノ配給實績ハ二百三十万瓲ニシテ本年度物動計畫ハ三百五万瓲ナルガ明年度ハ五百五十九万瓲（鮮內需要三百万瓲內地向二百五十九万瓲）ノ要求ナリ（五百五十九万瓲中本年度ヨリノ繰越二十万瓲アリ）尤モ輸送力ヲ基礎トセル數字トシテハ四百七十七万瓲ナリシガ鑛上高不足ノ狀況ニ鑑ミ十月始ニ至リ增加方中央ヨリ要請アリタルモノナリ、右ノ數量ハ將來ノ一トヲ考慮セズシテ此ノ二三年ノコトノミヲ目途トセバ間ネ採掘可能ト見込ニシテ此ノ場合茂山ヨリ二百万瓲、鐵寧及下聖ヨリ百二十万瓲ヲ期待スルコトトナル

黃海道ノ下聖及鐵寧ノ鐵鑛石ハ日鐵及三菱ニ需要セラルル處現在私鐵鑛經ベニシテ焼ケナルヲ以テ今後ノ增產ニ支障アリ之ヲ鮮鐵ニ買收シテ鑛軌ニ改良スルコトハ喫緊ノ要務ニ屬シ通常議會ニハ法案ノ提提出ヲ見ルベシ黃海線ハ無煙炭、石灰石及分州セメントノ輸送ノ點ヨリ見ルモ產業的價値大ナルモノヂリ

日本海經由ノ對內地輸送ハ氣比丸事件以來稍減少シ居リタルモ明年度鐵鑛石ノ日本海經由輸送ハ百八十七万瓲ニ及ブベク相當ノ增加ヲ示スコトトナルベシ（茂山ヨリ百二十七万瓲、利原附近ヨリ三十万瓲——利原ヨリ二十万瓲、遮湖ヨリ十万瓲——雄山ヨリ雄陽分十万瓲、海州ヨリ二十万瓲）

M-0396

0375

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

四　鑛物等

(1) 銅ハ日本全体ノ一割ニモ達セズ少量ナリ

(2) 鉛ハ昨年ノ倍タル二万噸ヲ出ス豫定ナル處製錬ガ採掘ニ伴ハズ改良ヲ要ス

(3) 亞鉛ハ鉛ニ伴ヒテ出ルモ製錬之ニ伴ハズ本年度末ノ鑛石「ストツク」ハ四万噸ニ上ルベシ

(4) 特殊鋼製鑛石

(イ)「タングステン」ハ本年六千噸以上ヲ産ス

(ロ)「モリブデン」ハ本年五百五十噸ヲ産スベシ

(ハ)「マンガン」鑛ハ輿地ニ産スル爲メ送困難ニシテ鮮内需要ヲ充スノミ

(ニ)「ニツケル」ハ比較的高品位ノモノヲ産ジ輿南ニ於テ「ニツケル」銅「マツト」（年産二十噸）ヲ作リタル上内地ニ移シ住友及古河ニテ脫銅ス

(ホ)「コバルト」ハ「スパイス」トナシタル上金澤ニ送リ居リ

(5) 螢石

本年四万八千噸計畫ナルモ七万噸迄産出可能ナリ、京城附近ノ長端ニ富鑛アリテ其ノ中半分以上ハ九十三%ナルガ露天堀ニテ採掘ス

鮮内ニハ浮洗設備三箇所アリ

現在對日貯鑛五千噸ヲ有ス

(6) 雲母

航空關係ノ必需品ナルガ不足資源ナリ、本年百噸ヲ産ス

(7) 石綿

本年四千噸ヲ産スルモ短纖維多シ、鮮内ニテ製品迄製造ス

(8) 黑鉛

電極用及「ルツボ」用ニ使用スベク本年ハ物動計畫ノ半分シカ實績ナク最モ成績惡キ品目ナリ

M-0396

0396

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(9) 硼砂原鑛

若干産出ス、硼砂ニスル工場アリ。

(10) 有原素

(イ) 太安附近ノ銀谷鑛山ハモト金山ナリシモ「タンタロム」ノ鉛頭アリ、右ハ風化ノ殘ニシテ大部分ハ河ヤ海ニ出タル爲河ニハ砂鑛ヲ存ス

(ロ) 京元沿線鐵原附近ノ金谷ニアル丹綠鑛山ハモト金山ナリシガ今ハ住友系ニテ「タンタロム」ヲ採掘中ナリ

(ハ) 城津ノ手前ノ双龍鑛山ハ「ジルコン」ヲ産シ砂鑛ニ非ズシテ結晶ナル爲選鑛ニ便ナリ、日本「マネサイト」工業ガ擔當シ居ルガ「フエロ・ジルコン」ノ製鍊ヲモ爲スベク研究中ナリ「タンタロム」ハ眞空管ノ板ニナルモ「ジルコン」ハ其ノ代用トシテ眞空管ニ吹付ケラル、又「フエロ・ジルコン」ハ薄クテ堅キモノヲ作ルコト可能ナルヲ以テ工具ニ使用セバ其ノ壽命ヲ長ク

ス

(ニ) 外金剛ノ巨津ノ海中ニ「ジルコン」アリ、波ニ洗ハレテ少量砂中ニ存ス、

(ホ) 丹陽ニハ鹽化「リチウム」アリ、輕金屬ノ鎔接ニ使用セラル

(ヘ) 平安北道ノ鐵山ニハ「セリウム」「トリウム」「ネオジウム」ヲ産ス、

(ト) 品川白煉瓦ノ原料トシテ又人石及製鐵ニ使用セラルル藍晶石モ朝鮮ニ産ス、耐火度三十七番ナリ

(チ) 希有元素ハ右記ノ如キ現狀ニテ微量ニ止マリタル處今回中央線（釜山、慶州、安東、京城ノ線）ノ安東附近ノ豐基ニ於テ「ジルコン」「モナズ」石（セリウム含有）ノ大富鑛發見セラレ採取ニ便ナルヲ以テ大イニ囑望セラレ居リ

(リ) セメント

セメント生産ハ勝利里、川内里及馬洞ノ合計ニテ百三十五萬樽ヲ生産アリ

M-0396

0377

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

備考　昭和十七年度物動計畫ニ於テ朝鮮ノ占ムル地位ヲ示セバ左ノ
ナリ

タングステン	一	八三・三	%
モリブデン	一	七四・一	%
コバルト	一	一〇〇	%
雲母	一	一〇〇	%
黒鉛	一	一〇〇	%
石綿	一	九六・八	%
石營	一	六二・二	%
砂鐵	一	一〇〇	%
棚原鑛	一	一〇〇	%

第五章　朝鮮ニ於ケル鐵道輸送狀況

一、輸送規正

朝鮮ノ鐵道輸送ハ從來鮮內輸送及軍事輸送ニ限ラレ貨物量比較的少カリシ處本年度ハ一般貨物ニ付三四、八三〇千瓲ノ輸送要求アリテ昨年度實績二五、四〇〇千瓲ニ比シ九四三〇千瓲ノ增加ナルノミナラズ北支蒙疆トノ間ニ二、二七〇千瓲ノ輸送要求アルヲ以テ大規模ノ規正ヲ要スルコトトナリタリ、右ノ內大陸輸送物資ハ新義州釜山間九五〇〇粁ヲ輸送スルヲ以テ一般貨物ノ平均ガ二百四五十粁ナルニ比シ四倍ノ足ヲ要スルコトトナル卽チ二、二七〇千瓲ハ一般貨物九百萬瓲ノ增ニ當リ實質的ニハ莫大ナル輸送要求ノ增加ヲ意味ス

以上ノ結果本年ハ昨年ノ走行料ニ比シ旅客ハ二六%減貨物ハ三五%增加トナルモ在來ノ鮮內貨物ハ三四、八三〇千瓲ノ要求ニ對シ九百萬瓲ヲ輸送シ得ルニ止マルコトトナル

輸送總瓲數ヨリ云ヘバ過去十年間ニ旅客ハ倍半貨物ハ四倍ニ增加

M-0396
0378
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

セルノミナラズ貨物ニ於テモ朝鮮ノ農業國ヨリ工業國ヘノ發展ヲ反映
鑛石石炭ノ輸送最大ナリ（昭和九年ハ農産物最大ナリキ）

(1) 旅客列車ノ削減

旅客列車ト貨物列車ノ比率ハ左ノ如ク變化シツツアリ

	旅客 %	貨物 %
昨年十二月時間改正以前	50	50
昨年十二月時間改正	45	55
本年一月時間改正	31	69
本年四月時間改正	28	72
本年十月時間改正	23	77

(2) 聯結車輛ノ改正

急激ナル列車回數ノ增加ナルヲ以テ輸送轉換貨物ニ付テハ一機關ニ對シ十聯ヲ超ヒ普通貨物ハ二十四輛ヲ三十八輛ニ增加シ線路容

ノ增加ヲ企圖シ居リ

(3) 附帶施設ノ擴充

鮮內ノ機關車修繕施設、從業員ノ宿舍等ハ從來不充分ナリシ爲諸種ノ支障アリ、例ヘバ內地及滿洲ヨリ車輛ヲ借入ルルモ修繕不能ノ爲完全ニ利用シ得ザル憾アルヲ以テ急速補強中ナリ（現在朝鮮ニテ使用中ノ車輛ノ半數ハ內地及滿洲ヨリノ借物ナリ）

二、各線ノ建設及輸送狀況

(1) 京釜、京義線ノ複線化

從來滿洲側ニ於テモ滿鐵ノ大連集中主義ノ爲安奉線ハ輕視セラレ居リタルガ最近ノ情勢ニ鑑ミ安奉線複線工事ハ急速進行中ニシテ明年六月完成ノ豫定ナリ、之ニ比シ釜山新義州間ノ工事ハ釜山三浪津間ノ完成及京城太田間ノ電氣信號機完成セルノミニテ十九年三月迄ニ全線ノ六割三分ヲ複線化シ二十年三月迄ニ完成シ得ル線資材（鐵材十一萬噸餘）ヲ中央ニ要求中ナリ

M-0396

0379

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(2) 京元線及咸鏡線

京釜京義線ハ大資源ナキ爲大陸輸送轉換迄ハ輸送貨物少ナカリシニ反シ京元線及咸鏡線ハ無煙炭及木材等ノ輸送多ク從來ハ鮮內ノ半ヶ茂山ノ鐵鑛石ノ清津ヘノ輸送、利原鐵鑛石ノ貨物ヲ運ビ居リタリ茂山輸送吉州以北ノ半分ヨリ出ル褐炭ノ南送、密山豪ノ南送、木ノ南送等頗ル敏捷ナリ、咸鏡線ハ全長八百粁中最險路ニ百四十粁ヲ複線化セルノミナリ

(3) 平元線

十六年四月一日平壤元山間ノ開通以後百%利用セラレ居リテ滿洲ヨリ輸入セルモノヲ元山方面ニ送リ或ハ無煙炭ヲ元山經由內地ニ百噸積出シ若ハ西送ニテ鮮內需要ニ充當シ或ハ外金剛附近ノ鐵鑛石ヲ兼ネ浦ニ運ブ等ノ目的ヲ有ス、十九年度ニハ介川新州間ノ狹軌ヲ廣軌ニ改良スル工事ヲ計畫中ナリ

(4)

軍事上ノ要請ニ依リ急速工事中ニシテ昭和二十年度中ニ完成ノ見込ナリ

(5) 私鐵

鮮內ノ私鐵ハ十三會社ヲ存ジ延長ハ一六〇〇粁ニ及ビ國有鐵道ノ三分ノ一ニ達ス、私鐵ハ財政上ノ都合ニ依リ認メラレタルモノニシテ國有鐵道ノ代行線タル意味ヲ有スル即チ一般旅客用ノモノハ石炭ヲ鐵ノ專用線及水力資源開發用ノ線ニシテ都外鐵道式ノモノヲ存セズ

三、鐵道ノ無煙炭使用

從來朝鮮ニ於テハ北鮮ノ有煙炭ヲ、鐵道ニ使用シ來レル處內地及滿洲ヨリノ石炭輸入減ニ伴ヒ無煙炭ヲ使用スルコトトナリタリ、元モ無煙炭ヲ堅ク使用スルガ爲ニ水ラ使用スルモ水ガ多ニ凍ル爲多數ハ有煙炭ヲ使用ス即チ年間二百四十萬瓲ヲ無煙炭トス）此爲從來ハ機關手一人火夫二人ナリシモ火夫ヲ三人トシ且使用ニ習熟セシムルニ要訓練中ナルモ未ダ不慣ノ爲列車「ダイヤ」ハ乱レ勝ナリ

則チニ於テハ鐵道以外ニ於テモ及家庭用ヨリ

M-0396

0380

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第六章　朝鮮ニ於ケル港灣能力擴充

朝鮮ノ港灣ニ付テハ昭和十一年以來軍ノ要求ニ基キ釜山ニ大規模ノ岸壁工事ヲ開始セルガ其ノ目的ハ内地ヨリ輸送シ來ルモノヲ滿洲ニ輸送スルニ在リテ今次輸送轉換ニ於テハ民需輸送ナルコト及滿洲ヨリ來リタル物資ヲ内地ニ送ルコトノ二點ニ於テ必シモ從來ノ儘ノ工事及設備ヲ流用シ得ザルノ難アリ、貨車機車關等所要ノ建設ヲ急ギ居レリ、背後ノ「レール」ハ十九年度中ニ完成ノ豫定ニテ十九年度下半期月間三十五萬噸二十年度ハ更ニ能力ヲ增加シ二十年當初能力ヲ五百萬噸トスル計畫ナリ、尚船車連絡モ十九年度ヨリハ開始可ナルベシ

港灣擴充ハ釜山以外ニモ馬山、鎭水、三千浦及木浦ニ付テモ實施セラレ居リ

馬山ハ突堤ヲ建設シテ船ヲ横付ニ出來ル樣ニ目下工事中ナリ現在ノ銑鐵ノ滯貨數萬噸ヲ存ス

麗水ハ從來大豆積出ノミニ使用シ居リシヲ石炭ニモ使用スルコトナリタリ、與立重事ヲ行フノ外棧橋、倉庫、荷揚場等每日增加シツツアリ

木浦ハ從來石巖ノミヲ使用セルヲ之以外ノ物資ニモ使用スルコトトナリタリ

三千浦ハ全ク新規ノモノニシテ目下施設擴充中ナリ

尚太陸輸送轉換物資ニハ右ノ外蔚山ヲモ使フコトトナルベシ

以上ノ港灣ハ綜合的觀點ニ立チ計畫的ニ使用セシト努メツツアルモ今後輸送量ノ增加ニ伴ヒ港灣能力ニ不足ヲ來ス公算大ナリ

太陸輸送轉換ヲ行フコトトザリテヨリ鐵道荷物ハ每日港ニ到着スルモ船ハ每日來ラズ暴風雨等ノ事故アレ尚更ナルヲ以テ港ノミナラズ背後地ニモ操車場及留置場ヲ增設スルヲ要ス、現在釜山、京城、平壤ニ設備存スルモ能力少ク增設中ナリ

現在朝鮮内地間ノ船舶輸送ハ朝鮮ヨリ内地ヘ年間五百萬噸内地ヨリ

M-0396

0381

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

朝鮮ヘ四百萬瓲ニシテ連絡船ニ依ルモノハ六%ニ過ギズ、陸軍軍用船ニ依ルモノモ一%ニ止マリ殘余ハ汽船ト機帆船トヲ以テ輸送シ居レリ（釜山、馬山、木浦、鹽水ノミノ輸送ヲ見レバ朝鮮ヨリ內地三百萬瓲、內地ヨリ朝鮮ヘ二百萬瓲ナリ）

機帆船ニ付テハ地區組合等存スルモ未ダ統制不充分ニシテ且現在八月一回ノ連絡ヲ受クル以外ニ具體的ニ到着時間ヲ覆知スル能ハザル爲輸送計畫立タズ、到着セル貨物ノ荷揚難ヲ惹起シ且內國向貨物港ニタマルコトヲ防止スル能ハザル狀況ナリ

海陸連絡輸送ニ於テハ從來陸上ハ丸星組ガ擔當シ船ニ着ク迄ハ鐵道會社ガ之ヲ擔當シ居リシモ十二月一日ニ海陸運輸會社ヲ設置シ一貫經營ヲ行フコトトナレリ

第七章　朝鮮ノ勞務狀況

(一)勞務需給

朝鮮ノ勞務需給狀況ハ未ダ逼迫セルモノト謂フヲ得ズ現ニ內地ニハ累計三十數萬人ヲ供出シ（本年度ハ十五萬人供出ノ豫定ニテ明年ハ十九萬人供出スルコトトナルヘシ）南方ニハ三萬人ヲ供出シ居レリ今後數年間ノ朝鮮ノ勞務需要ハ

(イ)鐵鑛石ヲ中心トスル地下資源ノ開發事業

(ロ)輕金屬關係事業

(ハ)水力電氣開發事業

(ニ)大陸輸送轉換ニ依ル鐵道整備工事

ノ四方面ニシテ而モ事業ノ縮少ヲ見ルハ金山ノミナリ、朝鮮ハ內地ト異リ企業整備ノ對象タル中小商工業少ク等ロ從來內地ニ期待シ居リタル生活必需物資ノ入手難ニ依リ緯內自活ノ爲ニ事業ヲ起ス必要アル程ナリ

M-0396
0382
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

現在問題トナリ居ルハ移動率大ナルコト及鑛山勞務者ノ時期的ノ不足ナリ之ガ對策トシテハ左ノ三點ヲ擧クルコトヲ得

(1) 北鮮（咸鏡南北道）及西鮮（黃海道、平安南北道）ニハ鑛山等ノ業集中シ居ル處從來ヨリ之等ノ地域ハ南鮮ニ比シ人口稀薄ナリ（例ヘバ一人當リノ耕地面積ノ如キモ南鮮ノ二三倍ナリ）之ガ對策トシテ南鮮ヨリ農民ヲ移住セシムル如ク工作シ居ルモ食物ノ差異（南鮮ハ麥ヲ食ヒ濁酒ヲ飲ムモ西北鮮ハ粟其他ノ雜穀ヲ食ヒ燒酎ヲ飲ム）土建工事ヲ好ミ鑛山ヲ嫌フコト、鑛山ハ冬期繰短スル處アル爲冬期ニ餘剩ヲ生ジ再ビ南鮮ニ戻ス等ノ理由ニヨリ結果必ズシモ良好ナラズ尙供給源タル南鮮農村モ現在ノ儘ニテハ農繁期ニ手不足トナルヲ以テ農村再編成ヲ實施シツツアリテ婦女勞働ノ奬勵、共同耕作及耕地ノ再配分ヲ行ヒツツアリ

(2) 各事業場ノ勞務管理ノ徹底

(3) 徵用ニ付テモ目下準備中

(四) 勞動力ノ質

半島人ハ勤勉ニシテズト稱セラルルモ訓練ヲ加フレバ內地人ニ遜色ナキ處迄向上シ得ルコトハ單ノ工廠其他大規模工場ノ統計ノ示ス處ナリ、右ハ國民敎育ノ普及セルコト（男女平均ニテ六割、男子ノミヲラバ七割ハ國民學校ヲ卒業シ居リ昭和二十一年ニハ義務敎育ヲ施行スル豫定ナリ）及日本人トシテノ精神的敎養高マリタルコトニ因ル、尤モ技術方面ニ於テハ堅忍持久ノ念ニ於テ未タ缺クル者アリテ厭キ易ク且待遇ノ良キ方ニ走ル傾向アルヲ以テ目下更ニ訓練中ナリ

M-0396

0383

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第二篇　滿洲

第一章　鋼材需給ヨリ見タル滿洲經濟ノ動向

滿洲經濟ノ動向ヲ支配スル鍵ハ北邊鎭護ト生產擴充ト對日寄與ノ三ニ在ルト謂フヲ得ン此ノ三點ノ調整ヲ如何ニスルヤハ主義上ノ問題トシテ各段階ニ應ジ具體的ニ決定スルヲ要シ昭和十二年一―三月ニ物動計畫ヲ設定シテ以來幾多ノ變遷ヲ經タル處現在ニ於テハ戰局ノ推移ニ卽應シ對日寄與ノ增大ニ努メツツアリ

右ノ方針ガ鋼材ニ付如何ニ具現シ居ルヤヲ具體的ニ示セバ國內生產鋼材六十萬噸及對日期待四萬噸（從前ハ對日期待十五萬乃至二十萬噸ナリシヲ昨年物動以來ハ對日期待ノ機械用素材タル鋼材以外ハ日本ヨリ仰ガザルコトト改メタリ）ノ中北邊鎭護ノ爲ノ直接軍需ヲ滿鐵、滿航、電々及官需ニ配當セラルルモノ三十萬噸ニシテ殘餘ノ三十四萬噸ハ生產擴充關係ノ會社ハ三百社ヲ存シ三十四萬噸ノ配當ノ中補修用及運轉用ニ二十八萬噸ヲ要スルヲ以テ施設ノ擴充ニ充當シ得ルハ六萬噸ニ止マリ純民需ハ從來一萬五

千乃至二萬噸計上セラレタルモ本年度ハ對日寄與ノ增加及生產擴充配當增加ニ伴ヒ千噸ニ削減セラレタリ純民需トハ町工場ノ建設、補修、農器具、家庭用民需等ヲ含ムモ本年度ハ民需住宅ヲ建設スル餘地ナク亦從來六千噸ヲ配當シ來タリシ暖房用鋼材ハ之ヲ削除シテ「スレート」等ヲ以テ代用スルコトトセリタリ

M-0396
0384
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

三、滿洲ノ製鐵事業

(一)昭和製鋼ハ高爐九基ヲ有シ銑鐵ノ公稱能力五十五萬瓲ナルヲ以テ公稱能力ニ於テハ兩者合計ニテ二百三十五萬瓲トナル、然ルニ本年度物動ハ百九十萬瓲ト計畫シ居ル處能力トノ差額四十五萬瓲ヲ生ズル理由ハ兩者共爐ノ吹下シヲ爲スニ二十萬瓲ヲ減ジ、又鐵石品位ノ低下、石炭ノ灰分增加、勞務者不足等ニ依リ二十五萬瓲ヲ減ズルコトニ基因ス(昭和ハ本年三基、來年四基、二十年三基ノ吹下ヲ行ヒ二十一年度完全操業トナリ、本製鋼ハ明年二百瓲、爐二基ノ吹下シヲ行フ)

昭和ハ明年度百五十二萬瓲、二十一年度ハ百八十萬瓲トナリ本製鋼ハ明年四十八萬瓲トナルベシ、明年度ハ兩者ノ生產額合計二百萬瓲中低燐銑二十五萬、普通銑百七十五萬瓲トナリ製鋼原料、國內需要ノ銑鐵及鐵需銑ヲ差引キ四十八萬瓲

ヲ對日供給スルコトトナルベシ、カクテハ本年度ノ對日供給五十八萬瓲ニ比シテ萬瓲ヲ減ズルコト、トナルモ、本ヲハ滿洲需要ヲ壓縮シテ七萬瓲ヲ對日ニ振向ケタル經緯アリテ來年度ハ之ヲ繼續スルコト能ハズ且昭和ノ第九高爐ハ始マルモ外ニ吹下シ多キ爲ヤリクリツカズ、本年度ト同額ノ對日供給ヲ爲スニハ別途特別措置ヲ講ズルノ要アリ

(二)百萬瓲(六十萬瓲ト四十萬瓲ノ二)ノ製鐵設備ヲ八億圓ノ豫算ニテ實行中ニシテ前者ハ明年中ニ完成シ後者ハ明年末又ハ明後年始ニ完成ス、之ニ依リ人工富鐵ヲ作リ得ルヲ以テ龍烟及朝鮮ヘノ期待ヲ減少スルコト可能トナレド、又人造富鐵ノ確保及三炭田ノ開發ニ見合ヒテ內地ヨリノ高爐移設モ新タニ考慮シ得ルコトトナルベシ、但シ當リハ現有施設ノ百%ノ操業ヲ目標トシテ一同ノ氣持ヲ合スコトニ努メ居レリ

滿洲ハ副資材タル木材、煉瓦ヲ產スルコト及工作能力ヲ有スル點

M-0396

0385

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ニ於テ北支ニ使ルモ石炭及銑鉄石ノ不足スル点ニ於テ今後ノ趨勢
ハ當分北支ニ一等ヲ拓スル状況ニアリ
(三)鉄道ハ鉄鋼石開發ニ重点ヲ置キ大栗子及七道溝ニ於テ本年九十
萬瓲高地採掘ヲ二三年内ニ百二十萬瓲ニ増加スル見込ナリ、東邊道ニ
ハ淀川製鋼ヨリ移設セル三十瓲高爐ニ依ル木炭銑ト別ニ小型爐二ノ
基(本年中ニ完成)ヲ動カスモ、鉄石不足ニ鑑ミ之以上小型ヲ作
ル計畫ハ有セズ
(四)特殊鋼ハ製鋼原鋼ノ點ヨリ云ヘバ南洲ハ今後發展ノ可能性アリ、
昭和及撫順ノ「ルツベ」ト東邊道ノ電氣銑ニヨリ製鋼用原鋼ハ現
在五萬瓲近クアルモ、昭和ノ「リターン、スクラップ」十萬瓲ヲ
利用スル計畫ハ明年物動審議ノ際決ノ豫定ナリ、「ヒリプデン」
及「ワナジウム」ハ南洲ニ産スルモ「フエロアロイ」ニスル設備
ハ南洲ニ一箇所小規模ノモノヲ有スルニスギザルヲ以テ内地ヨリ
ノ移設ヲ希望シ居レリ

(四)目下吉林ニ於テ政府及當ノ支持ヲ得テ電氣ニ依ル特殊製鐵法ノ試験中
ニシテ未ダ理想的ニハ不明ナルモアラタメテ十萬瓲生産ノ三百瓲ノ「パ
イロツト、プラント」ヲ作ルコトトナリタリ明年度ハ五萬瓲ノ生産目
標ナリ、同方法ノ長所ハ左ノ通ナリ
(1)資源粉鉱ニテ可ナルコト
(2)石灰「コークス」ノイヅレニテモ可ナルコト
(3)電極ノ消耗量少ナルコト(弧光式ト放電式トアリ後者ノ方ガ消耗少
ナルコト判明セリ)
(4)熔融状態ニテ「スラグ」ヨリ出テクル爲ニ熱ノ消耗小ナリ
(5)粗鋼ヲ生産スルコト(炭素一%含有ス)
(6)電氣消費量ハ一瓲當リ五百「キロワツト」ニスギザルコト
(五)昨年末發見鉄石計畫ハ左ノ通
鳳凰城ノ龍家堡ニ八十萬瓲(滿洲ノ龍烟ヘノ依存大ナル爲軽便鉄道レー
ル、セメント等ヲ物動外ニ移動シ得レリ)

M-0396
0386
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

茂山　二十萬㎡
青海濱　十五萬㎡
滿洲內　東邊道　百萬㎡
昭和二百萬㎡（張領ヲ含ム）
本溪湖六十萬㎡
之ガ配分計畫ハ左ノ通
昭和　三百九十四萬㎡
七十　萬㎡
本溪湖　八萬㎡
東邊道小型及撫順滿鐵
三　萬㎡
撫順向鐵出
鐵鑛石ニ付テハ大規模鑛山ノミナラズ各所ニ點在スル小規模鑛山モ着手スルコトトシ只生產常ガ通常ノ倍ニ上ルコトヲ考慮シ㎡當リ四十圓乃至五十圓ヲ政府ヨリ助成セラルトシテ支出スル計ニテリ、第一年度ハ十萬㎡生產可能ナルベシ

三四

（ロ）「マンガレ」ハ滿洲內ニ低品位ノモノ二萬㎡ヲ產スルモ四萬㎡不足ニシテ比較的ヨリ三萬數千㎡、北中支ヨリ若干ヲ輸入シ居レリ

三四

M-0396
0387
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三章　滿州ノ機械製造事業

現在滿州ニハ年間一億五千萬圓ノ機械製造能力アルモ從來ハ內地ニ比シ生產費高ク且品質不良ナル爲對日期待大ナリキ、之ヲ金額的ニ見レバ昨年ハ對日期待二億五千萬圓ニシテ滿州生產六千萬圓ナリシモ本年ハ滿州生產分ヲ一億三千萬圓トシ明年度ハ更ニ國內生產分ヲ增加スル方針ナリ、現在滿州ニ於テ生產不能ノ爲ニ特ニ困ル品種ノモノハ左ノ通

(1)電氣機器ハ最モ「ネック」ニシテ（「モーター」ノ如キモ六十馬力迄シカ生產シ得ズ）大部分對日期待トナサザルベカラザルモ鋼ノ不足ニ依リ製作ニヒマドル可能性大ナリ

(2)「コンプレッサー」ハ百馬力迄シカ生產シ得ザル處炭坑用「コンプレッサー」ハ二百馬力以上ナル爲對日期待ト爲スノ外ナシ主要工場ヲ例示セバ左ノ通ナリ

(イ)滿州重機會社ハ金州ニアリテ設備ハ米國ノ製鐵機械專門業者

タル「ノースター」ニ發註シタリ、第一期計畫ノ六割程度ヲ入手ヒル際資金凍結ニ逢ヒタル七十五臺、基五臺、三臺及二臺ノ反轉爐目下據付中ニシテ明年三月完成ノ豫定ノ處、完成ノ上ハ製鐵用及鑛山用機器（例ヘバ選鑛設備大キナウル物等）ノ製造及兵器ノ鍛造可能トナルベシ

(ロ)滿州鑛鋼會社ハ鞍山ニアリテ三百瓲ノ鍛造設備ヲ有ス

(ハ)奉天ノ住友ハ車輛用資材ノ生產ニ手一杯ナリ

(ニ)工作機械ハ奉天ノ滿州工作機會社ノ外雜多ナル町工場ヲ存ス

(ホ)鍛上ノ如クナルモ滿州ハ朝鮮ヨリモ機械製作能力優レ居ルコトヘ看過スベカラザル事實ニシテ朝鮮ハ特段ノ工夫ヲ爲サザル限リ其ノ生產價格元上ニ於ケル弱點ヲ是正シ得ザルベシ

M-0396

0388

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第四章　滿洲非鐵金屬及非金屬鑛物等

(1)銅

滿洲國內ノ銅ノ需要ハ年間一萬噸乃至一萬二千噸ニシテ對日期待機器用トシテ六千噸ヲ要スル處國內生產ハ昨年六百噸本年二千噸ニスギザルヲ以テ非鐵金屬中最モ不足スル物資ナリ、滿洲トシテハ電解能力ヨリモ產天及安東ニ存スル製鍊能力ノ方ガ不足スルヲ以テ（昭和二十年ニハ五千噸能力トナルベシ）本年度朝鮮ニ製鍊ノ引受方交涉中ノ處之ガ實現セバ本年ノ銅ノ生產ハ三千噸トナル可能性アリ、又補助金ヲ交付シ低品位ノ山ニモ着手セシメ居ルヲ以テ明年度ハ四千噸ニ上ルベシ、尚銅ノ回收運動モ目下實施中ナリ

銅ノ代用トシテ「アルミ」ヲ使用ズルハ水力電氣ノ送電線ノ外配電線及屋內引込線ノ五割六分ニモ及ビ居レリ、銅七千噸ノ代用ニ「アルミ」三千五百噸ヲ使用中ナリ

三一

(2)鉛

鉛鑛石五十%品位ノモノ二萬噸ヲ產シ滿業系ノ滿洲鉛鑛會社ガ開發ニ當ル。滿洲鑛業開發會社產天製鍊所ニ於テハ七千噸ノ「メタル」生產可能ナリ、尙海軍ニテ東邊道ノ鳳凰及桓仁ニ鉛鑛ヲ發見セル爲製鍊ノ上四千噸ヲ對日供給シ居レリ、鑛石ハ二千乃至三千噸ノ余剩ヲ生ズルモ內地ニハ製鍊ノ余力ナキ爲朝鮮ニ送ルコトトナルベシ

(3)亞鉛

亞鉛モ鉛ト略同量ノ鑛石ヲ產シ順調ナル成果ヲ擧ゲツツアリ、鐚灣島ノ製鍊所ハ米人技師ヲ招聘スルノ處資產凍結ニヨリ沙汰止トナリ圖面ハ有スルモ技術ガヨク分ラズ未ダ完全操業ニ入ラザルヲ以テ日本鑛業ノ技師ヲ入レテ研究中ナリ、若シ成功セバ四千乃至五千噸ノ「メダル」ヲ生產シ得、明年度ハ製鍊ノ余力ヲ存セザルニ至ルヲ以テ產天ノ金鑛製鍊所ニ若干設備ヲ爲シ二千噸ノ電解

三八

M-0396

0389

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

亜鉛ヲ作ル計畫ナリ、鐵石一萬瓲ノ余剩ハ朝鮮又ハ內地ニ送ルコトトナルベシ

(4)「モリブデン」

「モリブデン」ハ錦縣ノ揚家坟子ニ於テ鉛、亞鉛ヲ滅產シテモ「モリブデン」ノ採堀ハ確保スル樣施策中ナリ、本年度ハ一千瓲ヲ產シ明年度ハ一千二百瓲ニ上ルベシ、洗鑛設備乏シキヲ以テ朝鮮ヨリ移設中ナリ

(5)「ワナジウム」

鐵石トシテハ多量ニ存ス、七百五十瓲ノ採堀設備完了セルモ洗鑛設備改造中ノ爲本年ハ百瓲ヲ堀ルノミ、明年ハ三百瓲ニ上ルベシ製鍊ハ技術的ニ困難ナル爲內地ニ於テ行フノ外ナシ

(6)「ビツチ」及「ビツチコークス」

「ビツチ」ハ六萬瓲ノ生產アリ、其ノ中四萬瓲ハ六千萬瓲ノ煉炭

製造ニ充當セラル、明年度ノ對日供給ハ二萬七千瓲ニシテ內一萬瓲ハ海軍軍需燒余ハ民需ナリ

「ビツチコークス」ハ製造ノ爐ナキヲ以テ昭和製鋼及本溪湖ニ設備ヲ作ル方針ナリ、尤モ撫順ノ頁岩油ヨリ出ル粕ガ「ビツチコークス」類似ノモノニシテ明年度ハ五千五百瓲對日供給スル計畫ナリ

(7)螢石

螢石ハ內地ノ期待數量ヲ輸出スルコト可能ナルベシ本年度ハ九三%以上ノモノ六千瓲、九三%以下一萬二千瓲採堀ス

(8)「セメント」

本年度ノ「セメント」生產量ハ百八十萬瓲餘ナルガ（其ノ內六十萬瓲ハ本溪湖及宮ノ原ニテ產出ス）工場ノ故障頻發シ困却シ居レリ、一昨年迄ハ內地ヨリ四十萬乃至五十萬瓲供給ヲ受ケタルモ船腹ノ不足ニ鑑ミ現在ハ停止セラレタリ

M-0396

0390

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(9) ツンドラ土壌ノ利用

當テ米國ニ於テモ試ミラレタル處ナルガ「ツンドラ」ノ土壌ノ炭素ニ其ノ一割ノ苦汁ヲ加ヘ適當ノ硬サト彈力トヲ與ヘ建築材料、橋梁、飛行機工場、防彈具、船舶等ヲ作ル方法ヲ目下滿洲ニテ研究中ニシテ大石橋ノ外北支ノ開發地帶及朝鮮ノ一部ニモ適地アリ、明年度ヘ滿洲ニテ此ノ爲ニ苦汁五千瓲ヲ使用スル計畫ナリ

第五章 滿洲ノ「アルミ」事業

滿洲ノ「アルミ」事業ハ朝鮮ニ比シ立地條件ニ於テ恵マレタルモノト滿洲斷セラルルモ（例ヘバ電力豊富ナルコト及原料タル鞍山土貢岩ノ外副原料タル黄達灰、耐火煉瓦、「ピツチコークス」ヲ産スルコト）輕金屬統制會ニ加入シ居ラザルコト等ノ爲增産計畫遂行上若干立遲レノ氣味アリ、滿洲輕金屬安東工場ハ五箇年計畫中ニハ含マレ居リタルモ一時中止トナリ又今ヨリ急ニ着手スル樣模樣替トナリタルガ事情ノ變化大ナリトハイヘ同工場ノ如キ計畫通實現シ居リタラバ早期ニ戰力增强ニ資スルコトヲ得タルモノト誠ニ遺憾ナリ

工場別能力左ノ如シ

(1) 滿洲輕金屬會社撫順工場ハ現在「アルミナ」一萬瓲ノ能力ヲ有スル處更ニ五千瓲施設ヲ一昨年着手シ明年六月ニハ完成ノ見込ナリ「アルミナ」二萬瓲「アルミニウム」一萬瓲ノ施設ヲ物動ニ計上シ機器發註ヲ開始セルガ昭和二十年九月ニ

(2) 滿洲輕金屬會社安東工場ハ「アル

M-0396

0391

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

完成スベク目下建設ヲ急ギ居レリ尚將來ハ石能力ノ二倍タル「アルミナ」四萬瓲「アルミニウム」二萬瓲ニ增加スル計畫ナリ

(3) 吉林ニハ「アルミナ」二萬瓲工場設立ノ計畫アリ

(4) 以上ノ計畫實現ノ曉ニハ滿州ノ「アルミナ」生產ハ七萬五千瓲トナル蠟之ニ必要ナル石土頁岩ハコゝ數年間ハ安奉線沿線ニ產スルモノヲ以テ賄フコト可能ナリ（尤モ永年經營スルツモリナラバ國內ノ礬土沿線ハ「アルミナ」年產四萬瓲程度ニ止ムルヲ適當トスベシ）

滿洲國政府トシテハ今後ノ增產ニハ滿洲輕金屬會社ノミニ擔當セシメズ內地ノ適當ナル業者ヲ進出セシムルヲ可トスト考ヘ居レリ

將來ノ飛躍的增產ヲ圖ランガ爲ニハ「アルミナ」製造ニハ濕式法ヲ採用スルヲ可ト認メラルルヲ以テ目下滿鐵ノ中央試驗所ニ於テ研究中ナリ（濕式法ニ於テハ機械ノ耐酸設備ニ力ヲ注ガザルベカラズ）又大連ノ滿洲化學ニ於テ礬安製造ニ用フル礬酸礬土ニ依リ人工「ボーキサイト」ヲ作リ、濕式法ニテ「アルミナ」ニスル方法モ研究中ナリ、

此ノ場合礬酸ハ「アルミナ」ノ五%丈補充スレバ足ル見込ニシテ內地ノ礬安工場ニ於テ此ノ方法ヲ採用セバ三十萬乃至五十萬瓲ノ「アルミナ」ヲ生產スルコト可能ナルニ非ザルヤト望ヲ囑シ居レリ

M-0396

0392

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第六章　滿洲ノ「マグネ」事業

營口ノ「マグネシユーム」工場ニ於テハ一千瓲ノ能力アルモ技術的ニ未完成ニシテ脫水設備不良ナル爲本年度ハ三百瓲出レバヨキ方ナリ、苦汁ハ關東州及北支ニ期待セルモ北支分ハ對日供給ニ振向ケラルル爲關東州物ノミニ限ルコトトセリ

技術的難點ヲ切拔ケル爲內地ニ於テ最モ成績良キ日本化成會社ト提携セシメ脫水設備ノ改良及人工苦汁ノ製造ヲ行ハシムル案ヲ研究中ナリ

人工苦汁製造ニ當リテハ水銀法ニ依リ苛性曹達ヲ製造シ、ソレニ依ル鹽素ヲ以テ鹽ヲ處理スルモノナルガ實驗的ニハ成功ヲ見タリ

「マグネサイト」ヨリ苦汁ヲ作ル方法モ目下研究中ナリ、滿洲曹達會社ニ於テ曹達灰ヲ生產シ居ル處鹽ト石灰石トヲ合セテ燒ク代リニ鹽ト「マグネサイト」ヲ燒ゼ、鹽化「マグネシユーム」ヨリ苦汁ヲ作ラントスルモノナリ

奉天ノ苛性曹達工場ニ於テ余剩トナル鹽素ヲ以テ鹽ヲ處理シテ鹽化

「マグネ」ヲ作リソレヨリ人工苦汁ヲトル案モ研究中ナリ

三菱ノ關東州「マグネシユーム」金州工場ハ明年完成ノ見込ガルガ

二千五百瓲絡力ノ工場ナリ

M-0396

0393

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第七章　滿洲ノ石炭事業狀況

滿洲ノ本年度石炭採掘計畫ハ二千八百萬瓲ナルモ左ノ事由ニ依リ實績ハ概ネ二千六百萬瓲トサルベク二百萬瓲ノ減産ヲ示スベシ

(1)事故ノ頻發

從來迄ニ無理ヲ重ネ來リタル爲事故頻發シ居リテ內地專門家ノ調査ニ依ルモ從來其ノ年々ニ堀ルコトノミヲ目途トシ將來ノコトヲアマリ考慮シ居ラザル傾向アリトノ結論ナリ

(2)北滿ノ風水害

右產出量ノ內內地ニハ撫順炭ヲ七十二萬瓲輸出シ朝鮮ニハ百六十萬瓲ヲ出ス豫定ナリ、尙北支ヨリハ原料炭三百二十萬瓲期待ス

昨年度ハ一應三千萬瓲生產ヲ計畫シ居ルモ實績ハ遂ニ二千八百五十萬瓲ニ止ルベシ、其ノ場合朝鮮ニハ小型熔鑛爐及淸津ノ需要增加スルニ鑑ミ百七十萬瓲ヲ送リ（小型爐ノ爲ニハ密山炭ヲ增送スルモ內地向ハ大体本年ト同樣ニ七十萬瓲程度ト爲度ク、北支ヨリ三百六十萬瓲輸入ヲ期待ス

本年度ノ石炭配給計畫ハ合計三千三十萬瓲ニシテ內譯ハ概ネ左ノ通

軍用	三五〇〇〇〇瓲	
鐵道用	六五〇〇〇〇〇瓲	
製鐵用	五〇〇〇〇〇〇瓲	（內昭和三六〇〇〇〇〇瓲）
採暖用	五五〇〇〇〇〇瓲	（本溪湖一〇〇〇〇〇〇瓲）
電氣用	一〇〇〇〇〇〇瓲	
セメント用	八〇〇〇〇〇瓲	
其ノ他產業用	三五〇〇〇〇瓲	
炭坑山元消費	四五〇〇〇〇瓲	

明年度ハ採暖用炭ヲ五百萬瓲ニ切下ゲ一般產業用モギリギリニ削減方計畫中ナリ

滿洲ノ水力發電ハ昭和二十一年乃至二十二年ニシテ、爾後ハ水力

M-0396

0394

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

發電ノ發達ニ依リ漸次低下スベキ付火力發電用ノ石炭モ之ニ伴ヒ減少スル見込ナリ

滿洲國ノ原料炭生産ハ現在二百七十萬瓲ニスギズ且北支期待ノ原料炭ヲ現在以上ニ增加スルコトハ奉山線ガ「ネック」トナル公算大ナルニ依リ目下滿洲內ニ於テ左記三炭田ヲ開發スルコトセリ

(1)東邊道ノ松灣炭田（第一重點ニシテ開年ハ灣口迄鐵道ヲ敷設ス

(2)熱河省ノ興隆炭田

(3)三江省ノ富錦炭田

右ノ中前二者ハ昨年着手シ、三者共撫順ニ次グ良質炭ニシテ「カロリー」七千以上灰分八%ト稱シ炭量豐富ニテ掘リ易キ爲メ各所共六十杆乃至百杆ノ鐵道敷設ノ要アリ、各所ニテ五十萬乃至三百萬瓲生産シ合計三百萬瓲ト致度ク、之等ノ開發コソ滿洲ニ內地ヨリ高爐ヲ移駐スル前提要件ナリ、尙內地送リノ密山炭ト右石炭トノ振替ヲ考フルコトモ可能ナリ、三者中富錦炭最モ

良質ニシテ鶴岡炭ト配合スルヲ可トスベシ

阜新ハ現在四百二十萬瓲ヲ生産シ居ルニスギズ、炭層ハ五十「メートル」モアリテ堀リタル後ニ直ニ發火スル爲明年度ヨリ採堀方法ヲ變法ヲ變更シ且充塡ヲ行フ方針ナリシモ最近ハ六百萬瓲ニ下リ尙料ダルボタ及砂ヲ要シ之ガ運搬ニ設備ヲ要ス

阜新ハ坑量大ニシテ新規ニ增產セントセヌ場所ヲ變ヘテ堀ラザルベカラズ

ベカラズ、石炭坑區ガ石油坑區ト重複スル爲從來採堀ヲ躊躇シ居リタルガ今後ハ石炭ニ重點ヲ置クコトト改メタリ

鶴岡ハ坑量大ナルガ現在ハ二百六十萬瓲生産ス

密山ハ本年百八十萬瓲生産ス

撫順ハ一千萬瓲生産ヲ繼續スル方針ナリシモ最近ハ六百萬瓲ニ下リ尙リ附近ノ箇所二百萬瓲ヲ合スルモ八百萬瓲ニ止ル狀況ナリ

撫順ノ露天堀モ採堀條件ノ惡化ニ依リ成績惡化シ竪坑ノ方モ三本存スルモ開發遲延シ居リ狸堀ニテ堀ル爲ニ折角竪坑ノ屆キタル時

M-0396

0395

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ニハ既ニ狸掘ニテ荒ラシタル跡ノミ殘リ能率悪キ故ニ現所ノ竪坑ニ集中ス
箇所ノ竪坑ニ集中ス
又含油岩ノ採掘ヲ終ガルル爲鄰離ノ際上方ニ在ル炭ノ多キ炭
ヲ掘リテ出ジツツアリ
石炭生産上ヨリハ面白カラザル情況ニテ出ジツツアリ
寶馬集（宮ノ原ヨリ東邊道ニ行ク沿線ニ在リ）ニハ無煙炭及有煙
炭ヲ存シ鐵紡ガ陸軍ヨリ資材ノ特配ヲ受ケ建設中ニシテ明年春鐵道
道輸送ヲ開始シ五十萬瓲生産ノ見込ナリ陸軍ノ小型爐用炭ハ此
處ニ期待シ居ルノミナラズ將來朝鮮ノ小型ニモ供給スルコトナ
ルベシ
滿洲ノ炭坑ニテハ內地期待ノ「コンプレッサー」入手困難ニ依リ
困却シツツアリト右ハ飛行機用資材最優先ニ依ルモノト謂フベシ
石炭ノ開發機構トシテハ滿炭一本主義ヲ撤廢シ能率增進ヲ圖ル爲
滿鐵ト東邊道開發會社及本溪湖等ニモ擔當セシメ居リ密山及「

ジヤライノール」ハ鐵ニ滿炭ヨリ分離シ本年ハ阜新、北票、鶴岡及西安ガ分離シ滿炭ハ今後新規開發及小規模炭山ノ開發ヲ擔當スルコトトナリタリ
滿炭ハ從來猶目ノ行方ヲ爲シタル爲滿軍ノ小會社タルノ性格ハ比較的稀薄ナリシガ此ノ點ハ漸次修正セラレ・ツツアリ、但シ技術陣ハ尙弱化ノ要アリ

M-0396
0396
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第八章　滿洲ノ石油事業

滿洲ノ物動ヒノ最終點ハ石油ノ不足ニシテ有事ノ場合ヲ考慮スルニ、現在ノ施設ヲ以テハ不足ヲ來スコト明カナリ、現有施設左ノ如シ

(1)　撫順ノ頁岩油工場

撫順頁岩油ニハ東工場及西工場ノ二アリテ四套油ハ粗油二十四萬瓲ノ生産能力アリ滑水濾用ノ重油ヲ主トスルモ北支動輸向ノ汽筒油ヲモ生産ス、東製油ハ目下建設中ナルガ本年中ニ六萬四千瓲ニ仕上グル豫定ニシテ昭和二十年下期迄ニハ十九萬二千瓲能力トスル計畫ナリ、航空「ガソリン」及航空潤滑油ヲ主トス

吉林南方ノ樺甸ノ頁岩ハ撫順ヨリモ良質ナルヲ以テ内地ヨリ「ルルギ」式ノ塔二基ヲ移設シ二萬瓲ノ生産ヲナス豫定ニシテ現ニ建設中ナリ

(2)　撫順ノ、亘妓油化工場

撫順ノ石炭液化工場ハ亘妓油及「ベンゾール」ヲ五千瓲ノ下ニ目下試運轉中ナリ

(3)　錦州ノ石炭燃料工場

錦州ニ於テハ三井系工場カ阜新炭ヲ用ヒ液化ヲ行ヒ三萬四千瓲ノ能力アリ

(4)　四平街及錦西ノ軍工場

四平街ノ軍工場ニ於テハ低溫乾溜ニ依ルモノニシテ航空用及自動車用揮發油及「ベンゾール」ヲ五千瓲ノ下ニ目下試運轉中ナリ

錦州ノ石炭液化工場ハ低溫「ダール」ヨリノ液化設備アリ

錦西ノ軍工場ハ同ジク低溫「ダール」ヨリノ液化工場ニシテ二基アリ石炭一瓲ヨリ油トナル率ハ六%、十%又ハ十二%ノイツレニナルヤ未タ判定シ得ザルモ低ニ十%トセバ明年度二萬瓲ノ能力トナルベシ、明年中ニ更ニ二基増設スルヲ以テ能力ハ倍化スル見込ナリ

M-0396
0397
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(5) 吉林「メタノール」工場

吉林人石ハ野口系ノ技術ニ依リ舒蘭炭ヲ用ヒテ石油ヲ作ル計畫ヲ以テ工場ヲ建設セルモ技術的ニ未熟ニシテ生産ノ見込立タザルガ之ヲ明年末迄ニ「メタノール」五萬瓲生産ノ工場ニ變更スベク目下工事中ナリ

(6) 精製施設

大連ノ滿洲石油會社ハ原油處理公稱能力二十一萬瓲ナルモ實績ハ十八萬瓲ナリ、此ノ外歸西ノ燃料廠ニモ精製設備ヲ存ス

滿洲ノ木材需給ハ最近順ニ逼迫シ居ル處其ノ原因ハ左ノ通

(1) 數年前木材ノ「ストツク」大トナリ約三百萬立方米ニ及ビタルガ爲緩行側ガ貸付ノ固定ヲ嚴ガリ滿洲林業ハ二年前ヨリ一般用材ノ出材ヲ百數十萬立方米減少シ又日本ヨリノ輸入モ毎年百萬立方米ヲ下ラザルヲ輸入停止スルコトトナリタリ。昨年迄ハ百萬乃至百八十萬立方米ノ「ストツク」アリタル處現在ハ「ストツク」皆無ニシテ而モ關特演等ノ影響モアリテ急激ニ增產セントスルモ希望通ニ實現セザル憾アリ

(2) 從來ハ小興安嶺ニテ伐採シ居リタルモ新タニ着手セル大興安嶺ノ木材ハ巨大ニシテ沈下スル爲鐵道輸送ニ依ラザルベカラズ道路及鐵道建設ニ手間ドリ又百數十輛ノ林鐵用機關車ハ修理能力ナシ

(3) 伐採夫及役畜ノ使用ハ食糧調達ト統合シ確保容易ナラズ。

M-0396

0398

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(4) 林野總局ハ一般内政ト別系統ノ官繪ナル爲地方ニ對スル木材供出奬勵ハ食糧供出ノ場合ノ如ク強力トナリ得ズ

現在一般用材ノ需要ハ五百萬立方米ナルモ出材ハ三百四十萬立方米ニ止ルヽ仍テ從來ハ十月ヨリ三月ニ至ル冬期ニノミ伐採シ夏期ハ濕地ニシテ虫多キ爲伐採ヲ爲サザリシテ本年ハ能率不良ノ上ニテ四月以降モ伐採ヲ繼續セリ、右ハ本年ノ冬山ニテ覺悟ノ上ニテ四月以降モ伐採ヲ繼續セリ、右ハ本年ノ冬山ニ心理的好影響ヲ及ボスベク又森野行政ノ狙ヒ造林中心ヨリ濫伐ヲ慮ニ介セザル伐木ニ移シタルヲ以テ明年度(四四四四)十萬立方米ノ配給可能ナルベク其ノ割當先ハ關東三百四十萬、其ノ他國内百八十萬、朝鮮及北支蒙疆向二十萬トナル(國内ニ於テハパルプ用材四十萬、包裝用二十萬、鑛業及官需七十萬ヲ生産擴充ニ八十萬ヲ配當セルヲ考フレバ更ナリ、本年度ハ生産擴充ニ八十ニ三十萬減少ヲ見ルコトトナルベシ)

「ジヤンク」建造ハ又モシクハ「ジヤンク」建造ニ拍車ヲカケタリ。卸チ

「ジヤンク」用木材ハ大木ニシテ伐採及輸送ニ通常ノ場合ノ三倍ノ手間ヲトリ且木材ノエリゴノミヲ爲スヲ以テ一千艘ノ「ジヤンク」建造(木材ニテ五十萬立方米)ハ一般用材ノ八十萬立方米ニ相當ス

滿洲ヨリ北支向ノ坑木ハ本年六千立方米ナリシモ明年度ハ北支ノ需要ニ鑑ミ五萬立方米ヲ供給スルコトトナルベシ(一立方米ニテ坑木十本ナリ)

滿洲ヨリ北支向ノ枕木ハ本年百萬丁以上トナルベク明年度ハ百萬丁ヲ希望シ來レリ、明年及明後年ニ夫々五百萬丁ヲ供給スレバ北支ハ一應補修ヲ終リ爾後ノ枕木需要ハ激減シ得ベシ

M-0396

0399

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第十章　滿洲ノ水力電氣事業

一、滿洲ノ水力電氣工事ハ開發シ得ル箇所ノ一割ニモ達セザルガ現況左ノ通ナリ

(1) 水豐ハ七十萬キロ能力ノ計畫ニシテ完成後ハ鮮滿折半ノ豫定ナルガ（七臺ノ發電機中三臺ハ朝鮮、三臺ハ滿洲、一臺ハ鮮滿折半）現在ハ滿洲三臺朝鮮一臺ニテ供給ス

(2) 鏡泊ハ目下工事中ナリ

(3) 雲峰モ基礎工事ハ完成シ朝鮮側ハ氣合ヲカケオルモ滿洲側ハ建設ニ手間ドル爲氣乘薄ナリ

(4) 桓仁（渾河流域）ハ一昨年ヨリ着手シ二十萬キロ計畫ナルガ堰止ノ基礎工事ハ半分完成シ此ノ儘繼續スレバ二十一年始ニハ堰止完了ノ豫定ナリ但「セメント」ノ不足ニ鑑ミ工事ヲ中止スベシトノ意見モ存ス（發電機ハ一臺到着濟）完成セバ安東ノ「アルミナ」工場ニ送ルコトトナルヘシ

(5) 沙尖子ハ未着手ナリ昭和二十年迄ニ戰力化セザルモノハ行ハザル方針ナルヲ以テ着手ノ見込ナシ

(6) 吉林ノ豐滿「ダム」ハ來年中ニ工事完了スベシ一臺七萬キロニテ八臺ノ計畫ノ中二臺ハ既ニ取付濟一臺ハ本年中ニ完成シ更ニ二臺ハ來年中ニ取付ケ得ヘク結局明年中ニハ三十五萬「キロ」トナルヘシ本年中ハ二十一萬「キロ」ナルガ新京「ハルピン」間ノミ送電線アルモ同地區ハ消費少キヲ以テ撫順其他南滿地區ニ供給スル爲ノ送電線工事ヲ急ギ居リ明年中ニハ完成スベシ之ニ依リ十二三萬「キロ」ヲ消費スルコトトナルヘシ明年二臺取付完了セバ吉林ノ滿洲化學工場ヘノ供給ニ充當スル豫定ナリ

一、吉會ノ完成ヲ俟チ火力ノ方ヲ豫備ニ廻スコトトナルヘシ（奉天ノ火力發電機五萬「キロ」二基ハ內地ニ設置セリ）現在ハ火力九十六萬「キロ」ナルガ夜間灯火ノ減正等ヲナセ

M-0396

0400

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

バ向餘力ヲ生ゼシムルコト可能ナリ、將來「アルミナ」七萬五千
噸生産ノ場合ニハ消費規正ヲ強化シ何トカ之ニ必要ナル電力ハ確
保シ得ヘシ
三、朝鮮ト滿洲ノ「サイクル」ガ同一ナラザルコト（朝鮮ハ五十「サ
イクル」ニテ滿洲ハ六十「サイクル」ナリ）ハ今後諸種ノ不便ヲ
生ズヘキモ差當リハ資材不足ニテ同一化ハ困難ナルヘシ（現在ト
ラバ三四千萬圓ニテ同一ノ「サイクル」トナスヲ得）

第十一章　滿洲ノ食糧事情

(一)滿洲ニ於ケル食糧買付ハ昨年六百五十萬噸計畫ニ對シ六百萬噸ノ實績ニシテ其ノ中百七十六萬噸ヲ移出セリ、本年ハ一千八百萬乃至一千九百萬噸ノ生産額中七百三十萬噸ノ買付計畫ニシテ實績ハ恐ラク七百萬噸トナルベシ本年ハ早時及除草勵行ヲ行ヒタルヲ以テ種蒔時ノ旱害、北滿ノ夏期ノ水害及虫害發生アリタルニ不拘昨年ヨリ百萬噸ノ買付增加可能ナルベク增産分中三十萬噸乃至三十五萬噸ハ國內民需ニ振向ケ三十萬噸乃志三十五萬噸ハ對外供給ニ充當スル方針ナリ、斯クノ如ク國內民需優先ヲ必要トスルハ左ノ理由ニ因ル

(1)滿洲ノ重工業勞務者ハ從前一月三十瓩ノ食糧ヲ消費シ居リタル處現在ハ之ヲ三級ニ分チ最上級ノ者ニハ二十四瓩ヲ與ヘ居ルモ配給量中一部ハ豆粕ノ如キ質ノ劣リタルモノヲ混用シ居リ且一部ハ家族ニモ食ハスコトトナル爲生產ノ確保ヲ圖ル上ヨリ見レバ

M-0396
0401
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

現在ノ配給量ハ不充分ノ憾アリ（輕工業労務者モ三種ニ分チテ
配給シ居リ夫以外ノ一般人ニハ一月七瓩ヲ配給スルニ過ギズ、穀
穀ニ於テ醸造スル民需用燒酎ノ
ルニ過ギズ）
(2)本年ハ北支ヨリノ入滿苦力增加セルコト
(3)木材增産ノ爲ニハ九月末迄ニ僻遠ノ地ニ食糧ヲ運搬シ置クヲ要
スルコト
(ロ)新クシテ滿洲政府トシテハ本食糧年度（本年十月ヨリ明年九月迄）
ノ配分ハ國內ニ三百六十萬乃至三百三十萬瓲、內地、朝鮮及北支ニ二百七十萬瓲スル方針ナリ
萬乃至百三十萬瓲、內地、朝鮮及北支ニ二日十萬瓲スル方針ナリ
（尤モ內地側ハ百六十六萬瓲ヲ、朝鮮臺灣ハ三十四萬瓲ヲ、北支ハ五
十萬瓲ヲ希望シ居レリ）
昨年度（昨年十月ヨリ本年九月迄）ノ六百萬瓲ヲ本由弗地ヲ配分
シタルガ其ノ內譯ハ國內民需三百三十萬瓲、軍需九十五萬瓲、對

外供給百七十六萬瓲（內地百三十七萬、朝鮮二十萬七千、臺灣三
萬五千、北支十五萬八千）トシタリ
(ハ)昨年ノ實行ニ於テハ左ノ如キ措置ヲ採リタリ
(1)地方行政力ノ浸透ニ伴ヒ省長及縣長ニ對シ責任供出量ヲ示シ供
出成績如何ニ依リ賞罰ヲ行ヒタルコト（之ガ爲役人ガ一生懸命供
出ニ努力シタルハ明カナリ）
(2)軍官民ノ意見一致シテ事ニ當リタルコト（從來ハ半強制的貢付
對アリタリ）
ニ對シ治安擔當者側ヨリノ反對ア
(3)氷一瓩ニ對シ十五「キール」ノ棉布ヲ與フル等義付物資トシテ
農民ノ必需物資タル棉布ヲ便用セルコト（本年ハ灯油ヲモ見返
ニ便用シタキモ數量不足ニテ難
(4)先發制度（豆買資金ノ貸付）ヲ廢
(四)關東軍ハ昨年二十萬瓲ノ米ヲ朝鮮ヨリ移入セルガ本年度モ朝鮮ガ
內地ニ米ヲ出ス量ヲ減ル傾向アル爲軍需トシテ滿洲ニ十五萬瓲ノ

M-0396
0402
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

米ヲ朝鮮ヨリ輸入シ其ノ代リニ雑穀ヲ満洲ヨリ朝鮮ニ輸出スル方針ナリ

(五)吉林「ダム」下流地帯ニ水田十萬町歩、畑地十七萬町歩アリ今回新タニ水田ヲ増設スルコトトナリ水田トシテ明年度五萬町歩、明後年度二萬町歩ノ工事ヲ行フ豫定ナリ之ニ依リ米四十萬瓲(二百五十萬石)及雑穀十七萬瓲ヲ収メ得ベシ但シ水路設備タル電動機及「ポンプ」ノ入手ニ稍困難アリ

石ノ労務者ハ差當リ内國開拓民ニ依ルモ内地人ノ移住困難ナラバ從來ノ半島人制限方針ヲ緩和シテ逐次之ヲ利用スル計畫ナリ

第十二章　滿洲ノ鐵道輸送狀況

(1)奉山線

奉山線ハ北支ヨリ内地向二百萬瓲ノ北支ヨリ朝鮮向八十萬瓲、北支ヨリ滿洲向四百萬瓲計六百八十萬瓲ノ輸送ヲ爲ス、奉山線ノ複線化ハ明年末ニ完成スベシ

(2)安奉線

安奉線ハ北支ヨリ内地及朝鮮向二百八十萬瓲ノ物資ノ外滿洲ヨリ内地及朝鮮向二百萬瓲ノ輸送ヲ爲ス(滿洲ヨリ朝鮮ニ向クハ鐵道用炭ニ過ギズ、密山炭ハ清津向ナルヲ以テ安奉線ヲ利用セズ、又滿洲ヨリ内地向ノ糧穀ハ今後大部分ヲ安奉線ニ頼ルコトトナルベシ)

以上ノ如ク安奉線ハ一應五百萬瓲計畫ニテ進ミ居ルモ今後ノ情勢ヲ考慮セバ六百萬瓲能力ニ引上グルヲ要スベシ

安奉線ノ複線化ハ明年六七月中ニ完成ス

M-0396

0403

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(3)奉山線ハ現在二十個列車ヲ編成シ居ルモ明年末ニハ双方共四十個列車トナシ明後年末ニハ四十八個列車トスル計畫ナリ、兩線ノ複線化ニ要スル鋼材五萬噸ハ内地ヨリ供給ス

滿洲ノ現有車輛數ハ機關車一千八百輛（明年中ニハ二千輛トナル）貨車三萬三千輛（明年中ニ三萬五千輛以上トナル）ニシテ之ニ依リ概ネ一億噸ノ輸送可能ナリ、然ルニ年々一千萬噸宛ノ需要增ヲ假定セバ年々四千輛宛貨車ヲ增加スルノ要アリ、滿洲ニ於ケル車輛工場ハ、滿鐵、滿洲車輛、大連機械、滿洲工廠ノ四ニシテ奉天ノ住友工場ハ輪軸及車輪ヲ製造ス

尚小運送ニハ民間自動車二萬臺（内自動貨車一萬輛）及馬車アリ（馬ハ二百四十萬頭ヲ有ス）

第十三章　滿洲ノ勞務狀況

(一)支那苦力ノ使用狀況

本年初頭ヨリ六箇月間ニ於ケル支那苦力ノ入滿及離滿數ハ左記ノ通ナリ

(1)入滿

本年初ヨリ六箇月間ノ苦力ノ入滿數ハ八七〇、二四三人ニシテ（其ノ内團体募集ニ依ルモノ二〇、六二八人、個人募集ニ依ルモノ四九、六一五人）前年同期ニ比シ一〇五、〇〇〇人ノ增加ヲ示ス

若ノ外六箇月間ノ隨伴家族入滿數ハ五六、〇一四人ニシテ前年同期ニ比シ三七、〇〇〇人ノ增加ヲ示ス

(2)離滿

本年初ヨリ六箇月間ノ苦力離滿數ハ一一五、九六三人ニシテ（其ノ内團体募集ニ依ルモノ七、〇七二人、個人募集ニ依ルモノ七八、八九一人）前年同期ニ比シ二〇、〇〇〇人ノ減少ヲ示ス

M-0396

0404

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

右ノ外六箇月間ノ隨伴家族離滿數ハ二五、〇五二人ニシテ前年同期ニ比シ二四五〇〇人ノ減少ヲ示ス

右ノ統計ハ北支ニ於ケル共産軍跋扈ニ依ル治安惡化及食糧不足ニ基ク入滿增加ト滿洲ニ於ケル苦力定着性增加ニ依ル離滿減少ヲ示スモノニシテ一見喜ブベキ現象ノ如キモ苦力ノ質ノ低下ハ蔽ヒ難ク熟練勞働者ハ減少シ訓練亦日時ヲ要スル爲能率ハ急激ニ下落シツツアリ、其ノ中ノ或者ハ滿洲ニテ百姓ヲサセル外使ヒ途ナシ、又隨伴家族ノ如キ消費人口ノ增加ハ滿洲トシテハ食糧ノ負擔增加ヲ意味スルモノニテ有難迷惑ナリ

北支ニ於ケル滿洲向苦力募集ニ便ナラシムル爲一定ノ地域ニ媒養圈ヲ作リツツアルモ北支側モ勞務逼迫ノ爲自然良好ナル地域ハ北支用苦力ニ留保スル傾向アリテ滿洲向割當地域ノ中若干ハ治安不良ノ爲募集不能ノモノヲ存ス、滿洲內ノ募集ニ際シテモ媒養圈ノ設置ニ依リ良好ナル結果ヲ收ゲ居リ、例ヘバ阜新炭坑ハ附近ニ媒養圈ヲ作リテ募集ニ便宜ヲ得ルノ措置ヲ講ジツツアリ

尙本年度ハ新タナル試トシテ勤勞奉公制ノ採用ヲ始シ勞務需要增加ニ對應シツツアリ

(二)勤勞奉公制ノ採用

十九才乃至二十一才ノ滿人ニシテ兵隊トナラザル者ハ三年間ノ中累計一年間ハ勞働ニ服スル義務ヲ課シ國防施設ニ使用スルコトトナリタリ、尤モ本年度ハ最初ノ試ナル爲動員可能數ハ豫測不能ナリ

(三)學生ノ利用

學生ハ夏休ニ除草等ノ農事ニ使用スルコトトナリタリ

(四)勞働能率ノ低下

勞働者ノ能率低下ヲ示ス一例トシテ一日一人當リノ出炭量ヲ徵スレバ昭和十一年度ハ〇、九三噸ナリシニ本年三月ハ〇、四二噸ニシテ四五%ニ低下シ居リ(此ノ低下ハ苦力ノ質ノ問題ノ外機械利

M-0396
0405
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

用率ノ減少等ナモ斟酌スベキモノナルモ一應參考ノ爲掲記スレバ尤モ密山炭坑ノ如キハ把頭制及請負制ヲ利用シ一日ニ七噸ナル良好ナル成績ヲ擧ゲ居レリ

勞働能率ノ向上策トシテ緊要ナルハ重要事業ニ對スル配給食糧ノ確保ニシテ之サヘ圓滑ニ實施シ得レバコヽ二三年ノ勞働需要ニ應ズルコト可能ナリ

移動率ノ大ナルコトハ亦勞働能率低下ノ一因ナルガ現在移動率特ニ大ナルハ炭坑及機械工場ナリ

(四)日本人技術者ノ不足

日本人技術者ハ數ニ於テ不足スルノミナラズ落着キナク頻々ト移動スル傾向アリ、住宅及給與ニ付テモ内地ニ於ケル待遇ガ向上セル爲從前程滿洲ニ出掛ケル魅力モナシ

右ノ不足ニ對應シ滿洲ニ於テモ徹用ヲ行フベク目下法令ノ準備中ナリ

第十四章　滿系資本ノ利用

滿洲ノ民族資本ノ系統ヨリイヘバ奉天系ト哈爾賓系ノ二種ニ分ツコトヲ得、奉天財界ハ北支トノ關係ヲ有シ落着キタル性格ヲ有スルモ僑家ニ根據ヲ有スル哈爾賓財界ハ新興ニシテ機敏ナク資金ヲ入手セバ直ニ物ヲ買入レテ「ストック」シ置ケヤル等奉天トハ稍異リタル色彩ヲ有スヽ哈爾賓系ハ一体ニ山東出身多ク親分ハ長延園ニシテ資產ハ或ヒハ三千万圓トイヒ或ハ一億圓ト稱セラルヽ

滿系資本ノ動員ヲ目的トシテ最近滿系有力者ノ會社ヲ設立セシヲ（滿洲興易會社、資本金五百万圓）北支トノ計畫外交易ヲ擔當セシヲ且之ニ關聯スル加工業ヲモ經營セシメツヽアリ（當初ハ油房及製粉業ニモ當ラシメタリシモ之ハ其ノ後停止セシメタリ）滿系資本ノ動員ニ當テヽハ當初ヨリ重工業投資ニ利用セントアセルガ如キハ禁物ニシテ流通ヲ經濟ヲ主体トシ次キヲ儲ケサセ漸次配當制限等ニ依リ之ヲ統制スル方針ナリ、

M-0396

0406

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

滿洲ノ物價ハ當テハ大連ヨリ距離ノ大ナルニ從ヒ卽チ奉天、新京ト哈爾濱ノ順ニテ高價ナリシガ現在ニ於テハ新京、哈爾濱、奉天ノ順ニ高價トナリタリ、新京ハ首都ダケニ物資ノ集マリモヨク統制モ實ニ一般的ニ八割高ノ所ニ劍付スル方針ヲ横流セズ、物價ハ內地ニ此シ、奉天ハ人口百五十万人ニ達シテ過剩ノ氣味アリ、殊ニ工場如シ、

集中シタルト金持多キ關係アリ、シカモ奉天省ハ農地少ク消費省ニシテ省外ヨリノ糧穀移入ヲ抑制シ居ル爲關係上行ヒ居リ、哈爾濱ハ商業ノ傳家旬ガ關ノ中心ナルモ背後ニ廣大ナル生產地ヲ控ヘ且奥地向物資モ時期的ニ奥地ニ輸送セラレザル間ハ此處ニ集積セラルルモノナレバ新京ニ次イデ物價低廉ザリ

新京及哈爾濱ニ於テハ通帳制ヲ採用シテ配給ヲ行ヒ居リ、新京ノミハ本年末ヨリ綜合通帳制ヲ採用スル豫定ナリ、配給機構及原價計算モ次第ニ確定セラレ複合民族國家トシテノヤリニクサハアルモ、統

斯カノ如キ問題ニ於テハ滿人ノ底ニ流ルル心理ヲ把握シテ長期ニ亘作ルコト必要ニシテ日本側ニ於テモ直ニ表面ノ效果ヲ擧グル如キコトニアセラズ且日本側ノ人事移動頻繁ニシテ滿人ガ如何ナル方向ニ進ムベキヤ迷ワガ如キコト無キ樣措置スルノ要アルベシ

M-0396
0407
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

制力ノツキツツアルハ、疑フ餘レズ

洲ノ生産指數ヲ見ルニ昭和十一、十二及十三年ノ平均ヲ百トセバ年來ハ生産材ハ百五十乃至百六十ナルニ消費材ハ概ネ百ニシテ增加シ居ラズ他方日本其ノ他ノ地域ヨリノ消費材ノ輸入モ減少シタルヲ以テ綿布其ノ他ノ物資ノ統制配給ヲ必要トセルハ明白ナリ

尙此ノ數年間ノ統計ヲ見ルニ農產物ノ昂騰ハ日用品ノ昂騰ニ比シカリ高率ナルヲ以テ農村ノ購買力ガ相對的ニ增加セルコトヲ感知シ得（別表參照）

（備考）

滿洲ノ國民所得ハ昭和十五年推計六十七億圓ニシテ本年ハ八十億圓余ナルベシ貯蓄ハ昨年十五億ノ計畫ニ對シ實績十一億ニシテ本年ハ十六億ノ計畫ナルガ四、六月實績ハ計畫ノ四分ノ一ヲ超過セルモ四、六月計畫ニハ及バザリキ、

民族資本ノ貯蓄ヘノ動員ニハ金利ノ點ニ「ネック」アリ

日滿支卸賣物價指數比較

	新京	奉天	哈爾濱	平均	東京	三都市平均	東京
	指數	騰落率	指數	騰落率	指數	騰落率	指數	騰落率	指數	騰落率
十二年六月	一〇〇・〇									
十三年平均	一一〇・六									
十四年平均	一四六・二	(十)二一・二	一四三・九	(十)二三・九	一四四・八	(十)一三・四	一一六・四	(十)一〇・四		
十五年平均	一八二・〇	(十)二四・五	一七八・八	(十)二五・一	一七九・六	(十)一七・六	一四〇・一	(十)二四・四	一三〇・六	(十)一二・二
十六年平均	二〇〇・五	(十)一〇・二	一九七・八	(十)一〇・六	一九七・四	(十)九・九	一八八・六	(十)一〇・三	一四八・六	(十)一三・八	一三八・六	(十)六・一
十七年平均	二二六・六	(十)九・〇	二一七・一	(十)九・八	二一九・三	(十)一一・一	二一二・七	(十)一二・七	一六四・八	(十)九・六	一四八・九	(十)七・四
十八年七月	二四〇・三	(十)〇・六			二四二・五	(十)〇・一						

	新京	奉天	哈爾濱	平均	東京
東亞戰爭	一五・四	一六・六	一五・七	一五・九	九・九
第二次歐洲大戰	六〇・三	五五・四	六〇・九	五八・九	三七・三
滿洲事變	一四〇・二	一四二・二	一三九・四	一三七・二	五六・八

M-0396

0408

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

新京御賣物價類別指數

（昭和八年平均＝一〇〇）（單純算術平均）

種別 / 品目數 / 年月	國內品 一一	輸出品 一三	輸入品 三三	原料品 一三	消費財 三八	設備財 一二	農民購入品 一九	農民賣却品 八
昭和十一年平均	一〇四・三	一四七・三	九〇・七	一〇〇・八	一一二・三	九二・四	一〇三・二	一五四・〇
昭和十二年平均	一一七・〇	一六五・四	一一三・三	一一一・四	一二三・〇	一一二・〇	一一二・〇	一七八・八
昭和十三年平均	一三七・四	一六七・二	一四九・〇	一四七・八	一四九・八	一四四・六	一四一・八	一八五・四
昭和十四年平均	一七五・〇	二一八・九	一六九・九	一六八・〇	一九一・八	一七二・七	一七一・一	一五三・二
昭和十五年平均	二一七・七	二八六・〇	二〇一・九	二〇四・七	二四九・八	二一四・八	二〇三・〇	二四二・〇
昭和十六年平均	二七二・五	二九五・一	二一七・七	二三四・六	二七二・〇	二四七・八	二三〇・七	三一〇・三
昭和十七年平均	二九二・七	三二四・三	二二四・四	二四五・五	三〇二・五	二七三・〇	二四二・八	三五〇・三
昭和十八年七月	三四九・六	三五七・四	二四四・六	二四〇・一	三二七・一	三〇〇・六	二六七・四	二七二・九

新京ニ於ケル重要商品卸賣物價指數

昭和八年平均＝一〇〇

年別 / 品目別	大豆	豆粕	豆油	小麥粉（普一等）	小麥	粱	粉絲（十六番手）	糖	布	鹽
昭和十一年平均	一〇三・二	一五五・〇	一七〇・四	一一〇・三	一一九・四	一一二・七	一〇三・六	一〇一・一	九〇・九	一二四・九
昭和十二年平均	一六七・二	一七〇・四	一八〇・七	一四四・〇	一四九・〇	一三八・五	一一四・一	一一〇・七	一〇四・七	一六九・二
昭和十三年平均	一五九・一	一六八・八	一七〇・七	一八六・二	一九三・〇	一八四・六	一一六・九	一一五・八	一一六・〇	一九六・三
昭和十四年平均	一九九・二	二三〇・二	二一三・四	二一三・三	二一三・五	二一四・六	一一八・一	一一八・八	一一七・〇	一九六・八
昭和十五年平均	二三〇・七	二五四・六	二四〇・四	二一五・八	二一三・〇	二一四・六	一一七・六	一一七・八	一一七・七	二四九・九
昭和十六年平均	二四五・〇	二三〇・九	二三五・四	二一九・〇	二一三・三	二一四・六	一一七・〇	一一七・〇	一一七・七	二四七・六
昭和十七年平均	二七〇・八	二三九・二	二五三・四	二一九・〇	二一三・三	二一四・六	一一七・〇	一一七・〇	一一七・七	二四七・六
昭和十八年七月	四〇五・一	五〇六・三	二九〇・〇	三〇四・五	三〇三・二	三〇三・二	二六七・六	三〇〇・一	二九八・九	三六九・八

M-0396

0409

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

| | | |

第三篇北支

第一章　總括的問題

北支ノ治安ハ決シテ良好トイフテ得ズ、共産軍ノ熾烈執拗ナル反抗ニ依リ一年交戰一萬七千回我軍ノ死者四千人ニ上リ戰國時代的樣相ヲ呈ス

敵ハ「オルドス」方面ニ飛行機ノ前進基地ヲ建設中ノ模樣ナレバ北支ノ重要產業ハ特ニ防衞措置ヲ强化シツツアリ、開灤ノ如キモ少ク、トモ水授受ハ兎ニ角ルル爲發電機ノ增設等急ギツツアリ

日本ノ經濟建設工作ノ妨害ノ一例トシテ炭鑛ニ對スル壓迫ヲ見ルニ本年ハ一月以來二十八回ニ及ビ焦作炭鑛ニ對スルモノ最大ナリ、又冀東灤縣ニ於ケル華北勞業ノ水田開發ノ如キモ保安隊及自衞隊ガ銃ヲ執ハルルコト少ナカラズ、昨年四月ヨリ本年八月迄ニ二十五回ノ襲撃ヲ受ケタリ

斯カル情勢ニ即應シ北支ニ於テハ特ニ軍事、政治及經濟ノ工作ガ一元的綜合的ニ立案實施セラルルノ要アル處新政策實施以來ノ狀況ハ少

クトモ奥地ニ付テハ一時的現象ナルヤモ知レザルモ把握力減退ノ趨勢ニアリ

時務機關ハ新政策以來連絡部ト改稱セラレ從來ノ領導的任務ハ行ハズ情報蒐集ヲ主トスルコトトナリ特務機關ニ勤務シ居リタル人員ノ中或ル者ハ領事館ニ引繼ガレタリ、領事館ガ弱体ナル爲ノミナラズ支那側ノ地方機關モ力弱キ爲奥地ニ對スル把握力ハ極メテ弱化セルコトハ疑ヲ容レズ物動物資ノ蒐買、增產、輸送等ニ付テハ今後余程ノ努力ト工夫ヲ要ス

新政策實施ニヨリ軍ガ一時ニ手ヲ引クコトトナルヤ三月乃至五月中ニ治安ノ惡化「デマ」ノ橫行、物資ノ出廻減等ノ結果ヲ來シ戰局重大化ノ一時ナリトモ逆行ヲ來セルコトハ甚ダ遺憾ナリ

新政策實施ニヨリ軍ガ一時ニ手ヲ引クコトトナルヤ三月乃至五月中ニ治安ノ惡化「デマ」ノ橫行、物資ノ出廻減等ノ結果ヲ來シ戰局重大化ノ一時ナリトモ逆行ヲ來セルコトハ甚ダ遺憾ナリ

政務委員會モ上層部ハヨキモ下層ノ者ハ統制ニ對スル認識及自覺ニ乏シク假令支那側ニ委シタリトモ人材ト組織ノ缺除トニヨリ志ヒテモ思フ樣ニイカザル憾アリ

M-0396

0411

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

北支ノ經濟開發ノ上昇曲線ハ一應頭チウチタル形大ニシテ之ヲ石炭生產數量ニテ示セバ左ノ通リ

昭和十三年	一千萬瓲
十四年	一千四百萬瓲
十五年	一千八百萬瓲
十六年	二千四百萬瓲
十七年	二千七百萬瓲
十八年	二千八百九十七萬瓲ノ計畫ナルモ實績ハ之以下

以下ナルベシ本年六月ノ實績ニテハ七十六%

%ナリ

十三年ヨリ數年ハ破壞ヨリ復興ヘノ段階ナリシガ今ハ一應落着キ申故ルコト及情勢ノ重大化ニ伴ヒ資材食糧ノ不足セルコト等ニ依リ本年度遂度ヨリガ擧ロ開發上ノ頂點ニ班ズヤト認メラル

第二章　八路軍ノ狀況

昭和十年春蔣介石ノ討伐ニ遂ヒ江西省ヨリ二萬五千里ノ長征ヲ爲シテ陝西、甘肅ノ僻地ニ追ハレタル共產軍ハ昭和十一年秋ノ西安事變ヲ機トシ國共合作ニ成功シ支那事變勃發以來ハ從來ノ紅軍ヨリ國民革命軍ノ正規軍ニ化シ第十八集團軍トシテ抗日ノ檜舞臺ニ活躍スルコトトナリ、爾後ノ活動ヲ遂擊發展期（百團大戰迄）防禦建設期（大東亞戰爭勃發迄）及政治攻勢期ノ三ニ分ツコトヲ得

一、戰爭勃發迄

我軍ガ共產軍ト相見エタルハ昭和十二年八月共產軍ガ四萬人中三萬人ヲ動員シテ山西省北部ニ押寄セ我ガ第八師團ニ破碎セラレタル時ニシテ爾後彼等ハ五台山地區ニ逼塞シ軍ノ擴大、黨組織ノ伸長ヲ圖リタリ

即チ我軍ガ徐州、武漢攻略ノ爲南下シ軍慶軍ノ歸路遮斷ニ當リ居リタル機ニ乘ジ彼等ハ敗殘兵、[illegible]農民等ヲ糾合シ昭和十三年秋ニハ其ノ數二十萬トナリ、十五年ニハ正規軍三十萬ニ及ビ之ニ外廓武裝團体ノ九十萬人チ加フレバ無慮百二十萬ニ達スル大軍ニ發展シ同年地區チ四

M-0396

0412

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

邊區ニ分チ晉綏陝甘寧邊區、晉察冀邊區、晉冀豫邊區及魯豫邊區ト
セリ

彼等ハ此ノ武力ヲ以テ十五年八月大規模ノ反攻ヲ爲シ來リ石太線ノ一
部襲擊及井陘炭坑ノ破壞ヲ行ヒタルガ此ノ百團大戰ハ百個聯隊ヲ使用
シ十六年ヨリハ「ゲリラ」戰爭ノ機トシ我軍ノ彼等ニ對スル組織革リ、十六年八月ニハ正
規軍二十萬不正規軍六十萬計八十萬人ニ低下セリ
仲戰ノ重點ヲ共產軍ニ移行シ重點的討伐ヲ行ヒタル爲本年八月ニハ正
彼等ノ戰略方法ノ變化ヲ見ルニ百團大戰ノ結果大規模ノ武力反抗ハ機
性多キノミナラズ爾後三年間ニ亘リ報復セラレテ工合惡キコトヲ知リ
タル爲政治戰ニ轉換スルコトトナリタリ

元來共產軍ノ戰略ニハ二ツノ對立セル論爭アリテ李立三及陳獨秀ノ如
ク「トロツキー」的急進派ハ武力革命ヲ專トシ、峰起ヲ以テシ鎭壓ヲ
爾ミズ叛乱スベシトナシ南昌暴動、武裝革命ニ成功セルモ之ニ反對ス
ル論者ハ先ヅ鉋迄地下ニ潛ミ力ヲ蓄ヒ大丈夫トイフ時ニ
一旦反攻スベシト主張シ居リテ百團大戰ノ戰法ハ此ノ後者ヲ採ルモノ
ノ外ナラズ

嘗初毛澤東ハ一九四三年總反攻說ヲ主張セルモ其ノ成ラザルヲ見ルヤ
總反攻ノ具體的時期ニ付テハ明言スルコトヲ避ケルト共ニ右ハ國際情
勢ノ展開如何及新政權側ニ對スル工作ノ進展如何ニ依リテ決定スベキ
モノナリト說キ現在ノ段階ニ於テハ地下潛行ノ政治運動ニ依リ民衆ニ
働キカケ總反攻ノ時期ニ於テ內應外攻通敵ヲ反ニ依リ全面的ニ第二ノ
南洲事變ヲ起サシムル目途ノ下ニ工作ヲ爲シ居リ、此ノ意ニシテ放置
センカ消ル處ヲ知ラズ、共產軍ハ「日本
ハ大海ノ中ニ浮ベル孤島ニシテ時至レバ島ト共ニ沒ノ運ブヲ避クル能

M-0396
0413
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ハ甚ダ「ベシ」ト宣傳シ居リ、治安狀況ヨリ見ルモ河北省及山東省ノ治安惡化ハ顯著ナリ（山東省ニ於ケル苦力募集數ノ減少ハ共產軍ノ妨害工作ニ依ルモノヲシテ目下探索中）、東ノ如キモ昭和十五年頃ハ治安ヨカリシモ今ハ全ク不良ニテ滿洲モ去年ハ匪賊二百ヲ號シ居リシガ本年ハ數百ヲ數ヘ東ヨリモ產兵人込ミテ熱河ノ治安惡クナリタリ

八路軍ノ武力反抗方法ノ變化ニ付注目スベキ一傾向ハ昭和十六年八月頃ヨリ以來ハ武力的ニ弱キ支那軍ヘノ反擊ヲ爲シタルモ中共ガ秘密組織ニ依リ內應外攻ヲ事トシニ日本軍ヘノ反擊ヲ爲シタルモノト見ヲ日ニ

ノ旨ノ指令發セラレタルガ十七年夏ヨリ其ノ指令徹底セルモノト見ヲ日ニ軍ヘノ襲擊ハ大イニ減少シ支那軍ヘノ反擊ハ增加シ前年夏トヘ全ク反對ノ傾向ヲトリタリ、新方針ノ發明以後彼等ノ活動ハ頓ニ活潑化シ本年八月事變以來最モ治安惡化セル時期ナリ

	日本軍ヘノ襲擊回數	支那軍ヘノ襲擊回數
十六年八月	一二五〇	五〇
十八年八月	八〇	三〇〇

「モスコー」ノ「第三インター」ヲ廢止シ世界革命理論ヲ差當リ拋棄セルハ世界ガ樞軸反樞軸ニ分レテ戰爭シ居リテ「第三インター」ガ世界各國ノ共產黨ニ指令スルヨリハ寧ロ各民族ニ適シタル共產黨ヲ作ラシムルヲ可トセルモノニシテ支那ニ關スル指導權ハ凡テ延安ノ中國共產黨ニ委ネラルヽアリ、其ノ表ハレトシテハ例ヘバ十七年春ヨリ實施セラレ居ル三風運動及本年五月二十六日延安大會ニ於ケル毛澤東ノ演說ヲ擧ゲルコトヲ得ベシ

(1) 三風運動トハ學風、文風及黨風ヲ拋棄スベシトイフニアリテ學風ノ拋棄トハ學術研究態度ヲ改ムルコトニシテ單ニ「マルキシズム」ノ研究ニ止マラズ孫文、安重山、長髮族ノ變等ノ研究ニモ重點ヲ置クベキコトヲ意味シ、文風ノ拋棄トハ共產黨ハリノ雜誌ニシテ癖ノアル文章ヲヤメルコトヲ意味シ又黨風ノ拋棄トハ「ロシヤ」

M-0396

0414

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ノ爲ノ革命ニ非ズシテ中國ノ爲ノ革命ヲナスベキコトヲ意味ス

(2) 延安大會ニ於ケル毛澤東ノ演說ハ第七次コミンテルン大會ノ指示ニ依リ行ハレタルモノニシテ左ノ三點ニ付重慶側ト交涉ノ意アル旨ヲ表明セリ

(イ) 甘肅邊區ノ解消

(ロ) 第十八集團軍ヲ中央軍事委員會直轄指揮下ニ置クコト

(ハ) 特殊金融狀況ハ解消

(3) 重慶ト共產軍トノ關係ハ一進一退アルモ重慶トシテハ第三「インタ」解散ヲ機會ニ陝西甘肅包圍等對中並態度ヲ硬化シ居ルモノノ如キモ黃河以北ニハ閻錫山ノ部隊以外ニ強力ナルモノナキ現狀ニ於テハ共產軍ノ地下工作ハ年ヲ經ルト共ニ根ヲ下シ行ク公算大ト謂ハザルベカラズ

共產軍ノ特徵ハ(1)實力アルコト(2)民衆ニ利益ヲ與フルコト及(3)此點ヲ以テ重慶ヲ壓迫スルコトニアリ(イ)惡德官吏ガ苦力賃金ヲ搾取スルヲ嚴禁シ(ロ)共產軍ヨリ苦力一人ニ一元宛給與シテ民心把握ニ努ムル等ヘ此ノ點ニ於テ第三ノ例ヲ引ク統計ニ依レバ共產幾員ハ村人ノ二十分ノ一乃至三千分ノ一ニ過ギザル數ニ過ギザルモ軍ノ內部ニモ夫々政治部ヲ組織シ頗ル強力ニシテ軍ノ內部ニモ夫々政治部アリテ幾員之ヲ占メ軍ト民衆トノ潤滑劑トナリ且敵軍ノ赤化ニ努メシメ又縣村等ニハ幾國ヲ以テ「ブラグ會」ヲ置キ共ニ參議會ヲ以テ「ブラグション」ヲ置キ共ニ參議會ヲ以テ側面ヨリ工作セシム

(1) 租稅政策ニ付テハ統一累進稅ヲ採リ富農壓迫ヲ圖ルト共ニ最下限(一家ニ於テ富力ヲ要スト爲スニ)以下ハ課稅セズ

(2) 土地政策ニ於テハ土豪劣紳ヲ沒落セシメ中小農ニ土地再配分ヲ爲シツツアリテ昭和十二年以來今年迄ノ六年間ニ共產軍地區ノ富農地主ハ殆ンド解消セシメラレタリ斯カル減租ノ外ニ減息ヲ實行シ中小農ノ金利負擔輕減ニ努メ居レリ

M-0396

0415

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

奉祝教育ヲ行ヒ他ノ訓練亦嚴重ニシテ青少年ノ把握ニ努メツツアリ本年ヒ北京大學在學生中五二%ガ敵地區ニ逃亡シ加之成績好ナル者ガ多數共產黨ニ投ズル傾向アリ

宗教政策ニ付テハ宗教否認ヲ唱ヘ居ルモ民族政策ニ於テハ宗教ヲ利用シ居リ

共軍ノ兵士ガ國家ニ甘ンズルノ例トシテ優ヘラルル處ニ依レバ聯隊醫藥給料ハ一月五圓ニシテ支機密費ハ總テ一月三十圓ニ止マリ其ノ殘額ニハ酒煙草ヘ使用セズ兩爪ノ種ヲ落花生ヲ用フト云ヘル程物資少ク少ク窮乏セル地域ナレバ假令資澤ヲ希望スルモ實現シ得ザルコトハ云ヘ强ヒテ之ヲ强ヒントスル氣持ニ依ルベカラズ

路軍對策

斯カル狀態ニ於テ我方トシテノ對ソ政治ヲ行フコト以外ニ之無ク非支政權ノ强力化貧官汚吏ノ處分經濟建設ノ促進住民ノ窮乏ノ救濟ヘ天災アリタル土地トカ鹽ノミアリテ食糧ナキ土地ハ赤化シヤスキコトハ生目ノ當アリ一日本人ガ眞ニ日本人タルノ

自覺ニメザメテ行動スルコト等火急ノ要務タリ

M-0396

0416

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

（參考）北支共產軍兵力概

集團軍	所屬部隊	兵力概數
晉察冀邊區	太行、太岳、冀中、冀南、冀魯豫邊區	四〇、〇〇〇
晉察冀	冀魯豫邊區	三〇、〇〇〇
晉綏	山東第一區	四五、〇〇〇
晉綏	晉西北、甘寧邊區	六〇、〇〇〇
小計		一七五、〇〇〇
陳毅		四〇、〇〇〇
總計		二一五、〇〇〇
共產游擊隊		六〇、〇〇〇

註、將介石軍八正規軍八三三、〇〇〇人及將系不正規軍有力匪團六〇〇、〇〇〇人ヲ有ス

第三章　北支ニ於ケル諸物資ノ生産状況

(一)製鐵

北支ノ製鐵事業ノ概況ハ左ノ如シ

（大型又ハ中型）

(1)石景山二百噸能力

(2)太原百二十噸一基及四十噸一基

(3)陽泉三十噸一基及二十噸一基

以上ニテ統計九萬噸ノ能力アリ

(4)尚石景山ニハ釜石ヨリ三百八十噸ノ豫定ナルガ輸西ヨリノ移設ハ中止トナリ大阪ノ大谷ヲ移スコトトナリタリ

(5)青島ニ二百五十噸爐ヲ設ケタルガ冷風ナルト「コークス」ノ灰分ガ二十六%ナル爲殆ド出銑セズ、目下技術的ニ再檢討中ナリ

M-0396

0417

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

（小型）

	計畫	火入濟	生産狀況
石景山	二十噸十基	六基	一基ハ修理中一基ハ十八噸生産中
開灤	二十噸二十基	二基	二十噸生産中
天津中山	二十噸五基	一基	
陽泉	二十噸一基	一基	
太原	四十噸二基	二基	四十噸爐ヨリ二十噸ンカ生産セズ

石ノ小型爐ノ未完成ノモノハ明年上半期中ニ完成スル豫定ナリ、本年度ノ小型ニ依ル出銑ハ二十七萬噸ノ計畫ナリシモ現在ノ見透ニテハ十一二萬噸ニ止マルベシ

昭和十年度ノ要求ニ依レバ北支ニ於テ小型爐ニ依リ六十萬噸ノ銑鐵ヲ生産スルコトトナリ居ルモ北支トシテハ小型爐ノ生産狀況芳シカラザルニ鑑ミ（開灤ノミハ「コークス」良好ノ爲生産能率ヨキモ夫以外ハ工合悪キヲ以テ寧ロ中型又ハ大型ノ移設ヲ希望シ居レリ

銑鐵石ノ狀況ハ左ノ如シ

(1) 利國ハ品位六十%ニシテ日本鋼管ガ採掘ノ上扇町ニ送附居リ

(2) 金嶺鎭モ品位ハヨキモ硫黄分多キ缺點アリ

(3) 山西及開灤ノ司蒙營ハ四十五%ドマリニテヨカラズ

(4) 青龍ハ大倉家ガ本年對滿四十五萬噸ノ愛北支五万噸ノ計畫ナリシモ當道切斷シテ滅產セル爲北支ニハ來ラザルベシ

(5) 大冶ヨリ十万噸北支ニモラフ豫定ナリシモ空爆ノ影響ヲ受ケ來ダ輸入實績ナシ

M-0396

0418

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(三)石炭

北支ノ石炭ハ本年度粘結炭一千六百十二萬噸、有煙非粘結炭四百六十九萬噸、無煙炭四百八十三萬噸合計二千五百六十五萬噸ヲ生産目標ニシテ對日五百萬、對滿三百萬、對中支二百三十萬、對南方二十萬ヲ一應ノ輸出計畫トス

本年四五月頃ヨリ滅産ノ傾向顯著トナリタルハ日滿ノ製鐵業ニ關係アル原料炭ノ山ニ重點ヲ置キテ施策シツツアリ、滅産理由ノ七割ハ苦力不足ニシテ三割ハ資材不足、能率低下、水害及坑内事故ニ基因スト、苦力ノ不足スル理由ハ食糧不足ニ因リ炭坑ノ魅力失ハレ食糧豊ナル農村ニ歸ル爲ニシテ收獲期ニ於テハ農村ニテ經期間ニ高賃會ヲ稼ギ得ルヲ以テ炭坑ヨリ歸農スル者多シ、亦共産軍ノ力ガ炭坑附近ニ於テ强力ナル場所ニテハ炭坑ヘノ種勤者ヲ扎カシテ業ヲ怠ラシメ或ハ日本人ハ苦力ヲ殺ストイフガ如キ逆宣傳ヲ行ヒテ妨害ヲ爲

シ或ハ抑江、陽泉ノ如ク襲來リテ苦力ニ恐怖ヲ植付クル如キ妨害工作ヲ行ヒ居レリ

從來苦力ノ安カリシ爲機械化ニ努メ居ラザル炭坑ニ於テハ直ニ生産ニ影響ヲ及ボスコト大ナリ、例ヘバ開灤ニ於テハ二千四百頭ノ馬ヲ使用シ居ル處馬糧不足ニテ惱ミ或ハ中興ニ於テハ人力ニテ押ス炭車ガ苦力不足ニ依リ使用シ得ザル如キ狀況ナリ

開灤、中興、井陘ハ大規模ノ設備ヲ有スルモ夫以外ハ小設備ニヨリ淺キ地層ヲ掘ルニ止マルヲ以テ明年度ニ大ナル坑口ニ着手シテ施設ヲ行ハザル限リ二十年度ハ出炭減トナルヲ避ケ得ザルコト明ナリ

M-0396

0419

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(ロ) 土

手ニハ計畫通当日迄ニ合可申候ニ付キ明年度日本ハ「アルミナ」用二十五萬噸ヲ要スルヲ以テ採掘ニハ三十萬噸ヲ採リ其ノ為ニハ三十萬噸ヲ採掘シテ選鑛セザルヲ得ズ、ニヨリ人ノ苦力ヲ要スルコトト採掘及運搬ノ人手ヲ要スルトニ依リ

(ハ) 「ボルミナイト」

是迄ニ曾テ石灰法ヲ以テ「アルミナ」ヲ製出シ、十一月ニ鐚石統制會社ルミニ」ニ高純ニ製シ置キタル品ヲ以テ「アルミナ」ヲ製出スル處ガ神工場ハ三萬八千並テ生産スルニハギスンカモ鍛鍊ノ「フクラマジ」ニ使フガアル、從ツテ西地ノ工場ヲ北支ニ移轉スル要ス

(ニ) 鐚石

芝罘及青キヨリ本年四月三千噸ヲ産出スベク十一月ニ鐚石統制會社ノ設立ヲ見ハ採掘箇所ノ整理及工鑛隊ノ増強ニヨリ略計畫ノ實績ヲ續テ擧ゲベシ

(ホ) 俺及鉄石

(ヘ) 石油、曹曲及鳥石

安不良ノ為計畫通ノ取得ハ困難ト認メラル

(ト) 青

本年度十二萬噸採掘計畫ナルモ倉繰不足ニヨリ苦力不足ノ為ニ馬車少ク目下鋤柔テ燃不足ノ為輸送用馬車少ク目下鋤柔テ居ルモ、大部分ハ露天掘ナル為ニ支障テ來ス、大部分ハ露天掘ナル為ニ支障テ來ス、

(チ)

北支ノ主ハ敦手南ノ産田青成ガ良テ品位ハ三割ニ達シ且不加意ナリタルニ「スト日迄不加意ナリタルニ「ストツク」ヲ生ズル次第ナリ

長等ハ山東ニ分ケテ説明スルニ左ノ如シ

(1) 長靈ニハ本年度二、二一〇噸ニ對シ生産計畫ナル處九月末ノ生産額八二、二七三、〇〇〇噸ニメンテ昨年ノ實績タル九五二、〇〇〇噸ニ比シ二割七分ノ増産ナリ

M-0396

0420

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

對日供給ハ本年度六一、四〇〇、〇〇〇瓲ヲ適出シタリ

(2) 山東鹽ハ本年度三八、〇〇〇、〇〇〇瓲ノ生産計畫ニ對シ八月末生産實績ハ三〇、二〇〇、〇〇〇瓲ナリ

對日供給ハ一〇、〇〇〇、〇〇〇瓲計畫ニシテ八月末實績ハ八、一〇〇、〇〇〇瓲ナリ

(3) 以上ノ結果明年度ヘノ持越ハ六十萬瓲ニ上ルベシ

(4) 鹽素ハ華北鹽業、山東鹽業及東洋化學ノ三社ニ於テ生産シ居リ本年一、四三〇瓲ノ計畫ナリ、華北鹽業及山東鹽業ハ海岸ヨリ、東洋化學ハ陸運ヨリ資材ノ割當ヲ受ケ居レリ

一〇一

(5) 補充

昨年九月ヨリ本年八月迄ノ一年間ニ三百六十萬瓲ノ補充生産中六、八千萬瓲削除ニ付計畫ノ三十萬瓲ヲ適當セリ、其ノ中二百萬瓲ハ昨年九月ヨリ十二月末迄ノ四箇月ニ繰メ待タルガ本年一月ヨリ八月末迄ニハ三十萬瓲ニ止リタリ、本年九月ヨリ十月末迄ノ新補充付ハ六萬瓲ニスギズ十八補充年度綱計ハ六十萬瓲以上ノ補充付ハ殆ンナルベシ

補充付ハ何レモ高値ニ買付ケル傾向著シキ以上買付ケ迄ハ不買當ナリトノメラル

最近ノ如ク英軍ガ我方ノ南支一帶ニ三百萬瓲中目下漸減中ナルハ十萬瓲ニスギズ、民需用補充ノ絶對少ナキ北支ノ如ク英軍ガ我方ノ買付量ガ減少シ、ヒイテハ再ビ民需用土布ノ生産ガアエデ我方ノ買付量ガ減少スルコトトナリ漸次循環ヲ中斷シ停ザルヲエアリ、本年春頃迄ニハ土糸ヲ以テ土布ヲ仿ダ程度ノモノガ大部分ナリシモ當面ハ土

一〇二

M-0396

0421

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

糸土布ノ双方ガ無村ニ於テ生産サルル状況ナリ
明年度ハ棉花地帯ガ食糧ノ作付ニ
相當減少スベシ
(ロ)回收物資
銅子兒ノ回收ハ本年度五千地計畫ニシテ上半期ノ實績ハ三千地ナリ、三
最近天津ノ銅相場ノ値上リ及中支ノ買値ガ北支ヨリ高キコト（中支ハ
三千五百圓乃至四千圓ニシテ北支ハ二千五百圓）ニヨリ思フ樣ニ買上
ゲ得ズ
屑鐵ハ從來日鐵ガ回收シ居リタルヲ今回開發會社ガ引繼ゲコトトナリ
タリ
(ハ)セメント其ノ他ノ設備轉用
「セメント」ノ需給ハ益々難局トナリ
新ニ防空用壕等ノ增加シタルガ爲「セメント」ハ行フコトトナリタリ
タルヲ以テ左ノ如ク設備轉用ヲ行フコトトナリタリ
(1)南京棲霞山ノ江南水泥工場ノ設備中一基ハ十一月中旬ヨリ取外シニ
着手セリ、第二次トシテ更ニ一基ヲ終ス計畫ナリ、

(2)廣東工場ノ損傷アル「キルン」一基ヲ十一月ニ取外シニ着行セザリ
(3)內地ノ宇部「セメント」ノ一基ヲ十一月取外シニ着手セリ
ボイラーノ設備特用ハ左記ノ計畫ヲ有ス
(1)德山曹達ノ「ボイラー」四鏈
(2)香港ノ「ボイラー」（發電機ハ昭和電工ノモノヲ期待シ居リ）
(3)無錫ノ慶豐紡績會社ノ「ボイラー」

M-0396
0422
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

四、華北支ノ食糧事情

北支ノ食糧生産ハ小麥七百萬噸、雜穀一千萬噸、豆類五百萬噸、藷類七百萬噸合計二千九百萬噸ニシテ人口九千萬乃至一億トスレバ一人當リハ滿洲ノ半分ニスギズ、從ツテ大部分ハ農村ニ於テ消費セラレ都市ニ出廻ル量ハ僅少ナリ、從ツテ事變前ハ滿洲、加奈陀、米國日本及中支ヨリ五十三萬噸（二千四百萬俵）ノ小麥ヲ入レ、滿洲及蒙疆ヨリ六十萬乃至七十萬噸ノ雜穀ヲ入レ、南方ヨリ八萬乃至十萬噸ノ米ヲ輸入シ居リタリ、大東亞戰勃發後ハ第三國輸入ハ停止シ且蒙ヨリノ輸移入モ減少シ共產軍ノ妨害、天災等ニ依リ域內ノ增產モ意ノ如クナラズ、新政策實施以來ハ輸移入ハ依然日本側ガ責任ヲモテ軍需及重要產業ヘノ配分ヲ行ウモ域內買付ハ支那側ニ委スコトトナリタリ、然ルニ支那側ハ機構整ハズ經驗モ少キ爲麥ノ出廻期ニモ竟ニ十分ニ行ハレズ共產軍ガ治安地區ノ買付ニ迄進出シ來リタルヲ以テ八月以降軍ノ兵力配置ヲ要スル

更ニ支援ヲ與フルコトトナリタリ、滿洲ヨリノ輸入ハ計畫通リ行ハルベク蒙疆モ計畫ヨリ若干少キ程度ニテ輸入行ハルベク中支モ十二月末迄ニハ四百萬俵ノ移入行ハルベシ（中支ハ粉麥等蒙委員會アリテ他ノ物資ニ比シ圓滑ニ活動居リ）

本年春以來ハ經濟封鎖戰ヲ完全ニ行フニハ武力的ニ難點アリ、低キ公定價格ニテ買ハントスレバ敵地區ニ流レ、一旦敵地區ニ入リタル物ヲ買ハントスレバ法外ナル高直トナル點アリ

M-0396

0423

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

北支ガ他地域ヨリ輸入スル食糧ハ左ノ通

(1) 滿洲ヨリ輸入スル穀類ハ昨年十二月ヨリ現在迄ニ二十萬噸ノ貨車アリ今ヨリ三末迄ハ輸入ノ見込ナシ

(2) 蒙疆ヨリ輸入スル穀類ハ本年一月ヨリ三萬噸ノ貨車アリ

(3) 中支ヨリ輸入スル小麥粉ハ昨年六月ヨリ本年六月迄ニ十萬噸弱（五百三十萬袋）ニシテ本年ハ五百七十萬袋ノ計畫ナリ

(4) 外米ハ本年一月ヨリ二萬噸輸入ノ貨車アリ十二月迄ニハ更ニ一萬噸ヲ要スルベシ

(5) 事變前ニ於ケル濠洲及加奈陀ヨリノ小麥粉輸入ハ一年百萬噸ナリシモ現在ハ其ノ「ストック」ヲ盡ク費消セリ

北支ニ於ケル食糧ノ增産ニハ水利事業ノ振興、肥料ノ增加及農業技術者ノ使用ノ三ヲ必要トスル所

(1) 本年度ハ補助金ノ交付及資金融通ヲ行ヒテ井戸掘ヲ奬勵ノ如キ成果ヲ收メ得ズ

モ水位ノ低下起ル爲必シモ、豫期ノ如キ成果ヲ收メ得ズ

(2) 肥料モ太原ノ硫安工場完成迄ハ增加ノ見込ナシ（燃料ナク木ヤ草ヲ凡テ燒ク爲ニ畑ガ荒レ放題ナリ）

一反當リノ收穫量ヲ日滿ト比較セバ北支〇、〇六五噸、滿洲〇、〇八六噸、日本〇、一六五噸ニシテ北支ヲ一〇〇トセバ滿洲一三〇日本二三〇ナリ又食糧ノ一人當リ消費量ヲ見ルニ北支ハ〇、二二噸滿洲〇、三九噸日本〇、一九噸ナリ

食糧ノ殖資狀況ヲ見ルニ鐵道沿線ニ出廻ルハ總生產量ノ一割ニシテ其ノ中京津ニ來ルハ四分乃至五分ニスギズ

最近食糧ノ不足ニ因リ炭鑛等ヘノ配給ヲ減シ重要軍需品ノ若干ハ歸農ヲ欲シ重要軍需品ノ若干ハ歸農ヲ欲シ重要軍需品ノ若干ハ歸農ヲ欲

又障ヲ來シツツアリ、又絶對不充分ノ爲苦力ノ病氣多シ、

食糧ノ價格ハ左ノ如シ

小麥ハ一噸ノ市價三千五六百圓（一袋二百圓）ニシテ現實ノ場合ハ一、六五〇圓（一袋六一圓）ヲ基準トス

雜穀ハ一噸ノ市價三、五〇〇圓乃至四千圓（徐州ハ一、五〇〇圓）ニシテ現實ノ場合ハ一千圓ヲ基準トス

第五章　蘇淮移管問題

蘇淮問題ニ付テハ北京大使館ノ經濟上ノ問題ヨリ反對セルモ結局既定方針通リ實行スルコトトナリ只同地區ノ食糧現實ノ成否ガ北支ノ生死ヲ決スル鍵ナルニ付中支側ハ責任ヲ以テ協力スルコトトナリタリ

（蘇淮ノ生産）

北支食糧ニ於テ蘇淮ノ占ムル地位ヲ見ルニ小麥（二十五萬噸中五萬噸ヲ蘇淮目家消費ニ殘シ殘餘二十萬噸ヲ北支ニ移入スルコトトナリ居ルノ外雜穀（一部ハ現在貯藏中ナルヤ十三萬噸ニシテ總貯藏高ハ六月末ヨリ十月二十二日迄ニ十萬噸以上ニ上ラザルヘシ、現在北支全體ニテ貯藏ケダル小麥ハ六萬七千噸ニ過ギサルヲ以テ蘇淮以外ノ地區ノ實績ハ三萬七千噸ニ止マリ年間ニモ七萬噸貯藏ノ餘地ニ於テ占ムル地位ノ如何ニ重要ナルカハ分明ナルヘシ、又北支ノ雜穀ハ四十五萬噸現實ノ豫定ナル處其ニ過ギザルヲ以テ蘇淮ノ全體ニ於テ占ムル地位ノ如何ニ重要ナルカハ分明ナルヘシ、又北支ノ雜穀ハ四十五萬噸現實ノ豫定ナル處其ノ中蘇淮ヨリ十萬噸ガ由廻リ居リテ之等ノ實績ヲ維持シ得ルヤ否ガ

M-0396

0425

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

北支重要産業ノ為ノ吉力ヲ発メ特ニ重大ナル影響ニ有スル、其ノ他油料子實（生産三省地）皮革等同地區ノ生産量ハ寔ニ大ナリト雖モ北支ノ食糧現實ニハ地區別割當ヲ行ヒ行政長官ノ責任現實ヲ民衆セル点ニ相當手遅レノ感アリ、雑穀ノ方ハ四週期ガ小麥ヨリ週キ爲、カナリ良好ナル結果ヲ生ジツツアリ）

北支ハ從來蒙疆ニ於テ實行ヲ爲スニ當リ約五千萬圓ノ最低物資ヲ供用シ居リ（小麥用二千五百萬圓、雑穀用一千五百萬圓、雑穀用一十五百萬圓、其ノ他用一千萬圓）之ヲ市場價格ニ引直セバ其ノ二倍乃至三倍ノ金額トナル、之ニ對リ小麥ハ一九二六五〇噸ニテ三億三千萬圓ヲ負上ゲ雑穀モ比較的低廉ナル價格ニテ二億ノ至三億圓ヲ要スル計畫ナリ。尚貨物ニ關シ「トラック」、貨車等ノ動員ニ依ル援助ヲ與ヘ居リタリ

右ノ外物資ノ内容ハ綿布、（一寸、赤紗布、灯油及ビヲ主トス（其ニ於テハ上海ニ實ニ仕ヲ有ス）

一一一

（ ）

（ ）

（ ）

第六章　北支ニ於ケル物資ノ蒐圍及價格

從來北支ニ於テハ物資ノ買付ニ當リ地區ヲ「ブロック」ニ分ケ當該「ブロック」ニテハ所謂一般市價ヨリ低廉ニ買付ヲ爲シ且嚴重ナル輸送統制ヲ行ヒテ鐵道「トラック」船等ノ輸送ニハ許可ヲ要スルコトトシ、且北京ニテハ城門ニ於テ檢査ヲ爲ス等ノ措置ヲ執リ居タリ、本年一月迄ハ日本軍ニ於テ取締ヲ爲シ居リタルモ新收穫ノ採用以來兵力ハ高度分散配置ノ体系ヘ點ト線ヲ結ビテ面ヲ保持スル態勢）ヲ拋棄シ集中的体系ニ移行セルヲ以テ蒐貨ニ付テモ從來ノ如キ「ブロック」蒐貨ハ之ヲ期待シ得ザルコトトナリタルヲ以テ力ニ依リ得ル限度ヲ適確ニ把握シ夫以上ノコトハ裏付物貨ノ利用、價格收斂等經濟面ノ工作ニ依ラザルヲ得ザルコトトナリタリ

十年二月以來ハ特ニ重要ナル固所ノミヲ軍ニ於テ擔當シ夫以外ハ華北交通會社社員及支那側警察官ヲシテ之ニ當ラシムルコトニ改メ之ガ爲收繼上從前ノ如キ完全ヲ來ムルコトト困難トナリタリ

（一一三）

情勢斯ノ如クナルニ不拘對日供給物資ニ付日本側ノ指値低キニ失スル爲對日蒐貨量減少シ或ハ北支ノ低物價收斂ノ強行ニヨリ蒐買量減ジヒイテハ重要事業物ノ苦力食糧ノ不足ニヨリ物資ノ生產減退スル如キ現象尚存スル如ク觀察セラル又唐山「セメント」及山西土法銑ノ如キ拿少シ支那人ノ心理ニ訴フル如キ生產ヲ避ケ得タルモノト認メラル

ク全ク支那側ノ企業ナル場合ニモ拿少價格政策ヲ採用セバ現在ノ如キ減產ヲ北支ノ對日滿國際收支上ノ受取超過ハ一昨年末ヨリ一層ナリシモ昨年三四五ノ三箇月ハ例外的ニ回收ニ向ヒ六月以降再ビ膨脹ヒリ、昨年末ヨリ本年舊正月ニカケテハ銀ノ儲備ヘノ收收「デマ」ガ飛ビ物價ニモ惡影響ヲ及ボシタリ、本年下半期ハ農產物買付ニ巨額ノ資金放出トナルベク本年ハ差引十四五億ノ放出增トナルベク昨年來ノ十七億ニ加フレバ本年ハ三十二三億ニ上ルベシ

北京ノ卸賣物價指數ニ依レバ食糧ノ指數ハ總指數ノ約二倍ノ高サニアリ、本年三月以來小麥及雜穀三品（粟、玉蜀黍、高粱）ノ公價制ヲ開

（一一四）

M-0396

0427

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

チ開始セルモ前途多難ナリ、邦人米ハ昨年ハ一石百二十圓ニテ配給セルモ本年ハ二百四十圓ナリ、油脂ハ更ニ昂騰著大ナリ

石炭及棉花ハ本年ハ去年ノ二倍ニ昂リ、

第七章　北支ノ交易

本年度ノ各地トノ交易ハ左ノ如シ

對日交易ハ對日輸出六億二千萬圓（日本㊧）ニシテ四月乃至七月ノ實績ハ一億四千萬圓ナリ、對日輸入ハ三億五千萬圓（日本㊨）ニシテ四月乃至七月ノ實績ハ一億二千五百萬圓ナリ、最近朝鮮ヨリノ生活必需品物資ノ輸入圓滑ニ行ハルヘキニシテ石炭、棉花「アンペラ」石灰等ノ對滿交易ハ輸出一億八千萬圓ニシテ四月乃至七月ノ實績ハ五千八百萬圓ナリ、對滿輸入ハ主要物資トシ四月乃至七月ノ實績ハ昨年度計畫ノ繰越分ヲ含ム一千四百萬圓ニスギズ、滿洲ヨリノ輸入ハ下期ニ多ク、「ヒメン」以外ハ概ネ計畫通リ輸入セラルヘシ

對中支交易ハ輸出二億四千萬圓ニシテ四月乃至七月ノ實績ハ昨年度計畫ノ繰越分ヲ含メ一億一千萬圓ナリ、輸入ハ四億四千萬圓ニシテ四月乃至七月ノ實績ハ昨年度ヨリノ繰越五千萬圓ヲ含メ八千萬圓ナ

M-0396

0428

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

リ

中支ヨリノ輸入ハ小麥粉、大豆粕、硫安ハ概ネ計畫通順入ヒラルベキモ、一般物資ニ付テハ中支側ノ機構整備ニヒマドリタル爲ニ四月以來甚ダ實績惡ク下期ニドノ程度トリ返シ得ルカモ疑問ナリ、殊ニ中支ノ方ガ北支ヨリ價格高キ爲ニ中支ノ輸出者トシテハ逆鞘トナルモノ多ク輸入ノ不圓滑ノ一因ヲ構成ス、

封蒙疆交易ヘ輸出三億三千萬圓、輸入一億八千萬圓ナルガ四月ヨリ

第八章　北支ノ輸送狀況

北支ノ輸送計畫ハ當初四千三百九十萬噸ヲリンモ新成章鎭ガ機關車五十五輛、貨車一千二百五十輛ニ減少セラレタル結果輸送量モ若干減少セラレタルニ於テハ石炭ノ生産減退ノ爲輸送力ノ方ガ寧ロ余力アル狀況ナリ、石炭輸送ハ對滿ハ計畫ノ八割ヲ減ジ對中支ハ上半期ハ計畫ノ八割ヲ減ジ對日ハ船腹減少ニ依リ豫定ヨリ減送セラルルモノ、如シ

居ルモ封日ハ船腹減少ニ依リ豫定ヨリ減送力ノ方ガ寧ロ余力アル狀況ナリ、石炭輸送ハ對滿ハ計畫ノ八割ヲ減ジ對中支ハ上半期ハ計畫ノ八

割ヲ減ジ對日ハ船腹減少ニ依リ豫定ヨリ減送セラルルモノ、如シ

輸送計畫ハ當初四千三百九十萬噸ヲリンモ新成章鎭ガ機關車五十五輛、貨車一千二百五十輛ニ減少セラレタル結果輸送量モ若干減少セラレタルニ於テハ石炭ノ生産減退ノ爲輸送力ノ方ガ寧ロ余力アル狀況ナリ、石炭輸送ハ對滿ハ計畫ノ八割ヲ減ジ對中支ハ上半期ハ計畫ノ八

ノ百五十噸帆船五隻ヲ建造セリ、本年度ハ百五十噸積ヲ百隻ノ計畫ニ過減セリ

戒克ハ北支ニ總數一萬隻アリ、五十噸以上ノモノニテモ十九萬噸ニ及ブ、五十噸以上ノモノニ付キ北民船運輸組合ヲ結成シ內地及朝鮮ヘノ輸送ニ當ルコトトナレリ、內地向ハ本年一月試驗輸送ヲ行ヒ八月迄ニ二十二隻、九月迄ニ其ノ外二十一隻ヲ送リ十月以降モ漸次增加シ十二月ニハ百隻乘船スル方針ナリ、カクテ本年度ニ於ケル一萬五千噸ノ輸送ヲ行ヒ本年三月迄ニ九千噸ヲ輸送セリ、其ノ後乘船ヲ增シツツアリテ明年三月迄ニハ四萬噸ヲ運ブ計畫ナリ

第五章　北支ノ電力事業

(1)唐山ノ開灤ニ於テハ自家用二万「キロ」及華北電業分一萬「キロ」ヲ存スルモ明年二月營業ニ於テ一万五千「キロ」ノ移設ヲ實施ス、送電ニ依リ大連天ノ河發電所一万五千「キロ」ノ施設ヲ豫備ニ廻シ得ルヲ以テ之ヲ開灤ニ移設方目下滿洲ト交涉中ナリ

明年春ニハ唐山ニ二萬五千「キロ」ノ發電機完成スルモ「ボイラー」ノ目當ツカズ「ボイラー」三臺ヲ對獨發註セルモ入手ノ目當ナシ六千噸「ボイラー」

(2)電業開發及啓新「セメント」ノ電力ノ綜合的使用ニ付テハ種々考慮シ居ルモ唐山、北京、天津、塘沽ノ相互間ニ一萬「キロ」ヲ送ル施設完了セリ

(3)「マグネシユーム」ノ生產ヲナストセバ塘沽又ハ漢沽ニ發電施設ヲ爲スノ要アルベシ

M-0396

0430

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(4)「アルミナ」ハ張店ニテ生産スル豫定ニテ香港ヨリ七十噸ボイラー用輸入セリ、之ニ合ハス爲横濱ノ昭和電工ノ一萬二千「キロ」「タービン」ヲ希望ス

(5)太原ノ硫安工場建設ニ伴ヒ吉林ノ九千「キロ」及宇治ノ日本「レヨン」五千「キロ」施設ノ移駐ヲ希望ス（吉林分ノミハ確定セリ）

(6)華北電業ハ現在二十二萬「キロ」ヲ有シ年末ニハ二十五萬「キロ」トナル處其ノ七五%ハ産業動力ニシテ二五%ハ灯火ナリ「ロスト」ハ一「キロ」十三錢强ニ上ル

(7)明年度發電設備ノ完成スルハ左記ノ處ナリ

石景山	二五〇〇「キロ」
南山	一六五〇〃
微水	五〇〇〇〃
磁縣	五〇〇〇〃

海洲　五〇〇〇〃（マンガレ用）

(8)水力發電ニ付テハ

(イ)北拒馬河ノ上流紫荊關ニ三萬三千「キロ」ノ廠設ヲ爲スベク昨年着手シ二十二年十二月完成ノ上ハ北京ニ送電ノ豫定ナリ

(ロ)永定河ノ分（蒙疆内）ハ既ニ坭堝ニ着手セリ

(ハ)灤河上流羅家屯ハ來年着手ノ見込

M-0396

0431

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第十章　山西省概況

第一節　山西ノ鉱業

㈠　太原鉄廠

白二十地區一本及四十鉱區三本ヲ有シ七萬噸ノ出鉱能力ヲ有ス、所要鉄石ハ七萬噸ナリ

㈡　岡泉鉄廠

所要鉄石三十萬地ニシテ山西省全ノモノニシテハ不充分ナル爲（一部ヨリモ若干ヲ出ス）能力ニ制限アリ）龍烟「コレブレッサー」ナキ爲採掘能仰ギ居レリ

㈢　土法鉱

三十地區一本及二十地區二本ヲ有ス、所要鉄石ハ七萬噸ナリ

山西ノ鉄鉱石ハ以外ハ「ポケット」式鉱脈ヲ成シテ散在シ居ル爲大規模ノ採掘ニ適セズ、古代ヨリ漫民ガ勝手ニ土法鉱ヲ生ジツツアリ

泉及盆地ニシテ本年度ノ現日價格鉱定ハ一萬十七千噸ノ見込額ハ二萬地ニシテ土法鉱ヲ利用シテ八千地ナリ、本年度ハ區ノ利設及修繕ニ充當スル爲三十萬圓ノ

補助金ヲ與ヘ居ルニ拘ハラズ實績良好ナラズ（尤モ秘ニ農具等ニ充當ヒラレ或ヘ敵地區ニ流レテ手榴彈製造ニ使用ヒラレ居ルモノアル模様ナリ）

其ノ理由左ノ如シ

(1)　價格低廉ニ過グルコト（軍經理部ニ於テ作成セル本年度買上價格ハ食糧ヲ昨年度ヨリ六割高トシテ算定シ來レル處實際ハ夫以上ノ値上リヲ見タル爲農民ハ夜間及農閑期ニ土法鉱ヲ作ルコトニ魅力ヲ失ヒタリ）

(2)　食糧配給不充分ナルコト

本年度ノ軍ノ地當リ鬼貨價格ハ鉱鐵坂ハ陽泉地區ニ三五圓五錢、安地區ハ二〇八圓三七錢ナルガ對日供給品ノ生產ヲ多クスル爲ニ一千噸ニ上ル鉄鉱製品價格ノ如キハ坂ニ比シテ安ク決定シタリ、

(3)　共產軍ニ處ラ破壊サレタルコト

M-0396

0432

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三節　山西ノ農業

山西省ハ山地多ク地形上モ他ト隔絶セラレ居ル處事變前ハ毎年十萬乃至十二萬噸ノ農産物ヲ河北省ニ出ス外、省外トノ交流ヲ爲サザリキ、閻錫山ノ北支乘出工作失敗後ハ財政建直シノ爲十年計畫ニテ地下資源等ノ開發ヲ行フコトトナリ四年間之ヲ實施シタル時北支事變勃發セリ（山西省民一千三百萬人中占領地在留民ハ現在八百萬人ナリ）山西省人山地方面ノ農作物ハ一部平地ニ由廻リ平地ノ食糧ヲ補充シタル上等變前ハ河北省ニ年商十萬噸以上ヲ移出シタルガ現在ハ山地ノ治安惡ク出廻減少シ而モ山地ヨリハ治安良好ノ平地（人口集リ消費ハ增加、セル傾向アル爲河北省ヘノ移出ハ本年度四萬噸ニスギズ、尤モ鬼資ニハ北支一圓中最モ力ヲ注ギ居リテ小麥ノ如キハ出廻量ニ對スル實上量ノ比率ハ河北、山東ガ三割ナルニ比シ山西ハ八割ニ及ビ雜穀モ實上成績良好ナリ

小麥實上價格モ山西ハ低廉ニシテ河北省ノ五分ノ一ニ當リ小麥一萬噸ヲ河北ニ移出セバ二千萬圓ノ差益ヲ生ズルヲ以テ本年度四萬噸移出セバ八千萬圓ニ上ルヘシ

山西省ノ事變前ニ於ケル平年作ハ左表ノ通ナリ（單位噸）

小麥	六七五、〇〇〇	
粟	一五四、七〇〇、〇〇〇	
高粱	三五八、〇〇〇	
玉蜀黍	二四七、〇〇〇	
水稻	四、〇〇〇	
其ノ他黍及雜穀	三一七、〇〇〇、〇〇〇	
豆類	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	
諸雜穀	四七〇、〇〇〇、〇〇〇	

M-0396

0433

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三節　山西ノ勞務

古ヨリ「山東ハ苦力、山西ハ商人」ナル諺アル通山西省人ハ商才ニ長ケ山西財閥ヲ構成シ居ル程ナルモ勞力ノ點ニ於テハ省民ノミニテハ不足シ省外ヨリモ補充シ居リ、殊ニ最近ハ炭坑、工場等ノ勞務需要増大セル處之等ノ事業場ニ於ケル苦力ハ半農半工ニシテ農繁期ニハ歸農スル傾向大ナル處最近ハ食糧配給不充分ナル爲食糧充分ナル農村ニ閉デコモリ專業場ニ出テ來ラガル傾向大ナリ、勞働能率モ身体ノ筋肉ガ山東苦力ニ比シ著シク劣ルコト及阿片、「コカイン」等麻藥ノ吸飲ヲ爲スコトニ因リ不良ナリ、

第四篇　鑛業

第一章　鑛區ノ資源（鹽湖ヲ除ク）

(一)石炭

(イ)概況

山西ノ石炭ハ「バインボクト」層ニ屬シ「ペルム」紀ニ屬スルモノニシテ地質、埋藏量、品質共ニ支那ノ他ノ地方ニ比シ優秀ナリ、

(ロ)埋藏量

山西ノ石炭ハ其ノ大部分ガ未發掘ニシテ其ノ埋藏量ニ關シテハ從來種々ノ學者ノ調査アリシモ何レモ其ノ數字ニ大差アリ、

(ハ)炭質

山西ノ石炭ハ其ノ大部分ガ無煙炭ニシテ其ノ炭質ハ極メテ良好ニシテ發熱量多ク灰分少ク硫黄分ノ含有量モ亦少ク、

(ニ)炭區

山西ノ炭區ハ之ヲ分ケテ左ノ五區トス、

(1)大同炭區

大同炭區ハ大同ヲ中心トシ東ハ渾源ヲ經テ廣靈ニ至リ西ハ平地泉、包頭ノ間ニ在リ、

(2)平定炭區

平定炭區ハ平定ヲ中心トシ東ハ昔陽ヲ經テ和順ニ至リ西ハ壽陽ニ至ル間ニ在リ、

(3)潞安炭區

潞安炭區ハ潞安ヲ中心トシ東ハ長治ヲ經テ屯留ニ至リ西ハ沁縣ニ至ル間ニ在リ、

(4)霍州炭區

霍州炭區ハ霍州ヲ中心トシ東ハ趙城ヲ經テ洪洞ニ至リ西ハ汾西ニ至ル間ニ在リ、

(5)西山炭區

西山炭區ハ太原ヲ中心トシ東ハ榆次ヲ經テ太谷ニ至リ西ハ古交ニ至ル間ニ在リ、

(ホ)炭田

(1)大同炭田

大同炭田ハ大同ヲ中心トシ東ハ渾源ヲ經テ廣靈ニ至リ西ハ平地泉、包頭ノ間ニ在リ、

(2)平定炭田

平定炭田ハ平定ヲ中心トシ東ハ昔陽ヲ經テ和順ニ至リ西ハ壽陽ニ至ル間ニ在リ、

(3)潞安炭田

潞安炭田ハ潞安ヲ中心トシ東ハ長治ヲ經テ屯留ニ至リ西ハ沁縣ニ至ル間ニ在リ、

(4)霍州炭田

霍州炭田ハ霍州ヲ中心トシ東ハ趙城ヲ經テ洪洞ニ至リ西ハ汾西ニ至ル間ニ在リ、

(5)西山炭田

西山炭田ハ太原ヲ中心トシ東ハ榆次ヲ經テ太谷ニ至リ西ハ古交ニ至ル間ニ在リ、

(ヘ)炭層

山西ノ炭層ハ其ノ數多ク厚サ數尺ニ及ブモノ數層アリ、

(ト)炭量

山西ノ炭量ハ現在ノ採掘量ノ數百倍ニ達スルモ其ノ埋藏量ニ關シテハ從來種々ノ學者ノ調査アリシモ何レモ其ノ數字ニ大差アリ、

(ロ)石油

平地泉、包頭ノ間ニ産シ油源ハ現在ノ採掘量ノ數百倍ニ達スルモ其ノ産量ニ個マサル本字底物ニシテハ隷屬ニ三千五百萬噸ヲ期待シ得ルモ油ハ不足ニテ計畫通ノ當日供給ハ

(ハ)鉄

M-0396
0434
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

M-0396

0435

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

包ト云ヒ此ノ中間ヨリ稍北ニ位スル中公旗ニハ左側ニ豊富ナル
巨量地アリテ現ニ採掘シテ居リ採掘中ナリ（炎北ニ由ニテ行ク
クバ二百五十「キロ」ナルモ冶五不良ナル為日量制限リニテ四
百五十「キロ」ノ能率ト云フ）日量ハ豊富ニ出ツルヲ以テ採掘
ナスノ要アリ、本年度ハ前年ニ引上グル旨中次ヨリ指令アリ、旨ク
施設ニ手リ之ヲ二百噸ニ引上グル旨中次ヨリ指令アリ、旨ク
ニテ百四十噸、中公旗ニテ六十噸ヲ掘リテ計量送リ貫行シ為ベシ
従来官村ニ於テハ採掘ハ三直ナリシモ今回之ヲ十直ニ増加シ乳
木ノ設施ヲ為シタルガ穴坑ニ於リ多ク作業ヲ行ヒ得ル様注意セ
シメタリ

（無雲母ハ除熱装置ヲ為シタルモ尚ホ温熱感ニ乏ク白雲母ハ順熱感良
好ナラザルモ為ニ使用シ）

（ハ）鉱床無鉛

大同ト平地泉ノ中間ナル豊富ニ産ス、山ニ産ス本年日三十噸

二二九

採掘ノ後足ナリシモノガ統在全然白ガル為メ
ルツモリニテ為カク居レリ、大同鉱業會社ノ総量ニシテ水
施設ヲ有ス

以上石炭ハ雲母及無鉛ヲ通ジテ冶安定モ地方ニ産スルコト及小
サナ業者ガ拠フ為資金資材ニ不足スルコトガ難点ナリ

（5）「ベリリウム」

平地泉ノ西方ノ白雲母ヲ産スル地方ニ於テ六角形ノ柿右鎮物タ
ル「ベリリウム」ヲ有ス、「ベリリウム」ハ電気分係シテ採ル
モノナルガ鋼ニ混スレバ鋼ノ如ク堅クナリ飛力八リラ伯統長少
トナル為ル行後ノ輪支金物トシテ最モ適スル計量ナリ

（6）「グラスノール」

「グラスノール」ハ一名「ホートル」ニムビ鉄鋼窯ニテ（赤熱ガ林
ヨリ出シテ起ク）石ノ上水中

二三〇

ニハ數
岩盤ヲ穿チシ「ジョーニー」、「リンユームー」モ併セ産ス
「ゲバガ」附近ニハ品位九十六%ノ塩石ヲ産ス
(ア)皮革、羊毛
西北貿易ニ依リ奥地ヨリ皃返物資トシテハ先方ハ棉布ハ不安ナリト稱シ染料
上ゲ居レリ皃返物資ヲ依用シテ皮革、羊毛ヲ買
ヲ要求シ居リ
(イ)染物及染草
(麻黄(Ephedra)、甘草、鹹物産「ゼンニ
ン」染似ノ草ヘ「ワレ(Wale)」(「ダンニン」含有物ト等多量
ニ含ム、滿洲ノ指値ガ日本ノ指値ヨリ高キ爲良質物ハ滿洲ニ輸出サル、
阿片ハ國ニ六百噸ヲ荒産セリ
(ウ)鹽鑛物
一昨年鹽産額ハ左ノ通

小蘇達	一〇八一二七(噸)
萩蒼(ユーマイ)	一一二八〇五
高蒼子	一九二五六二
菜	一四二八四七
爲鈉蒼	一七二六四
	三四〇九五五
	一〇四九九七

昨年北支ヘハ八高馳ノ鹽ヲ移出セルガ本年ハ本高馳ノ計畫ナリ

M-0396
0436
国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(10)

大同炭鑛

大同炭鑛ノ生産状況ハ左ノ如シ

事業前	昭和十五年度	五十萬瓲	計畫
	昭和十六年度	百三十五萬瓲	
	昭和十七年度	二百二十一萬瓲	
	昭和十八年度	二百五十二萬七千瓲	
	昭和十九年度	二百七十萬瓲	
	昭和二十年度	二百三十萬瓲	
	昭和二十一年度	二百九十萬瓲	
		四百五十萬瓲	

三百九十萬瓲以上ハ同炭鑛ニ線ヲ建設セザル限リ輸送不能ナリ

第二項 炭鑛ノ今後

炭鑛ノ復興及治安確保ニ伴ヒ相當ノ需要ヲ充スニモ「ズ」ハ生ジタル爲昭和十六年以來公價制ヲ採用セルガ爲炭鑛ノ公價ノ

尤モカク自由トシタル結果ニアマリヨカラズ北支同炭出ハ一萬瓲ニ止マリタリ、昨年ヨリハ農産物ト炭鑛入物資ノ價格トニ開キヲ生ジタル爲十六年末ニ一瓲之ヲ停止シタリ、十五萬

地買付ノ目標ヲタテタルガ作柄悪キ爲實績ハ十二萬五千瓲ニ止マリ

本年度ハ行政力ノ活用ヲ圖リ農家ニ供出命令ヲ出シ義務的ニ供出セシムルコトトセルモ現金拂及見返物資ノ即時支給ヲ併セ行ヒ居レリ、見返物資ハ今後北中支ヨリ輸入スル綿布ヲ主トシテ利用スル方針ニシテ買付金額ノ三割程度ヲ與フルモノナリ、尚最近輸送力逼迫ニ伴ヒ炭鑛ケタル物資ガ漸ビキレザル所モアリ軍需輸送及土建等ノ爲ノ輸送ヲモ併セタル炭鑛的綜合計畫ノ樹立ヲ急ガトス、明年度ノ炭鑛物供出命令ハ滿洲ニ於ケルト同樣滿時ニ行フ筈目下計畫中ナリ

M-0396

0437

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第三章　蒙疆ノ物價

昭和十四年暮以來蒙疆ニ物價委員會ヲ置キ公價制ヲ採用シタルガ十六年夏ノ資産凍結以來物價昂騰シ十七年春臨時物資調整委員會ヲ設ケ基金ニ依リ物資ヲ購入シ配給面ニ於テ物價收策ヲ行フコトトシ調整料ノ徴收及支出ヲ行ヒタリ、昨年五月ニ至リ北京ガ全面的ノ公價制ヲ採用シタルガ本年二月ニ至リ之ヲ拡張シ均衡ノトレヤル地點價格ヲ採用シタルガ本年二月ニ至リ之ヲ拡張シ五月ヨリハ蒙疆獨自ノ物價水準ニヨルプライスルコトトシタリ、昭和十三年八月ヲ百トスル現在ノ物價指數ハ八百ナリ、十五年ニハ上海ヨリノ輸入物資鑑備シテ特需ニハ直接配給スルモ現在ニ於テハ北支向輸出ニ付若干徴收シ得ルニ止マル、現在ハ差益保有額一千萬圓ナルモ本年度中ニ中北支ヨリノ輸入ニ付三百萬圓余ノ補償ヲ要スベシ

第四章　蒙疆ノ電力

蒙疆ノ電力ハ大同系統ト下花園系統トニ分レ、前者ハ張家口ノ西ヨリ北ハ豐鎭ニ至リ、後者ハ張家口、康莊ヨリ國境ニ至ル、下花園ハヤク萬五千五百「キロワット」ノ動力アルモ本年十二月ニハ需要ニ應ジキレザル見込ニシテ明年度九月迄ニハ一萬「キロ」増設工事ヲ完良スル豫定ナリ、ソノ爲ノ發電機及「ボイラー」ハ發註濟ナルモ豫備「ボイラー」ナキ爲洗罐ノ場合ニ支障ヲ生ズベシ、其ノ後モ二萬「キロ」程度増設ヲ希望スルモ目下ノ處見込立タズ、後者ハ下花園ト北京トヲ結ブ方法ニ付研究中ナリ

最近特ニ需要増加セル理由ハ小型製鐵ノ開始ト龍煙ノ需要増加ニシテ後者ハ烟筒山ニ二千五百馬力、龍家堡ニ二千七百馬力ノ「コンブレッサー」ヲ有シ馬力數ノ四分ノ三ノ「キロワット」ニ當ル電力ヲ需要ス

十里河ノ岸ノ年產ニハ對獨發註ノ一萬五千「キロ」ノ發電機ヲ設置スル計畫ヲ有ス

M-0396

0438

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第五章　蒙疆ノ労務

昨年度ハ北支ノ食糧不足ノ為北支ヨリ蒙疆ニ多数ノ人口移入起リ寧ロ蒙疆ハ移入ヲ抑制シタルガ本年度ハ軍ノ労務需要増加シ大同及熊畑ニ於テハコレヲ[illegible]モアリテ苦力ハ不足シ移動率ハ七十%ナリ、賃金金ハ食事付ニテ一日六圓乃至八圓ニ上レリ、之ガ対策トシテハ差当リハ捕虜及囚人ノ straf 用ヲ為スト共ニ北支ヨリノ輸入ヲ促進シテ其ノ定着ヲ図リ、農村ノ作業能率ヲ上ゲシメ、以テ苦力ノ離農ヲ防止シ、且需要側ニテハ労務配置ヲ適正化シ緊急ナラザル土建等ノ使用ヲ抑制スルノ要アリ、大同炭坑ニ於テハ満郷青年隊ヲ組織セシメテ之ヲ使用中ナリ

阿片採集期ハ之ニ従事スル者ハ収入大ナル為ニ鉱山ヨリノ逃亡多キモ冬期ハ農閑期ナル為ニ鉱山ハ比較的集トナル

第五篇　中支

第一章　中支ニ於ケル諸物資ノ生産及蒐買状況

(一)鉄鑛石

本年度本邦ノ中支ニ期待スル鉄鑛石ハ三、三九六千噸ニシテ上半期計畫ハ一、二二八千噸ナルモ上半期實績ハ一、一一六千噸ヲリキ上半期ノ採掘ハ九八六千噸ニ止マリタルヲ以テ結局從來ノ貯鑛ヲ喰ツブセルタル計算ナリ

馬鞍山ニ於テハ物價騰貴ト食糧不足ノ為苦力ノ集リ悪ク圍却シ居リ(中支ノ重要産業全体ノ所要苦力ハ十萬人ナル處本年五月以來苦力數漸減シ目下二萬人ノ不足ヲ示ス、之ガ對策トシテハ差當リ俘虜ヲ使用スルコトトナルベシ)

M-0396

0439

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(3)

鑛石貯鑛狀況（單位　瓲）

	華中鑛業	山江	計	日	大冶	元岸	江山	計	鄂城	無湖	浦口	上海	計
十七年三月末	三一、〇七二、九	九二、四〇五	四〇三、一三四		二三、一九五	三六、二一七、一	一六〇、六四三	一二、七九〇	二六、六九三	〇			五六、二九七
十八年九月末	一六九、六二三、	五八、三一九、	二二七、九四二、		一七三、五五	一六九、四一五	一六〇、六四五	二四、七四〇	三九、二九三	二、四三〇			三九、六五二三

一三九

(大冶ノ鐵鑛石ヲ)

從來大冶ノ鐵鑛石輸送ニハ「ライター」百八十隻及曳船六十隻ヲ以テ無湖又ハ浦口ニ集積シ之ヨリ下流ヲ外洋船ニ依リ、晝間航行ノミニテモ毎月十一萬瓲ニ依リ之等船舶ハ重大ナル損傷ヲ蒙リ、現在ヘ夜間航行ヲ爲スモ毎月六萬瓲以上ノ輸送困難トナリ假ニ補修完了スルモ月八萬瓲以上ニハナラズ從ツテ年間百四十萬瓲ノ供給ハ到底不可能ナリ、之ガ對策トシテハ左記ヲ實行中ナリ

(1) 防空施設ノ實施

(2) 「ライター」及曳船ノ建造

(3) 「ライター」及曳船ノ迅速ナル補修ノ爲南京及無湖ノ修繕所ニテ援助スルコト

(4) 塘沽運輸ノ船ノ利用

一四〇

M-0396

0440

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(5) 外洋船ヲ安慶迄遡航セシムルコト

(6) 以上ノ指置ヲ講ズルモ尚大冶ニ多クヲ期待スルコト困難ナラ
ン、結局ハ品位ノ若干悪キコトヲ覚悟シテ下流ノ華中鑛業ノ
山ヲ増産シテ對日供給スルノ外ナシ、既ニ馬鞍山ニ對シテハ百
三十五萬瓲能力ヨリ二百二十萬瓲ニ引上グル様指令済ニシテ
電氣設備及鑿岩機ノ増設竝ニ既設註分ノ促進ヲ命ジアリ、但
二百萬瓲以上ヲ要求セラルルナラバ馬鞍山以外ノ山モ増産ヲ
ナスヲ要シ品位ガ五〇%以下ニ下ルコトモ回避シ得ザルコト
トナル

(7) 製鐵事業

上海ニハ事變前ヨリ若干ノ機械工場アリシモ英米側ヘ素材ヲ本國ヨリ、
運ビテ此ノ機械工場ニテ組立ツル方式ヲトリ銑鐵及鋼材ヲ上海ニテ作
ルコトヘ抑制スル方針ヲトリ居タルヲ以テ製鐵事業ヘ建築用ノ棒鋼ヲ
作ル程度ニテ甚ダ未發達ノ狀態ニテ推移シタリ、
現在上海ニ於テハ中華製鐵ニ五基、中山鋼業ニ一基ノ小型爐ヲ設置中
ニシテ別ニ馬鞍山ニモ小型爐建設中ナリ
製品工場トシテハ亜細亜鋼業ガ綱材製品ヲ作リ、中山鋼業ヘ薄板ヲ作
リ居レリ

M-0396

0441

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

（大冶熔鑛爐ノ利用）

大冶熔鑛爐ハ四五〇噸ニ於ケル利用方ニ付テハ破壊大ナル故ニ屑鐵トスルノ外ナシトイフ說ト之ニ手ヲ加ヘテ利用スベシトノ說ト他ノ適當ナル土地ヘノ移設ヲ主ヲスル者トアリ、現地側トシテハ空襲ノ懸念大アリ、輿論ニハ大冶ニテ復舊スベシトノ論ト

ナルニ鑑ミ池ノ適當ナル土地ニ燃ス可トスベシト考ヘ居ルモ水徐州ハ中興及大冶口ノ石炭ニ近ク食糧モ豐富ナル故可カルベシ

ニ乏シキヲ以テ寧ロ蚌埠又ハ淮南ヲ以テ復レタリトスル者アリ

(ロ)石炭

淮南炭坑ハ本年度百十萬噸生產計畫ニシテ上半期ハ五十四萬計畫ノ處上期實績ハ四十二萬一千噸ニシテ年關モ八十七萬噸程度トナル見込ナリ、計畫ニ此シテ斯クノ如ク實績ノ激ラザル理由ハ苦力ノ不足及抗木ノ不充分ナル爲ノ歸農ニ基因シ、坑木ハ百十萬噸計畫ノ場合ハ十三萬石ヲ要スルニ對シ船腹ノ關係上本邦ヨリ輸入シ得ズ滿洲ヨリモ入手圓滑ナラザル爲ナリ、明年度モ滿洲ノ坑木ハ北支モ大イニ期待シ居ルヲ以テ綜合的觀點ニ立チ適正ナル配分ヲ行フノ要アリ

M-0396

0442

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

上海ノ貯炭ノ現在二十萬㌧ナルガ昨年ノ今頃ヘ七十萬㌧アリタリ、中ノ配給計畫年間三百萬㌧ニ對シ二十萬㌧ニテハ一ヶ月分ニモ達セザ
ヲ以テ少クトモ四五十萬㌧ハ貯炭シタキモノナリ、本年北支ヨリ二
十五萬㌧移入ノ計畫ナルガ、上期實績ハ計畫ノ六割五分ニスギザル
以テ北支側ハ其ノ送不足ヲ下期ニ取戻ス樣努力中ナリ。

	計畫	實績
八月	一八七、〇〇〇㌧	三〇、〇〇〇㌧
九月	一八五、〇〇〇㌧	一〇六、〇〇〇㌧
十月	二二〇、〇〇〇㌧	一二二、〇〇〇㌧

ルニ下期ノ實績ハ右表ノ如ク不良ナルヲ以テ上海ノ雜工業及一般民
間ニ對スル配給ハ計畫ノ六割ニ下ゲタルガ最近更ニ消費規正ヲ強化ヒ
ト共ニ電力三割瓦斯二割ノ規正及旅客列車ノ削減モ考慮中ナリ
峻山小型炭鑛及上海ノ製鐵ニ要スル炭ハ北支ニ期待ス（馬鞍山ニ
十二萬㌧ノ銑鐵ヲ出スニハ四十八萬㌧ノ石炭ヲ要ス）上海ニテ化學
工業「セメント」曹達等ノ增產ヲナス爲ニモ石炭ノ確保ハ前提條件トリ
ナリ

M-0396
0443
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

螢石

中支ノ螢石ハ金華、象山及湖州ノ三箇所ニ産スル處湖州ハ特ニ治安惡ク前二者ヨリノ對日供給多シ、中支螢石ハ本年度本邦物動供給力ノ二分ノ一ヲ占ムル重要度ヲ有スル處對日計畫ハ年間九五、〇〇〇噸、對日實績三三、上半期四八、〇〇〇噸ニ對シ上期ノ生産五、〇〇〇噸ナリ、上期ノ實績ガ計畫ニ及バザリシ理由ハ二ツアリ

(1) 苦力ガ飛行場建設及金華、武義間ノ鐵道建設ニ振向ケラレ武義ノ山頂ヨリ山ノ下迄運搬スル苦力ニ不足ヲ來セルコト

(2) 作戰ノ爲ニ自動車ガ之ニ動員サレ螢石ノ輸送力不足トナリタルコト

(3) 湖州ヘ作戰ノ爲十一月迄「クリーク」輸送不可能ナリシコト

明年度ハ武義線モ完成スルヲ以テ對日供給ハ本邦ノ要望セル十六萬噸ヲ確保スル樣目下計畫中ナリ

現在ノ處ハ堀ル方ノ準備ガ遲レテ居リ華中鑛業ノ技術者モ不足シ居リ

ルヲ以テ經驗者ノ派遣方考慮中ナリ、現在ハ露天掘ナルモ來年ハ竪坑道掘ヲ開始ス、武義ノ治安ハ最近惡化シ十二人掠致セラレタル程ナルガ警備力ガ強化セラレレバ敵地區ニアル埋藏量豐富ノ木杓山ニ着手スルコト可能ナリ

武義ニ於テ木材及食糧ヲ敵地區ヨリ買入ルルニハ見返物資及舊法幣ヲ使用ス（金華市内ニモ舊法幣ハ流通シ居レリ）此ノ場合ノ相場ハ新幣二一〇對舊幣一〇〇ナリ（此ノ比率ハ蚌埠ニ於テハ新幣一〇〇ニシテ江北ハ舊幣ノ方ガ強シ）

(五) 滿俺

本年度中支滿俺ノ對日供給計畫ハ二萬三千噸ナル處上半期ノ實績ハ四八七〇噸ニ過ギズ

右ハ山ガジリ貧トナリタル爲生産ガ減退シタル爲ニシテ貯鑛モ殆ンドナシ

M-0396

0444

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(六)銅鑛

銅官山ニ於テ鑛鑛石十萬瓲ヲ堀ルヲ以テ其ノ二〇%ニ當ル二萬瓲ノ銅鑛ヲ日本ニ送ル計畫ナルモ未ダ日本ニ送レル實績ナシ

(七)「セメント」

中支ニ於ケル「セメント」生産ハ昨年十四萬瓲ノ實績アリ

(八)棉花

中支ノ棉花蒐買機構ハ全國商業統制總會ノ下部機構トシテ棉花統制委員會ヲ設ケ棉花ノ收買及配給ヲ專管スルコトトナリタルガ同會ハ更ニ下部機構トシテ日華紡績業者ヲ會員トスル棉花收買同業協會ヲ組織シ會員ハ各地棉花商ニ收買ヲ委託シ得ルコトトナリタリ、委員會ハ協會會員ノ蒐買セル棉花ヲ「プール」シ對日輸出用、現地軍需用及現地民需用ヲ分割シテ配給スルノ機能ヲ有ス、尤モ現存ノ華中棉花統制會ノ保有棉花ハ恐ラク軍ニ賣却セラルベク新機構ニハ引繼ガザルヘシ

本年度棉花蒐買豫定ハ約八十萬擔ニシテ內譯ハ對日輸出四十萬擔、現地軍需用三十萬擔、現地民需用十萬擔トナルヘシ

江北ノ東臺ニアル大成紡績ハ軍管理ニ依リ鐘紡ニ委託サレ居リタル處今回解除サレタルガ其ノ經營者タル陳[illegible]ニ對シ綿糸一萬梱ヲ與フルヲ以テ東臺ノ細毛棉花十萬擔ヲ購入スル樣命ジタル處成績良好ナリ

中支所在ノ紡績ハ二百三十萬錘ナルガ棉花不足ノ爲操業ハ一割乃至一割五分ナリ

(九)米

中支ノ十九米穀年度ニ於ケル米ノ生産數量ハ二百萬瓲、其ノ中貿付計畫數量ハ六十六萬瓲ニ過ギテ中臨海軍ノ分ハ二十一萬瓲ナリ

目下廣德溧陽方面ニ於テ米取ノ爲ノ作戰實施中ニシテ約五萬瓲ハ蒐買シ得ヘク呂集圍方面ニ於テモ同一目的ノ作戰實施中ナリ、軍米ノ貢付ハ商統會ニ依賴シテ行フコトトナリタルモ未ダ不[illegible]ノ爲所期ノ

M-0396
0445
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

成果ヲ擧ゲ得ザルヲ以テ今回ノ作戰ニ依リ之ヲ補フノ目的ヲ有ス

現在米價ハ一瓲四十圓（一瓲四圓、一升五圓六十錢）ナルガ商統會ハ一千五百圓ニテ買付ケ軍ハ一千八百圓ニテ買取ル方針ナルモ商統會ノ買付ガ遲レル場合ニハ軍ハ買取値段ヲ引下グルコトトシ以テ支那人ノ利得心ニ剌戟ヲ與ヘントシ居リ

一五一

(十)油脂原料

油脂原料及油粕ハ蒐貨意ノ如クナラザル爲中支自身ノ需要ヲ賄フノミニテ手一杯ニシテ對日供給實績ハ不良ナリ、油粕ハ臺灣ノ「ブタノール」原料トシテ中支ニ期待シ居リ且見返ニ砂糖ヲ中支ニ供給スルヲ以テ寧ロ臺灣向ガ圓滑ニ輸出サル

本年ハ油脂原料ノ配分計畫作成後陸軍ノ「グリセリン」計畫ガデキ上海ノ「グリセリン」ハ余剩トナリシカモ石鹼ノ副原料ハ之ニ伴ハザル爲「チグハグ」トナリ居レリ

石鹼ヲ作リテ上海ノ需要ニ應ズルコトヨリハ燭ヲ作リテ農村ニ送ルコトノ方ガ物資取得ノ觀點ヨリ云ヘバ重要ナルヲ以テ本邦ノ企業整備ノ對象トナル油脂分解工場ノ上海ヘノ移設ヲ要望シ居レリ

(十一)回收物資

物資回收ハ軍ノ系統ニ於テ扱ヒ居ル處上海ノ非鐵金屬ハ非鐵金屬蒐集協會及昭和通商ガ下請ヲナシ配分ハ陸海半々ナリ、奥地ハ專ラ陸

一五二

M-0396

0446

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

軍ノ擔當ナリ

今回上海ニ於テ金圓ノ一般回收ヲ行フコトトナリ日華協同ノ委員會ヲ設ケ第一次ハ道路標識、柵等ヲ對象トシテ第二次的ニハ遊休工場ノ設備ニモ手ヲツケル方針ナリ、第一次計畫ニハ鐵八千噸及銅八十噸ヲ目標トシ第二次ハ日本側工場ヲ「スクラップ」化シテ鐵十萬噸ヲ集メル豫定ナリ（支那側工場ニ手ヲツケレバ更ニ十萬噸ヲ買入ルルコトヲ得ベシ）

(ヒ)軍ノ物資買付

國防物資ノ取得ニシテ軍ガ取得ニ責任ヲ有スルモノノ中屑鐵及銅ハ成績良好ナルモ棉花、麻及米ノ如ク國民政府トノ交渉ヲ要スルモノニハ本年ガ移リ變リノ時期ナル關係上若干ノ懸念アリ從來ノ如ク確實ナル見透立タズ

軍ノ取得物資ノ要スル資金ハ物價昂騰ニ依リ不足トナル處アル爲物資ヲ三種ニ分チ至急トレトイフモノハ直ニ買ヒ第二順位ノモノハ安

イ處デ買ヒ、第三順位ノモノハ金ガ餘レバ買フトノ措置ヲトリタリ、其ノ爲第二順位ノモノハ安イ處デ買ハント努力スル中ニ物資ガ高價ノ所ニ逃ゲテ時期ヲ失シ第三順位ノモノハ年度末ニ金ノ餘ルコト明白トナリタル時買ハントセルニ物ハナシトイフ如キコトナキニシモアラズ、必要ナル物資ナル以上「買ヘル時ニ極力安ク買フ」トイフノガ最良ノ方針ナルヲ以テ軍トシテハ軍豫算ニ充分ノ買付資金ヲ保有スルヲ希望シ居レリ

M-0396

0447

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

亦支那ニ於ケル軍ノ物資買付ヲ圓滑ナラシムル爲軍トシテハ前金拂ヲ認メラルル樣希望シ居レリ、支那ニ於テハ大商人ガ山貨ヲシテ部落ニ於テ棉實、落花生、木材等ヲ購入セシムル場合ニハ必ズ前金ヲ渡ス習慣ニシテ大東亞戰前外人商社ガ買付ヲ爲ス時モ前金ナリキ、現在軍ノ買付ハ引渡後纔收ヲ爲シタル上支拂ヲ以テ現金拂ニ非ザルハ勿論ナリ渡後一箇月乃至數箇月後ニ支拂ヒ居レリ

昭和通商ノ如キモ中支ニ於テ本年三億弗ノ買物アルニ本社ヨリハ一億一千萬元程度ヲ送金シ來リタルニスギズ現地銀行ヨリノ貸付亦屢々遲レ買付ニ時期ヲ失スルコトアルハ甚ダ遺憾ナリ

新政策以來軍ハ商賣ヲヤルベカラズトノ方針ニ基キ特別野戰酒保制度ハ廢止セラレタリ、然レドモ實際上ハ軍ノ警備力ヲ利用シ特殊會社ノ需要スル物資ヲ集メルコトハ依然必要ナル處例ヘバ呂集團ニ於テ枕木ヲ購入シ華中鐵道ニ拂下ヲ爲セバ代金ハ一般歲入ニ入リ臨軍中ニテ「リボルブ」セザルヲ以テ軍ハ豫算ヲ食ハルルコトヲ嫌ガリ

自然カカル買付ハ行ハレ得ザルノ物資獲得上不便アルヲ以テト折衝中ナリ

(ハ)敵地區トノ物資ノ交流

敵地區ヨリ蚌埠ニ流入スル米、麥、雜穀、牛、馬、羊、豚等ノ金額ハ我地區ヨリ敵地區ニ流出スル物資ノ約十倍ニシテ敵地區トノ物資交流ハ我方ニ有利ニ展開シツツアリ、尤モ其ノ差額ハ上海ニ居ル重慶系市民ノ生活費ニ充當セラレアリト傳ヘラル

尙敵地區トノ物資交流上考慮スベキハ鹽政策ノ修正ナリ、奥地ニ於テハ岩鹽等ニ依リ海鹽ノ代用ヲ爲シ居レルヲ以テ我方ガ斷鹽政策ヲ強行スルモ敵側ハサニシテ痛痒ヲ感ジ居ラズ、他面物資取得上鹽ノ效用大ナルヲ以テ目下總テシテモ本問題ヲ研究中ナリ

M-0396
0448
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第二章　上海電工業ト其ノ原材料不足ノ状況

上海電工業ヲ**百**%ニ操業セシメ以テ物價騰貴ニ資セシメンコトハ何人モ說クヲ俟ナレドモ原材料ガ不足シ且本ヨリノ輸入モ微少シ居ル爲ニ著シク困難サヲ增シ來リタリ、例ヘバ**普**性質達ノ如キ**重**要ナル原材料ニ於テモ六千瓲ノ中三千瓲ヲ上海ノ天源及天利ニテ目給シ待ルニ過ギズ、各事業ノ所要原材料ヲ確保スル總綜合的ニ計畫ノ立案及重點配給ヲ爲スノ外ナシ

今各事業ニ付具體的ニ不足セル原材料ヲ示セバ左ノ如シ

(1)紡績ニ於ケル不足原材料

(イ)染料

(ロ)苛性曹達

(ハ)機械油特ニ安區器油

(2)淨水場事業ニ不足ズル原材料

(イ)硫

(ロ)曹達灰

(ハ)鹽化鐵ヲ處理シテ硫黄ヲ取ルニ要スル二硫化炭素

二基下關ニ遊休シ居ルヲ以テ上海ニ急設方中央ト交渉セルモ實林省ノ反對ニテ纏ラズ、許爲綠寃石及新潟縣ニモ遊休機械アルヲ以テ目下交渉中ナリ）

(ロ)加里

(ハ)硼砂

(3)製紙業

(イ)曹達灰

(ロ)パルプ

(4)硝子製造業

(イ)曹達灰

M-0396

0449

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

蘇淮ノ中支移管ニ伴ヒ北支向食糧ノ蒐買ニ依リ放出サルベキ六七十億弗ノ儲備券回収ノ爲ニハ勿論北支ヨリモ見返物資ノ供給ヲ受クル豫定ナルモ上海ヨリモ當然物資ヲ出サザルベカラザルヲ以テ上海輕工業ニ對スル負擔モ當然加重サルルコトトナル處之ガ爲ニハ原材料ノ確保ニ專念セザルベカラズ

第三章　國債紙幣布貨上ノ影響

國債紙幣布貨上ガ支那人ニ及ボセル影響ニハ二種アリ

(1)上海財界人ノ八割ハ大東亞戰ニ於テ日本ガ勝利ヲ占ムルカ否カハ未ダ不明ナルヲ以テ汪政權ニ思惑ヲ置クト共ニ自由ニ放任サルルコトヲ望ミ居ルモノト言ハルル處彼等ハ國債(ボンド)處理ヲメグリテ灰色ノ態度ヲ之以上繼續スルコトノ漸次困難トナルヲ察シ好マザルトヲ問ハズ若干協力的態度ニ變リツツアリ

(2)然ルニ石ノ如キ長キ影響ノミニ非ズシテ一部ニハ若干矣合惡キ面モアリ、例ヘバ新政權以來汪政權ニ協力セントノ異心ナキニシモ非ズ、例ヘバ新政權ニ汪ニハ變恩行キタリトナシテ重要ニ戻ラントスル者アリト言フ、元來支那人ハ長年通貨不安ノ爲動キダル者ガ今回ノ措置ヲ機會トシテ考フル傾向アルヲ以テ國債通貨ヲ基準トセズニ物貨ヲ基準トシテ考ヘズ當然ノ自衞行爲ヲ惡事ト考ヘ當然ノ自衞行爲ナリトシ居ル爲ニ新カル喰違

M-0396

0458

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

ノ通ルコトハ益シ或程度迄已ムヲ得サルヘシ

柿ヶ岸布ニ次デ他ノ物資モ強制貨上ヲ行フヘキヤ否ヤニ付テハ議論アルモ物資調査ニ依リ「ストツク」ノ中否制ガ採用サレタル為石鹸ノ如キハ又ヲ貨上グル代リニ他ノ物貨ヲ貨却スル如キ方法ニテ「ストツク」貨上ヲ行ヒ居レリ

貨上柿ヶ岸布四十五尚個（単量ニテ計算セバ柿ヶ岸ノ任高ハ柿布ノ一割余ナリ）ノ処迄ニ付テハ一般民衆ニ貨却スルハ有效ナル利用方法ニ非ザルヲ以テ米其ノ他ノ鬼貨ニ利用スルコトトナルリダリ、三富リハ六尚個ヲ貨却スルコトトシ谷ヶ岸ニ於ケル貨上物貨ノ内谷ヶ盆嶺ニ感シテ柿ヶ岸布貨却量ヲ決定セリ、現在柿ヶ岸一個ノ市中價格ハ五尚弗見當ナルガ今回ノ貨却ニ當リテハ一個人ニ二尚弗ニテ引渡スモノニシテ又農民ガ種貨ニ入手シ得ル様考慮セシメ密告ハ自由ニ許スコトトセリ

（及省略）

四、貨支部ノ鐵道輸送

一、支部ニ於ケル鐵道輸送ノ一貫的運営

現在支部、満洲及朝鮮ニ於ケル総動員物資等ノ鐵道輸送ニ付テハ未ダ綜合的計畫的ナル運営ニ缺クル處アルヲ以テ総貨トシテハ大陸鐵道協議會ヲ改組強化シ之ニ軍、大使館、鐵道會社ノ電役及業務主任參加シ一貫輸送ニ關スル決定權ヲ賦與スル等ニ付研究ヲ進メツツアリ

此ノ場合北支ハ既ニ計畫輸送ヲ實施シ居ルヲ以テ問題ナキモ中支ハ「クリーク」輸送多キコト、鬼貨物資ノ計畫設定困難ナルコト、封日供給物資ノ鐵道輸送量少キコト等ノ理由ニ依リ未ダ計畫輸送ヲ行ヒ居ラザルヲ以テ態勢整備ニ若干ノ時日ヲ要スベシ

二、支部ニ於ケル鐵道ノ建設

現在新線ノ建設ヲ考慮シ居ルハ左記ノ通

(1) 漢口、開封線

M-0396

0451

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

空襲其他ノ場合ニ於ケル行動等ニ鑑ミ呂集團ノ孤立化ヲ防
ガンカ為ニハ奥口ト開封間四五〇粁ノ鐵道ヲ複線ニ改
良スル必要ト認メラルルモ差當リ單線ニテ二個半ヲ要スベシ

(2) 廣九線

廣九線ノ毎月ノ貨物ハ資材モ存シ空襲封鎖上及香港ノ中繼港ト
シテノ利用價値增加ノ關係上必要ト認メラルルヲ以テ目下計畫中ナ
リ

(3) 蚌埠淮南線

淮南炭百万噸ヲ蚌埠經由浦口ニ積出ス爲淮南炭噸ヨリ蚌埠ヲツ
ガイ輸送ヲ計畫中ナリ、百万噸輸送ニハ一日六列車ヲ要スベシ

(4) 武漢、金臺線

武漢ノ兵站ハ日兵站數量增加ニ伴ヒ武漢金臺間ノ輸送ヲ急速
工事中ナリ

(5) 武安線

武安（順德及磁州ノ石方十里余手容リ）ノ鐵ハ可採噸量一億
七千万噸ニシテニツノ鑛區ヨリ容易ニ二百萬噸ヲ採ルコトヲ得、京漢
線ヨリ支線ヲ作ルニハ明年度五千噸ノ鋼材ヲ要シ之ニ依リ明
年、十萬噸ヲ生産ス得

(6) 補修ニ付テハ津浦線及善山線ヨリ貨車ヲ指向シ居レリ

M-0396

0452

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

第五章　中支ノ水運

(一)　水運統制

中支ニ於テハ鉄道ノ計畫輸送ト同時ニ水運モ浦口ヲ中心トシテ非常態勢ニ切替フル必要アリ、中華輪船ハ此較的計畫輸送ヲ行ヒ居ルモ内河汽船ノ方ハ單ガ一部分利用スル以外ハ全ク放任セラレアルヲ以テ隷屬轉換スルヲ要ス、尚現在楊子江ヲ航行スル船舶ハ十八噸ヲ數フル處船側ニ水ノ入ラヌ施設ヲ爲セバ之ヲ外洋ニ振向ケルコト可能ナルベキヲ以テ目下具体的ニ研究中ナリ

水運統制ニ付テハ委員會ヲ作リテ國民政府ニ盛言セシムルハ厄介ナルヲ以テ大使館及單ニ於テ實際的ナル指導ヲ行ヒ度キ考ナリ

(二)　機帆船

上海ニ於テ機帆船十噸分ノ「エンジン」ヲ臨單歸入ノ資材ニ依リ九月以來作成中ニシテ來年二月頃完成ノ豫定ナルガ其ノ中五噸分ハ南方ニ送リ引渡ニ五噸分ノ船体ヲ南方ヨリモラフ豫定ナリ

木造船ハ本年度中支ニ於テ六十一噸建造ノ計畫ナリシモ木材不足ノ爲工程遲レ六十一噸完成ニハ今ヨリ尚一箇半ヲ要ス

(三)　戎克

内地トノ間ニ戎克輸送ヲ行フヿトニ付テハ航海ニカナリノ危險アルコトト採算ノトレヌコトトノ爲ニ未ダ實現ヲ見ズ、支那人所有船ニ俟ツハ手間ドル爲差當リ日本人所有船五百噸級三隻（三百五十噸・百五十噸及百噸）ニ支那人ヲ乘組マセ試驗的ニ「スクラップ」ヲ唐津又ハ八幡ニ送リ復航ハ揚炭ヲ輸送セシムル様計畫中ナリ、石輸送ハ佛領印度支那州島ニ立寄ル爲片道一箇月ヲ要スベシ、帰航ノ場合ハ單船組合ノ戎克試驗輸送ノ際臨海軍及大使館ニテ支出スル計畫ノ可能ナルヲ以テ之ヲ充當スル方針ナリ、若シ本計畫ガ實現十噸圓ノ残額アルヲ以テ之ヲ充當スルヿシ内地到着ノ場合乘組員ヲ優遇スレバ支那人所有船モ漸次運航ヲ開始スルコトトナルベシ

南方トノ戎克輸送ニ朝文院ヲ利用スル兼モ計畫セラレアリ

M-0396

0453

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(4) 海運荷役

(イ) 海運荷役ハ食糧不足ニ依リ苦力ノ集リ悪キ爲困却シ居リテ華民ノ苦力募集及鐵道ト埠頭ノ苦力募集ヲ生ジ居レリ、華トシテハ現在ノ處補給廠ノ苦力ノ爲ノ食糧以外ハ購入シ得ザルコトトナリタルモ特別野戰酒保制度ヲ復活シ海運苦力ノ食糧ヲ確保シ得ル樣改正方考慮シ居レリ

尙東亞海運・中華輸船等ノ七會社ガ使用シ居ル中支港運統制組合ノ強化方ニ付テモ目下研究中ナリ

第六篇 雜感

(一) 朝鮮

朝鮮ハ滿支大陸ト地續キナル特性ヲ有スルニ不拘生産擴充及物動等ニ付テハ未ダ綜合性融和性不十分ニシテ特ニ中央トノ連絡ガ滿支ヨリモ圓滑ナラザル現狀ニアルヲ以テ大陸會議ノヨリ頻繁ナル開催、總督府東京事務所ノ擴充及內鮮間ノ人事交流等ニ依リ遠ニ徹底ヲ圖ラレタリ、

(二) 滿洲

大陸ヲ一巡シテ切實ニ感ズルコトハ滿洲ガ基礎固マリ行政モ地方ニ浸透シ、生産擴充ハ進展シテ對日寄與ニ遺憾ナク又關東軍ノ內面指導ニ依ル軍官民ノ意識統一完全ナルコトヲ「滿洲產業ノ設行性」ヘ近來漸次支那事變以來ノ情勢變化ニ伴ワ修正セラレ、ヤリカケノ事業ニシテ數年中ニ戰力化セザル如キモノハ中止又ハ規模變更ヲ爲シツツアリ、技術上難點アリタル吉林

M-0396

0454

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

人石、非鐵金屬不足ニ依ル幸天鐵西ノ遊休工場、工作機械小工場ノ亂立等モ次第ニ匡正セラレツツアリ電正セラレツツアリ重要産業ト監督ノ爲最近工務官制度ヲ設ケラレタリ、工務官ハ五人ニシテ參事官級一人ト奏任級四名ガ各地ニ散在シ昭和製鋼及本溪湖ニ一人、撫順ノ經金屬ト奉天ニ一人、錦州ニ一人東邊道ニ一人ナリ、尤モ工務官ハ政府ニ報告ヲ提出シ政府ノ施策ノ參考ニ供スルニスギズ、獨自ノ權限ヲ與ヘラレ居ラズ、尤モ會社ヨリ直接政府ニ話ヲスルコトヲ禁ジテ工務官ヲ必ズ通ゼシムルコトトスルヘ却テユキスギナリ、

造船等ノ「ネック」トナリ居ル引拔鋼管ヲ生産シツツアル鞍山ノ滿洲住友工場ガ苦力三百人不足ノ爲ニ施設ノ百%利用不能ニテ午後五時ニ終業シ居ルガ如キハ現下寔ニ由々敷コトニシテ業者ノ認識ヲ改メシムベキナルト共ニ工務官制度ノ活用等ニヨリ早期ニ手ヲウツノ必要ヲ痛感ス

滿洲ニモ統制會ハ存在スルモ協和會本會議ニ於ケル古海次長ノ演說ニアル如ク權限ヲモタズ諮詢機關ニスギズ滿鐵ノ地位ニ付テハ近來若干ノ變遷アリ、曾テハ滿鐵社員會ガ國士氣取ニテ政府ノ施策ヲ批判スル如キコトアリタル爲カ滿鐵ノ滿洲產業上ニ占ムル地位ハ相對的ニ低下スル傾向アリタルガ近來一業一社主義ノ拋棄即チ能率ニ應ジテ仕事ヲサストノ方針ノ採用ニヨリ若干ノ事業ニ於テハ實力ヲ認メラレテ再ビ抬頭シツツアルモノノ如シ、

M-0396
0455
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

協和會ヲ政府ノ外圍タル宣傳宣撫乃至精動化ノ機關ト化シ去リ、且官僚化セル爲建國精神ヲ体得シテ之ヲ具現スルノ意氣込ニ缺ルモノアリトノ非難アリ同會ノ參事副參事ニハ役人ノ二三流ガ入リ地方ノ事務長ハ護民官式ノモノトナリ中央ニハ依頼シ居ラズ、（縣ノ縣長及副縣長ヲ現在地方ノ協和會組織ノ頭株ナラシ、其ノ下ニ事務長ガ位シ、曾テ專務長ガ頭ナリシトハ事情ヲ異ラス）尚白系露人ガ大東亞戰勃發後祖國愛ニメザメツツアルコトハ民族對策上注意ヲ要スル事項ナリ

(三) 蒙疆及支那

(1) 蒙疆ハ外蒙ト相對スル關係ニ於テ特殊ノ地位ヲ有ス、「ノモンハン」事件以來外蒙ハ內蒙トノ接壤地帶ノ四部ヲ編成ニテ自己ノ有ト化シ且我方ノ情勢ヲ觀察メントツツアリ、外蒙內ノ施策ハ敎育ノ普及及牧野ノ改良ニ重點ヲ置キ相當ノ成果ヲ擧ゲ居ルモノノ如シ蒙疆ニテハ「ラマ」ノ還俗ヲ行ヒ居ルモ活佛ハ

自己ノ勢力ノ後サルルヲ感ジ「外蒙ハ赤ナルガ內蒙ハ黑ナリ」ナド下「デマ」ヲトバシテ反對ス

蒙疆ノ蒙古人ハ大部分熱河蒙古人ニシテ出稼人ナル爲漢人化シ居リ、且漢人ノ勢力過キ地帶ナリ

蒙古軍ハ現在五千人ニ達シタルガ之ガ養成ハ中々ノ大事ナリ

(2) 北支

北支ハ重要ナル割ニ供給物資多キコトヨリシテ日本ノ要請ニ敏感ナルノミナラズ日本側官憲ハ困難ナル情勢ニ到處シテ機敏ニ到處シツツアリ、蒙疆ノ三頭政治ト著シキ對照ヲナス、但シ大使館ノ支那駐屯軍ハ濱充頭化ノ要アルベシ

(3) 中支

中支ハ中心ガ南京、上海ニ分シ且機構復雜ナルトヨリ北支トハ經濟上若干異リタル性格ヲ有スル處支那各地域ヲ綜合シ且軍事政治經濟ヲ綜合セル高キ立場ニテ方針ノ決定及實施ニ當ルノ心得ヲ要スベシ、上海大使館ニ於テハ例カル狀勢ニ鑑ミ參謀本部的機構ヲ置クノ必要アリ

M-0396
0456
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

極秘

電信寫

M12.2.014

昭和一五三三三 暗

北京 一月二十九日一九〇〇発
本省 二十九日二〇五〇着

大東亜省

文總

王言

青不大東亜大臣

第四一一號

（山本次官一行北京滯在中ノ件）

貴電合第二一三號ニ關シ

一、山本次官一行ノ當地滯在ハ予定ノ如ク一同速ニ御來京ヲ待チアリ

二、此ノ機會ヲ利用シ當方關係當局ト緊密ニ懇談シ自發的ニ能率增進ニ努力セシメアル關係上可及的各方面ノ視察（北京ニ於テ机上視察ヲ含

（規格—15 東京 1209）

M-0396

0457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

電信寫

大東亞省

ミ）ヲナシ得ル如ク御盡頂度
三、右趣旨ニ付貴電參携行ノ上連絡ノ爲係官ヲ出頭セシム
ル、上海、張家口ニ於テモ同樣セリ

（規格—15 東東 1209）

M-0396

0458

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan